G-ARMOR

E.F.S.F. PROTOTYPE TACTICAL SUPPORT FIGHTER
RX-78 GUNDAM+G-FIGHTE REALTYPE COLOR



1/100 scale MASTER GRADE G-AR REALT COLOR

MG MASTER GRADE

地球連邦軍
試作型戦術支援メカ
Gアーマー リアルタイプカラー
1/100スケール マスターグレードモデル

BANDAI

BANDAI 2009 MADE IN JAPAN
※写真の完成品は、塗装してあります。
0158763

地球連邦軍MS開発経緯

G-P.A.R.T.S.プロジェクト

“G-P.A.R.T.S.（Gパーツ）”プロジェクトとは、G-P.A.R.T.S.=【G-Practical Advanced Research for Tactical System=（ガンダムを中核とする）戦術システムのための実用的先端研究】を意味しているとされる。

Gパーツは、オデッサ作戦に先立ってWB（ホワイトベース）部隊への追加装備として配備されたガンダム専用のパワーアップパーツであると同時に重戦闘機でもある。WBには2機が制式配備され、様々な戦況に応じて運用された。Gパーツは単独で“Gファイター”と呼ばれる戦闘機を構成し、ガンダムと連携したS.F.S.（Sub Flight System=補助飛行装備）として立体的な戦闘能力をガンダムに付与する。また、ガンダムの各パーツと相互に組み合わせる事で様々なモードに形態を変え、さらに多様な戦術に対応する事が可能である。最も多用されたのは、Gファイターを前後に分割してガンダムをはさみこむようにドッキングした“Gアーマー”と呼ばれる形態で、ガンダムそのものを高速で前線に搬送する機能を持つほか、ガンダム本体のエネルギーゲインを援用することで、メガ粒子砲の連射やMA（モビル・アーマー）なみの高速戦闘が可能となる。

“Gパーツ”とは、本来はパーツそのものを差す名称ではなく、F.S.W.S.（Full-armor System & Weapon System=装甲および武装強化システム）などと同様、MS=ガンダムの兵器としての発展を模索する包括的な研究全般を意味する。ただし、実際に運用していたWB部隊においても本来の意味でそう呼ばれることはほとんど無かったようで、ましてや“部品”と同じ綴りであるため、慣用句としてそれぞれのモジュールを指す意味で使われていた。ガンダム自体、上半身をA（Armament=武装）パーツ、下半身をB（Bottom=下部）パーツ、コア・ファイターをC（Core=核）パーツと呼んでおり、Gメカの前部をA（Armament=武装）パーツ、後部をB（Booster=推進力増強）パーツと呼ぶのはむしろ自然なことであったと言えるだろう。


■Gアーマー


■Gファイター


■Gスカイ


■Gスカイ・イージー


■ガンダム高機動型


■Gブル・イージー


■Gブル

G-P.A.R.T.S.に携わっていた技術者たちは、“ガンダム”の更なる発展を志向していたが、連邦軍は「標準的なMSの早期適正配備」を最優先課題として要請していた。しかし、公国軍の新型MSの開発サイクルが急激に早まったことと、WB部隊の“囮部隊（いわゆるモルモット）”としての運用が決定したことを受けて、MS単機のパワーアップが検討されることとなった。ガンダムは、元々RXモビルスーツの粋を凝らしたハイエンド機だったこともあり、C.F.V.（Core Fighter Variation）開発計画ともリンクする遠大な構想が当初から立案されていた。その一部を実現させたのが、Gメカを含む“ガンダム・システム”なのである。これは、コア・ブロックを最小単位とする機動兵器の総合体系であり、陸、海、空、宇宙の各環境においてMSの適応進化を図ると言うものであった。すでにザクの各種バリエーションが地球環境に適応拡散を果たしていたが、機体全体の改造や調整を必要とするバリエーションをその都度調達する時間的な余裕は連邦軍には無く、また、既存の航空機や戦闘車両との置き換えや代替にMSを運用する際のノウハウの蓄積も必要であったため、MSが持つ能力の各要素そのものを分割して運用するという手法が採用された。強力な火力を持つ大型砲や無限軌道（キャタピラ）など、RXシリーズの他の機体の各要素がGメカに分散して装備されているのもそのためなのである。

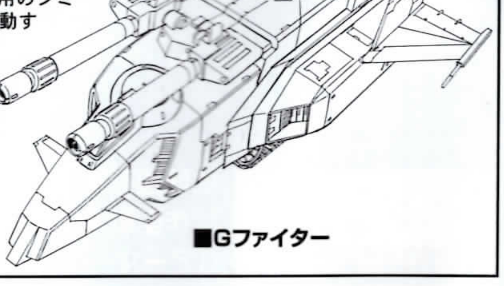
G-P.A.R.T.S.プロジェクトの成果

“V作戦”は、“G-P.A.R.T.S.プロジェクト”の他、“F.S.W.S.”や“C.F.V.”などの開発計画を内包しつつ発展した。これらの研究成果としては、“Gメカ”以外にも“コア・ブースター”や“バスト・ライナー”などが知られている。

連邦軍が持つ総合的な工業力は驚異的であった。コア・ファイターを文字通り“核（コア）”とする機体制御システムは、追加装備された躯体や四肢、装甲などを認識して稼働プログラムにフィードバックする。“ガンダム”が搭載するフルスペックの“教育型コンピューター”によって得られたデータは、それらの“稼働状況”に最適なドライブアーキテクチャを自動生成し、更なる機能進化を数値として構築する。それが連邦軍の各担当部署によって共有されるのだ。無論、コンピューターが自ら設計図を引く訳ではないが、実働データのフィードバックは迅速に行われた。

例えば、コア・ブースターを大気圏内専用機として再設計されたと言われるジェット・コア・ブースターの実戦投入が確認された時期は、GメカがWBに配備された時期とほぼ同じでチベット上空で目撃されている。

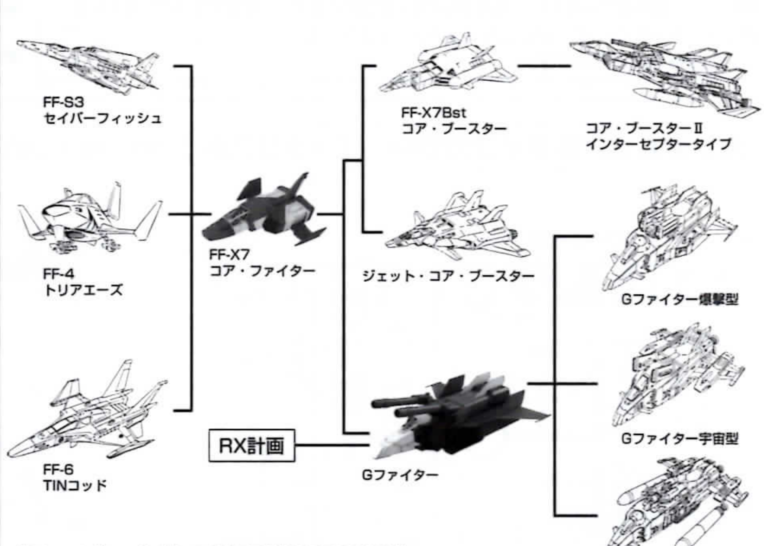
更に最も近い仕様であるGスカイ・イージーが初めて実戦に投入されたのも、同機の配備とほぼ同時期だったようだ。この時点で、山稜の形状を変えるほどの火力を持つジェット・コア・ブースターが東南アジア方面軍には配備されていたのだ。コア・ブースターの原型機開発そのものが“Gメカ”より優先されていたとしても、この開発速度は異常である。すなわち、実際に建造されたGメカは、WBに配備された（予備パーツを含む）2機のみではないと考える事も不可能ではない。実際、リファレンスMSである“ガンダム”自体、サイド7で複数機がトライアルを行っていた。V作戦全体で見れば、先行量産型などを除く“ガンダム”として一年戦争期に開発された機体の仕様は相当数に上るとする資料も存在するのだ。そもそも、ジャブローの特殊兵器プラントが備える設計製造支援システムは、実戦データを即座にフィードバックして、戦況や条件を変更した上でシミュレートする事が可能だった。すなわち、パイロット養成用のシミュレーターと連動する事で、アムロ・レイが体験した実戦を経験できるのみならず、兵装の強化や機体の改造を施した上でエミュレートできるのだ。


■Gファイター

G-MECHA 開発経緯

Background of the development

“Gメカ”とは、Gファイターを構成するそれぞれのモジュールを差すのみならず、G-MECHA=【G-Multiple Expansion of Changeable Armaments=（ガンダム用）多目的拡張可変武装（群）】を意味するとされる。



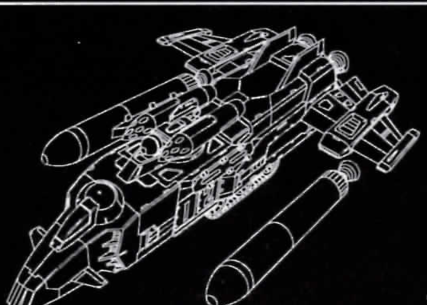
《ハービック社の戦闘機開発系譜》

連邦軍におけるMSの基礎研究は、“RX計画”によってある程度進展してはいたものの、戦争勃発以前にその必要性はほとんど顧みられる事はなく、開戦後に急遽立案された“V作戦”にしても、最終的には、試作機を実戦投入しつつ研究を進めると言う泥縄的なものであった。ただし、“V作戦”実施後も、“RX計画”の本質である「MSの開発とその対抗措置を含む基礎研究」は放棄された訳ではなく、軍属の一部や研究者個人によってそれぞれ継続されていたのである。連邦軍が開発した試作MS“ガンダム”は、その装甲強度や武装の威力などのスペック面においてジオン公国軍のMSザクを圧倒していたが、地上での運用においては同様の問題も抱えていた。すなわち、移動能力の低さである。それを補うため、ガンダムを支援するサポートメカとして開発されたのが「Gメカ（Gパーツ）」である。MS単独での移動能力の低さそのものは“RX計画”の発動当時から指摘されていたが、移送に関してはガンペリーで対応可能と考えられていた。しかし、ガンペリーの防御能力は脆弱で、さらには揚陸機としての火力不足も指摘されていた。また、ガンダムの実戦投入によって、その他の様々な問題も浮き彫りにされていった。発動時点では万全と思われていたV作戦ではあったが、更なる改善の余地があることが判明していたのである。

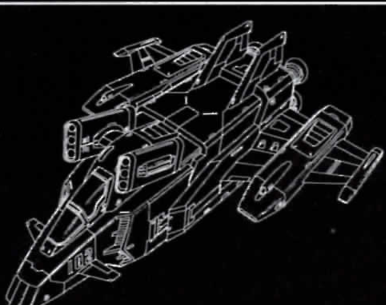
U.C.0079年9月18日。ガンダムとWBが実戦投入された。当初、連邦軍では、機密事項そのものであるガンダムとWBが敵の手に落ちる前に“処分”すべしとの意見も強かったと言われている。しかしその状況は、敵に鹵獲される危険性がある反面、実戦によるトライアルには願ってもない条件が揃っていた。“正規の職業軍人による運用ではない”という問題点はあったものの、現実的には援軍すら派遣されない孤立無援の状態であるにも関わらず、彼らは嚇々たる戦果を上げ続けている。であるならば、むしろこれを奇貨として活用すべきではないのか。連邦軍を実質的に掌管するレビル将軍の強い意向によって、実験部隊としての性格を付与されたWB部隊は、“V作戦”を更に拡張した開発計画の一環として運用されることとなったのである。“V作戦”は、MSの開発量産と、その運用母艦となる強襲揚陸艦の開発建造を行い、同時にその戦術システムを含む兵器体系の創出をも視野に入れた空前絶後の大プロジェクトである。“G-P.A.R.T.S.プロジェクト”は、V作戦の実効性を検証する手段であり、また目的ともなったのである。つまり、“主に”ガンダムを強化する目的で開発されたGメカ以外にも、G-P.A.R.T.S.に連動するプロジェクトによって、多くの支援航空／航宙機や輸送舟艇などが開発されていたのである。なかでも主導的な立場にあったのが、多数の航空／航宙機を連邦軍に供給していたハービック社であった。同社は「RX計画」にも当初より参画し、各種の素案に対し実現可能なロードマップを策定。連邦軍の要求を整理集約し、計画の“核”となるコア・ブロック・システムを確立。後に「V作戦」の要諦となる“開発と試作の並立”を可能とした。と同時に、MSの基層技術に得意分野の“航空機的アプローチ”を織り込む事にも成功する。連邦製MSが航空機的アーキテクチャを持つのはこのためで、MSに“飛行／飛翔”能力を付与するという、至極当然の発想に行き着く。“ガンダム”のパワーアップの指標が作戦行動半径の拡張と展開速度の向上にあったことは言うまでもない。また、コア・ファイターそのものの強化プランとして、Gスカイ／イージーを参考にコア・ブースターおよびそのバリエーション機を開発する。ハービック社はこの実績を背景に設備投資を繰り返し、ジャブローに匹敵する設計製造システムを導入。コア・ファイターのみならず、Gパーツのバリエーション化にも着手したのだった。

MSV-R

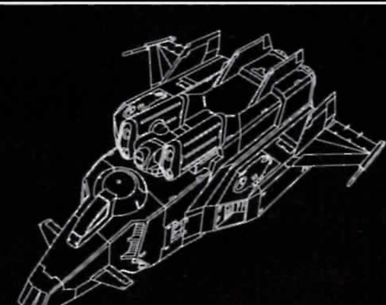
Mobile Suit Variation-R



■Gファイター強襲揚陸型



■Gファイター宇宙型



■Gファイター爆撃型

Gパーツによって構成されるGファイターは、“ガンダム”を積載したまま戦闘速度で飛行することができる。このペイロード（積載能力）に着目した連邦軍は、“Gファイター専用兵装”の開発を命じ、Gメカの構造規格に準じた各種の火器や制御、管制・制御装備のオプションユニットなどが開発されることとなった。それらは、ミサイルポッドやビーム砲の補助デバイスからタンデム用のコクピットユニットなどに及び、MSのドッカブルを考慮しない、航空／航宙兵器としての可能性を模索する大規模なプロジェクトへと発展していった。まさにハービック社の面目躍如といったところだろう。その結果いくつかの制式採用検討のため仕様が策定され、強襲揚陸型、宇宙型、爆撃型の3種類が試作されたといわれている。強襲揚陸型は、ペイロード内に兵員輸送用のコンテナを内装、側面には各種兵装を装着可能で、文字通り、白兵戦に対応した制圧部隊の武装歩兵上陸用舟艇としての運用が想定されている。宇宙型は、ミサイルランチャーとメガ粒子砲を装備しており、ペイロードはプロペラントタンクおよびウェポンベイを内蔵している。爆撃型は武装変更型とも呼ばれ、原型機との相違点は、ミサイルランチャーとマウント式バルカンポッドの装備などで、Gアーマーとしての運用も可能であったようだ。ちなみに、“Gファイター宇宙型”は、準ホワイトベース級一番艦のサラブレッドに配備予定であったとする資料もあり、実際の生産数は16機で、その内6機が実戦投入されたとする資料もあるコア・ブースターと同様に、いわゆる「Gファイターバリエーション」計画もまた、予想以上に進展していたと考える事もできるだろう。

⚠ 注　意

必ずお読みください

- ●この商品の対象年齢は15才以上です。〈鋭い部品がありますので、安全上15才未満には適しません。〉
- ●小さな部品があります。口の中には絶対に入れないでください。窒息などの危険があります。
- ●ビニール袋を頭から被ったり、顔を覆ったりしないでください。窒息する恐れがあります。
- ●小さなお子様のいるご家庭では、お子様の手の届かないところへ保管し、お子様には絶対に与えないでください。

〈組み立てる時の注意〉

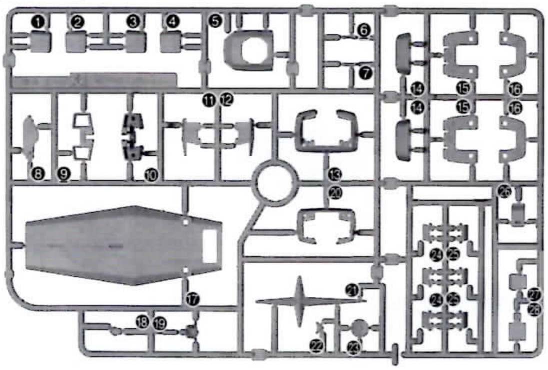
- ●組み立てる前に説明書をよく読みましょう。
- ●部品は番号を確かめ、ニッパーなどできれいに切り取りましょう。切り取った後のクズは捨ててください。
- ●部品の加工の際の刃物、工具、塗料、接着剤などのご使用にあたっては、それぞれの取扱説明書をよく読んで正しく使用してください。
- ●部品の中には、やむをえず、とがった所があるものもありますが、気をつけて組み立ててください。
- ●塗装にはより安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。

※ABS部分への塗装は破損する恐れがありますので、塗装はおすすめできません。

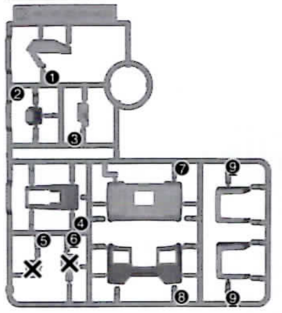
ガンダムリアルタイプカラー　パーツリスト

（✕印は使用しないパーツです。）

Aパーツ（スチロール樹脂：PS）

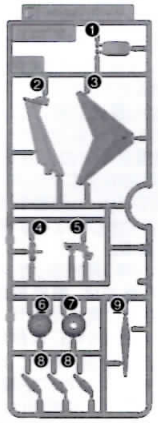


Bパーツ（スチロール樹脂：PS）

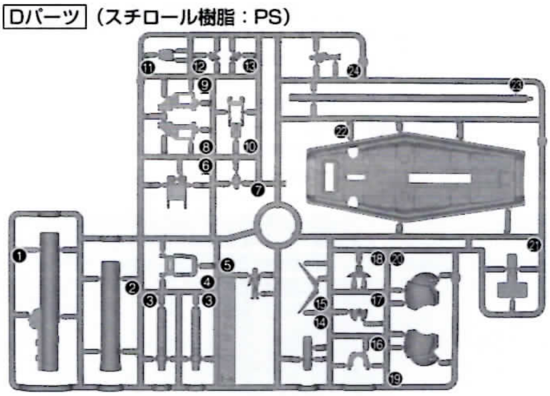


Cパーツ（スチロール樹脂：PS）

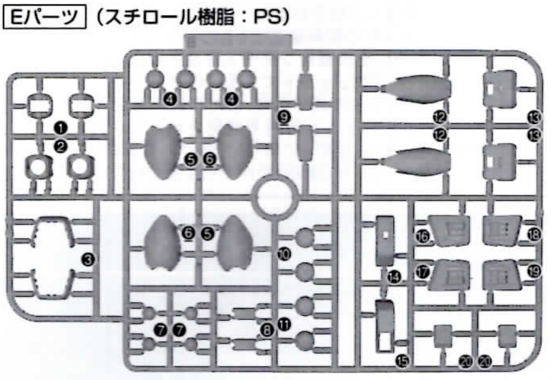
アンダーゲート有り



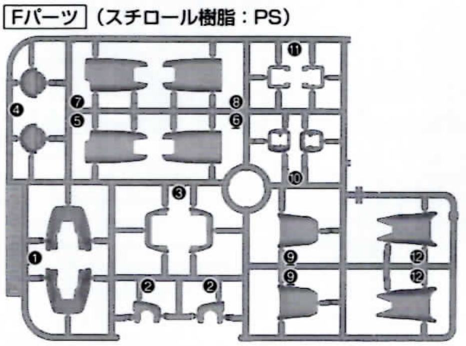
Dパーツ（スチロール樹脂：PS）



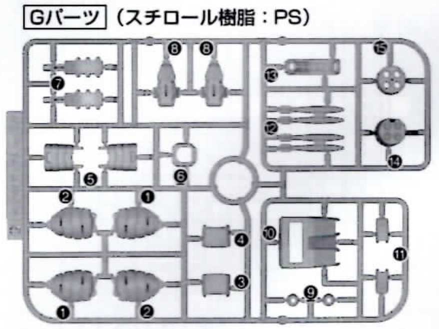
Eパーツ（スチロール樹脂：PS）



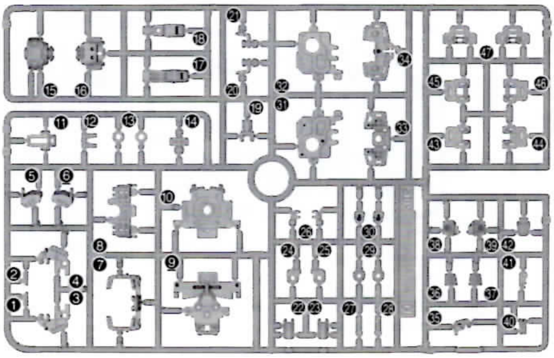
Fパーツ（スチロール樹脂：PS）



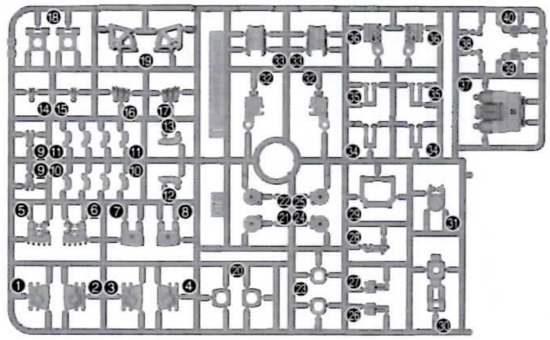
Gパーツ（スチロール樹脂：PS）



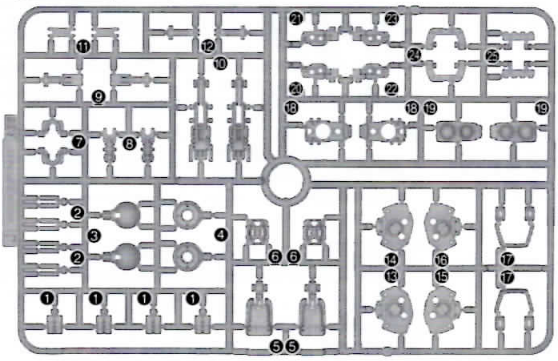
Hパーツ（ABS樹脂：ABS）



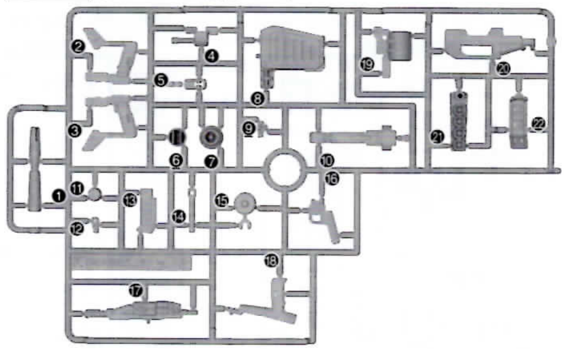
Iパーツ（ABS樹脂：ABS）



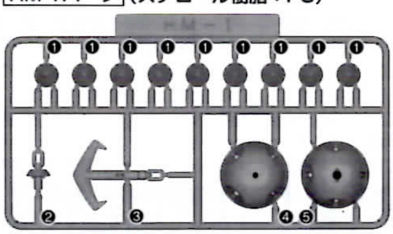
Jパーツ（ABS樹脂：ABS）



Kパーツ（スチロール樹脂：PS）



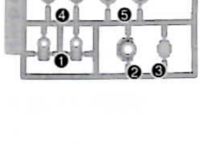
HM-1パーツ（スチロール樹脂：PS）



SB1パーツ（スチロール樹脂：PS）



PC-202パーツ
（ポリエチレン：PE）



プラチェーン1セット

プラチェーン………1本
（ポリアセタール：POM）
チェーンつなぎ……2個
（ポリアセタール：POM）

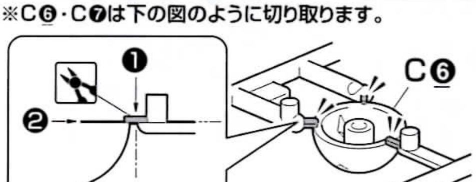
シール・デカールセット

カラーシール…………………1枚
マーキングシール……………1枚
ガンダムデカール……………1枚

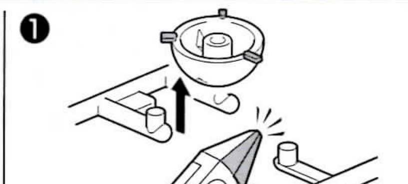
アンダーゲートの切り方

▶アンダーゲートマークの付いた部品は、下の図のようにキレイに切り取ります。

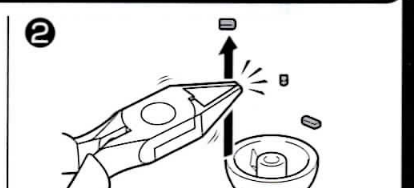
※C❻・C❼は下の図のように切り取ります。



❶



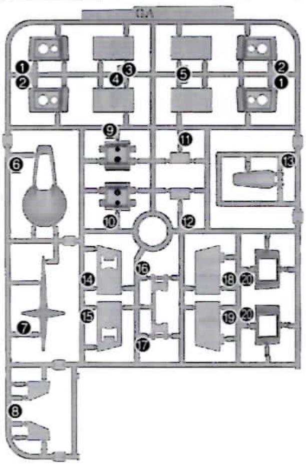
❷



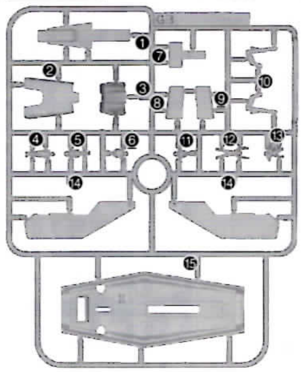
※組立図中の記号説明　切り取る部分

Gファイターリアルタイプカラー パーツリスト （✕印は使用しないパーツです。）

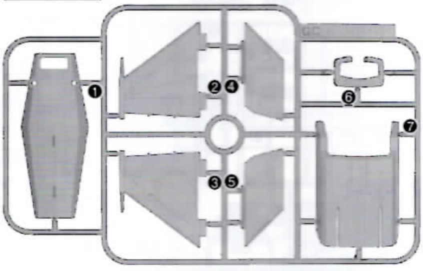
GAパーツ （スチロール樹脂：PS）



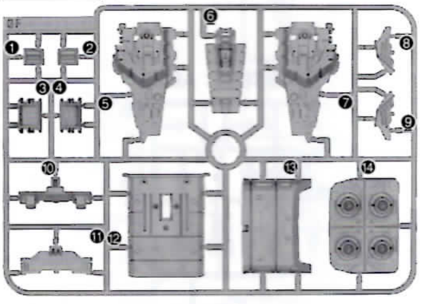
GBパーツ （スチロール樹脂：PS）



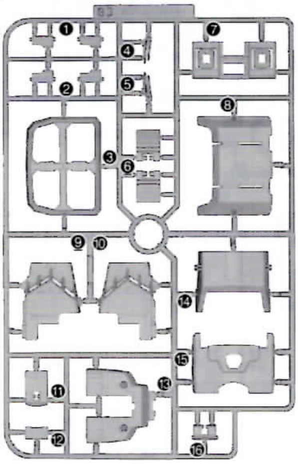
GCパーツ （スチロール樹脂：PS）



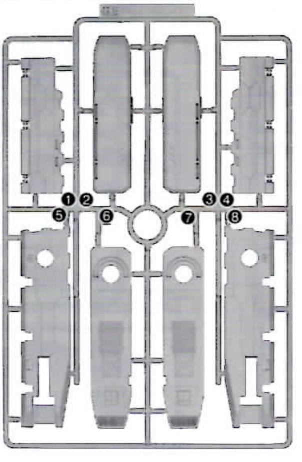
GFパーツ （スチロール樹脂：PS）



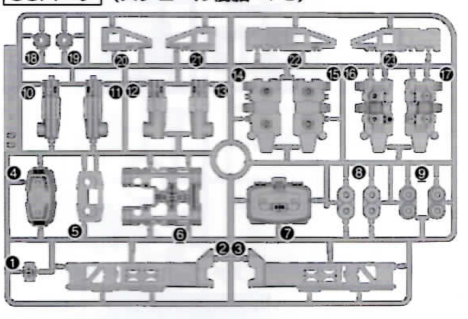
GDパーツ （スチロール樹脂：PS）



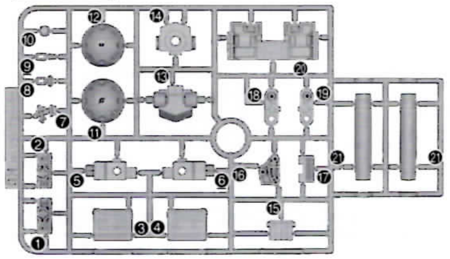
GEパーツ （スチロール樹脂：PS）



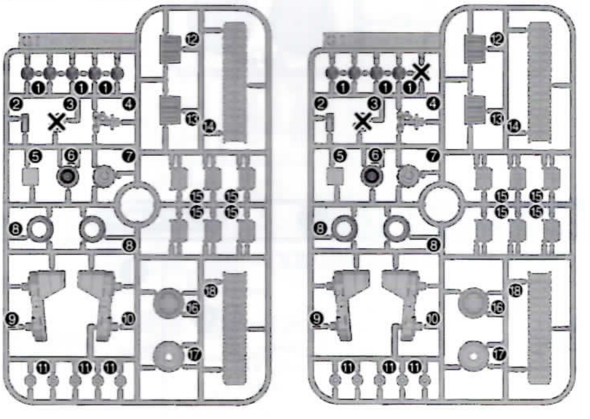
GGパーツ （スチロール樹脂：PS）



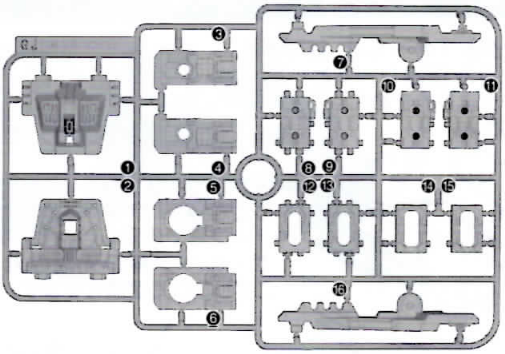
GHパーツ （スチロール樹脂：PS）



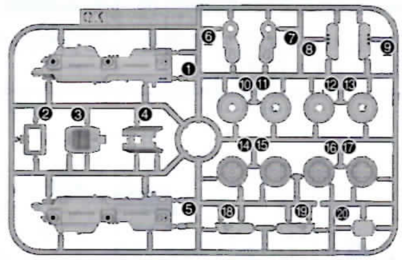
GIパーツ （×2）
（スチロール樹脂：PS）



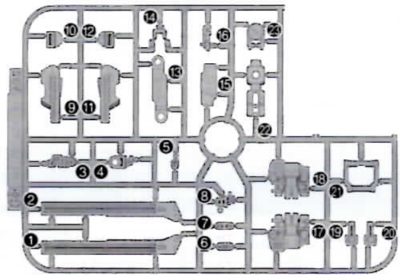
GJパーツ （スチロール樹脂：PS）



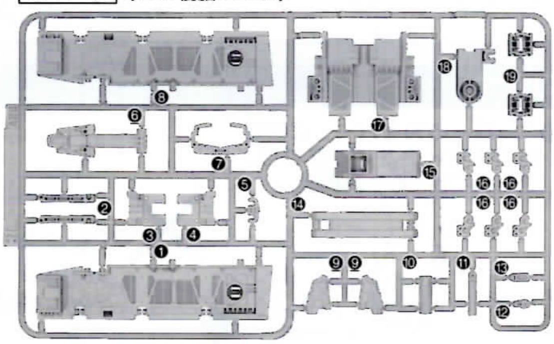
GKパーツ （スチロール樹脂：PS）



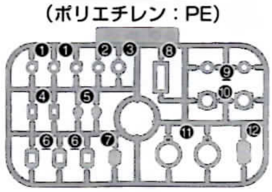
GMパーツ （ABS樹脂：ABS）



GLパーツ （ABS樹脂：ABS）



PC-203パーツ
（ポリエチレン：PE）



プラチェーン1セット

プラチェーン………1本
（ポリアセタール：POM）
チェーンつなぎ……2個
（ポリアセタール：POM）

《お買い上げのお客様へ》部品をこわしたり、なくした時は、「部品注文カード」に必要な部品の記号／番号／数量をはっきり書いて切り取り、郵便局で定額小為替をお買い求めいただき、封書（**裏面に必ず、お客様のお名前、年齢、ご住所を明記してください。**）にて下記までお申し込みください。なお、やむをえず部品注文カードをご使用できない場合には発送が遅れる場合がございます。ご了承ください。又、部品注文カードはコピー（拡大含む）での使用も可能です。代金は、料金表通りです。定額小為替は無記入（白紙）で同封してください。なお、部品の形状・重量で郵送料に過不足が生じるときがあります。部品発送の際に表記額を超える時は不足分を請求、表記額以下の時には残額をお返しいたします。また、在庫がない場合には注文をお断りする場合がございます。その際は、お送り頂きました代金（為替）を返送いたします。但し、それ以外に掛かった手数料等は、お客様負担になりますので、ご了承の程、何卒よろしくお願い致します。もし部品に不良品がございましたら、その部品を切り取り、商品名を書いて、下記まで封書にてお送りください。良品と交換させていただきます。ご記入頂きました個人情報につきましては、商品・部品の発送及び情報の提供以外には使用いたしません。部品注文の方法は、HPでもご紹介しております。詳しくはhttp://bandai-hobby.netより▶お客様へ▶相談センターのお知らせ▶「■部品が必要になったらこちらのページをご覧ください。」をご参照ください。

■申し込み先　(株)バンダイ静岡相談センター
〒420-8681 静岡県静岡市葵区長沼500-12
TEL 054-208-7520

・電話受付時間 月～金曜日
（祝日を除く）10時～16時
・電話番号はよく確かめてお間違いのないようにご注意ください。

FOR USE IN JAPAN ONLY.

部品注文カード　0158763

1/100SCALE MGシリーズ
Gアーマー リアルタイプカラー

必要な部品の記号・番号・数量をかく

●注文された理由（○で囲む）（こわした・なくした）

・日中ご連絡可能な電話番号　・**年齢**
（　　-　　-　　）（　　才）

R2028929　'09.06

2009.06/SA・ON

※コピー使用可

《Gアーマーリアルタイプカラー料金表》●部品代、送料は切り取った1個の料金です。（HM-1・SB1・PC-202パーツはランナー単位での販売です。）

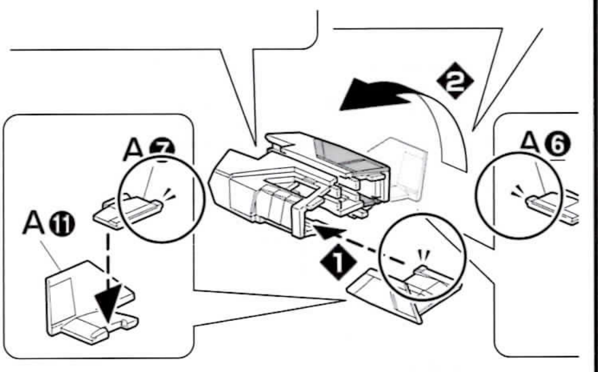
部品番号	取扱説明書	GB❸	GC❷・GC❸・GC❼・GE❷・GE❸・GE❺～GE❽ GF❺・GF❼・GF⓬・GG❷・GG❸・GL❶・GL❽	HM-1パーツ	SB1パーツ	PC-202パーツ	プラチェーンセット（1セットずつでの販売）	シール・デカールセット（セットでのみの販売）	その他
部品代	300円	60円	各100円	520円	80円	150円	各120円	180円	各60円
郵送料	200円	140円	140円	140円	120円	120円	120円	80円	120円

組み立て前の基本説明

本商品はスナップフィット仕様の為、接着剤は特に必要としません。

部品の向きに注意してください

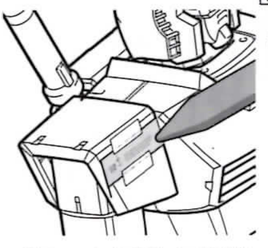
※組み立て図中に!!のついている部品は、形状や向きに注意して組み立ててください。



ガンダムデカールの貼りかた

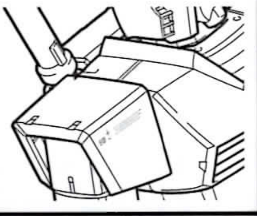
❶ガンダムデカールは、転写するマークを保護シートと一緒にマークより大きめに切り出してください。





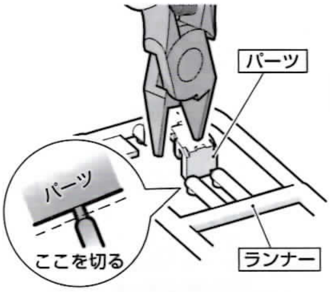
❷保護シートをはがし、貼る位置を決めてから、ずれないようにセロハンテープ等で固定し、マークの上からボールペン等の先端の丸い物でこすりつけて定着させます。

❸シートを静かにはがし、デカールが定着していない部分が残った場合はシートを元に戻し、その部分を再度こすりつけます。

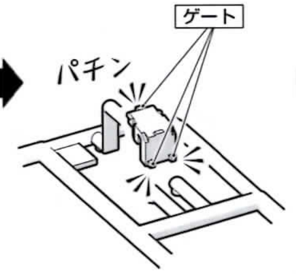


パーツの切り取りかた

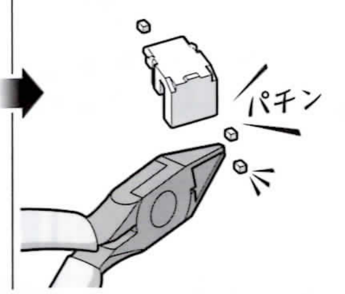
❶まず、パーツから少し離れた位置にニッパーの刃を入れて切り取ります。

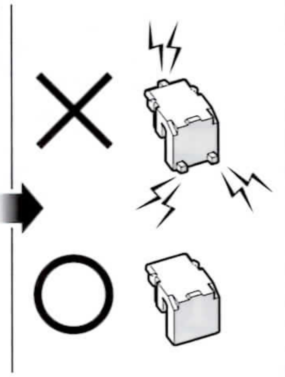


❷パーツを切り離して持ちやすくなったところでゲート跡の処理に入ります。

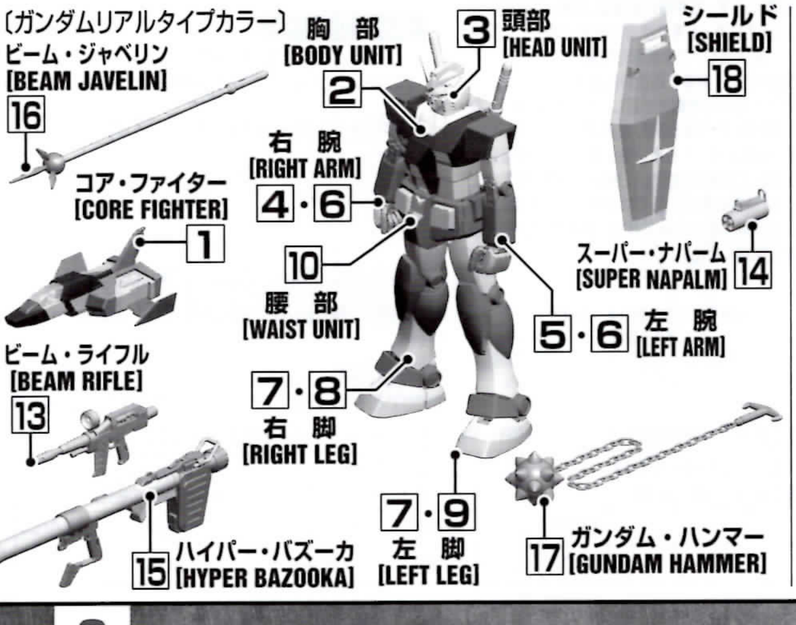


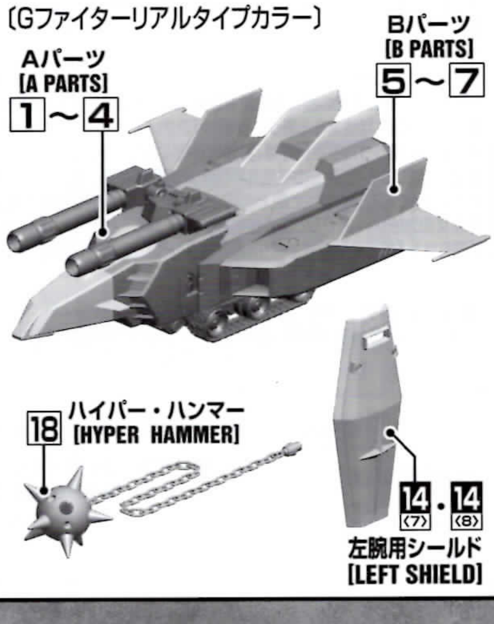
❸ニッパーの刃をパーツに密着させてゲートを切り取れば、きれいに仕上がります。





説明書をよく読んで完成させましょう



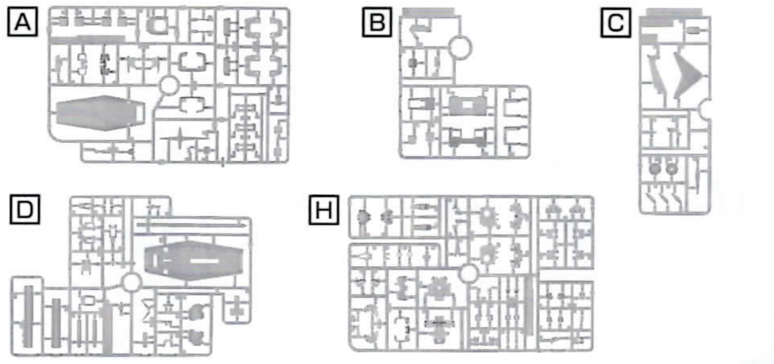


ガンダムリアルタイプカラーの組み立て

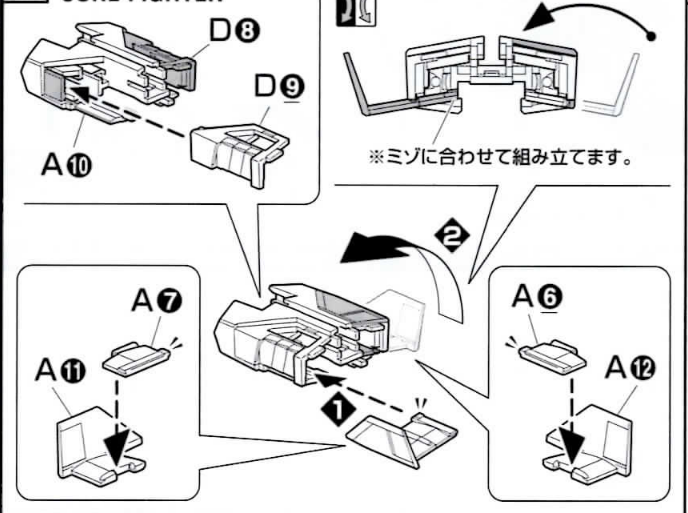
1 CORE FIGHTER



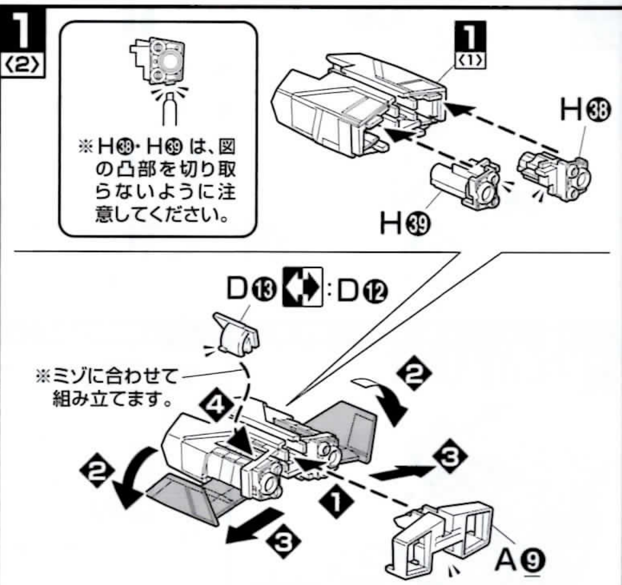
・組立 1 で使用するパーツ



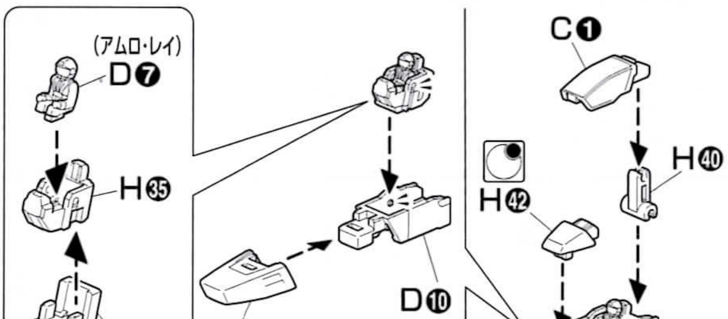
1〈1〉〔コア・ファイターの組立〕 CORE FIGHTER



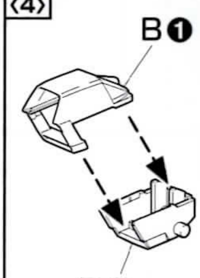
1〈2〉



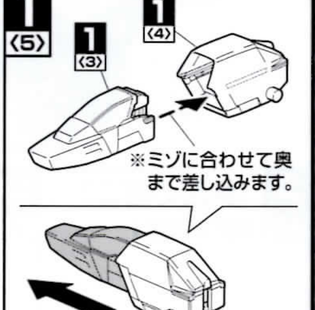
1〈3〉



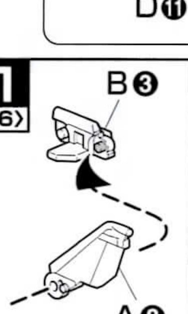
1〈4〉



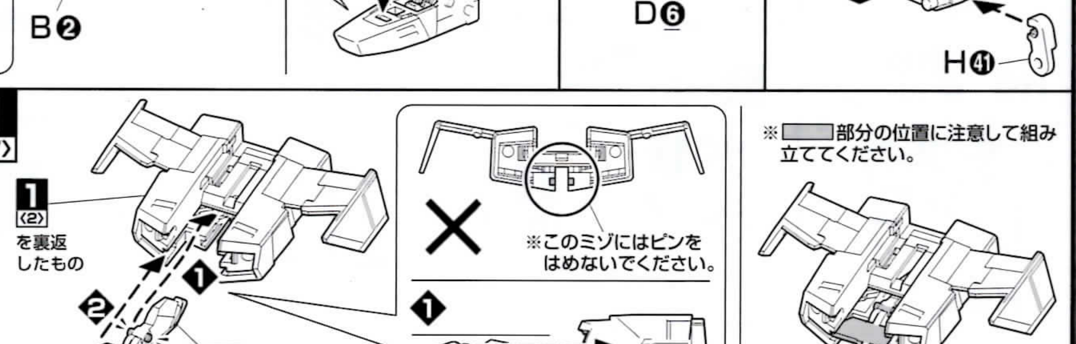
1〈5〉



1〈6〉



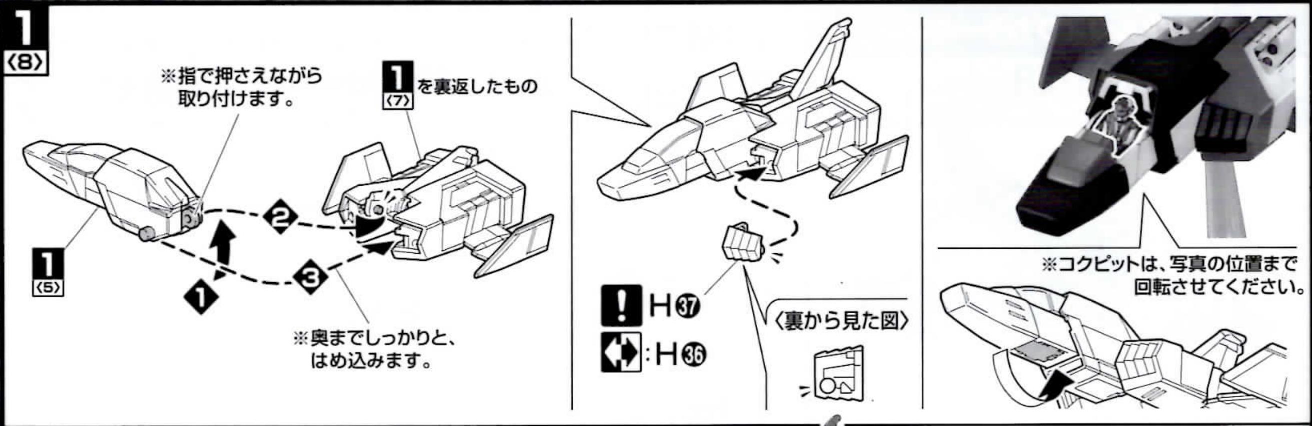
1〈7〉



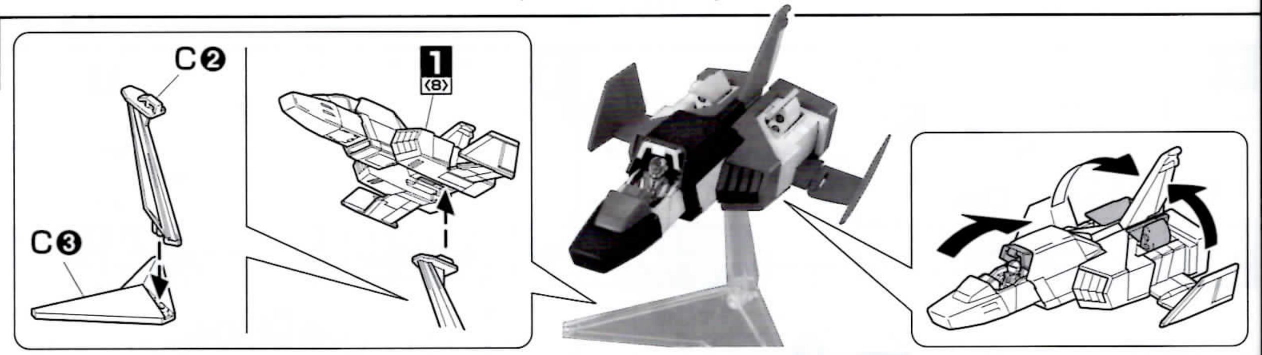
※組立図中の記号説明

反対側に取り付けるパーツ	先に組み立てる	両側を同じように動かす

1 〈8〉



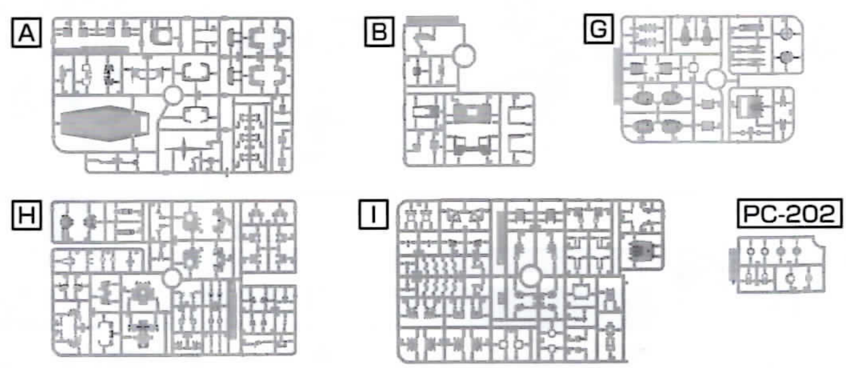
1 〈9〉



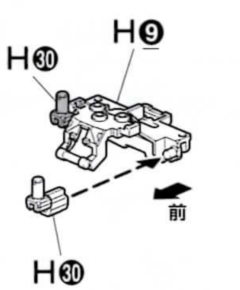
2 BODY UNIT



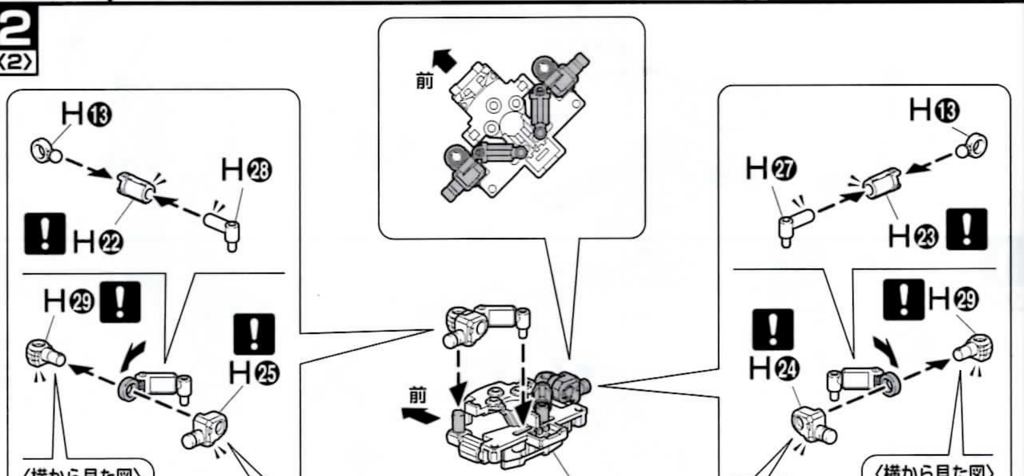
・組立2で使用するパーツ



2 〈1〉 〔胸部の組立〕 BODY UNIT



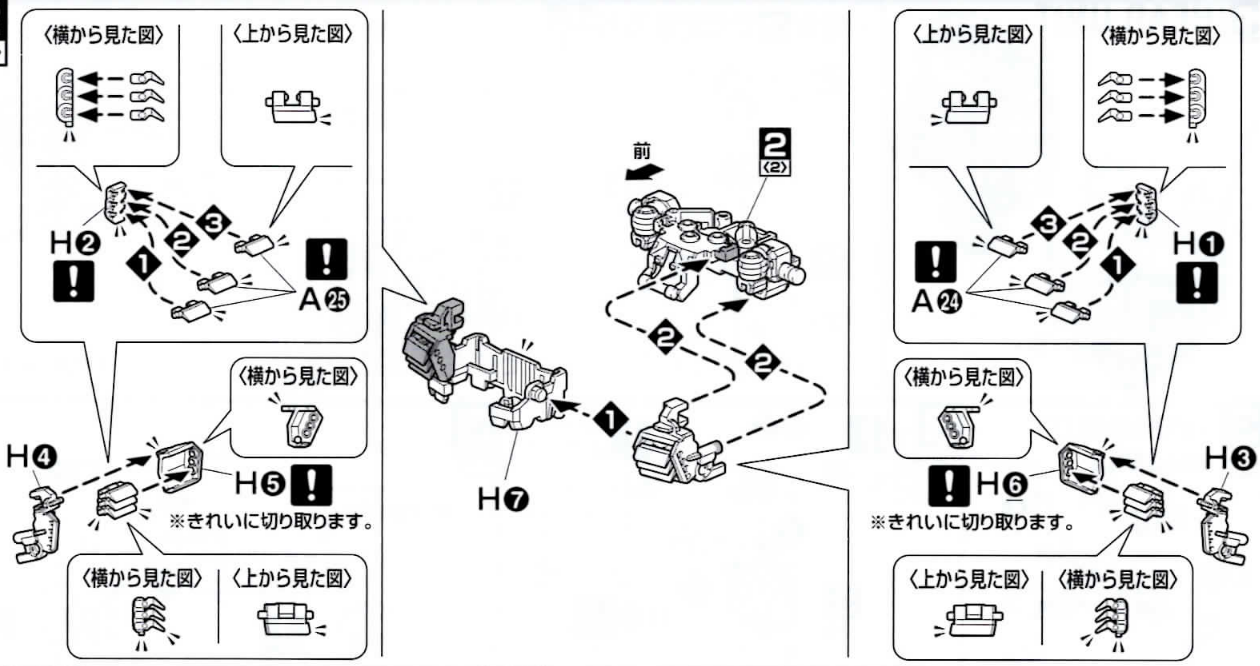
2 〈2〉



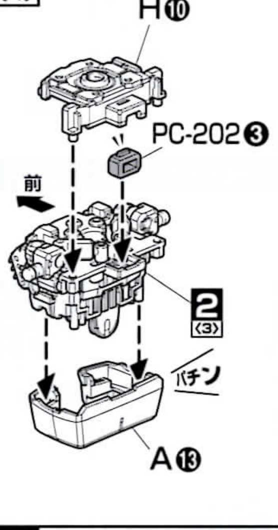
※組立図中の記号説明

!	向きに注意して組み立てる
◆	反対側に取り付けるパーツ

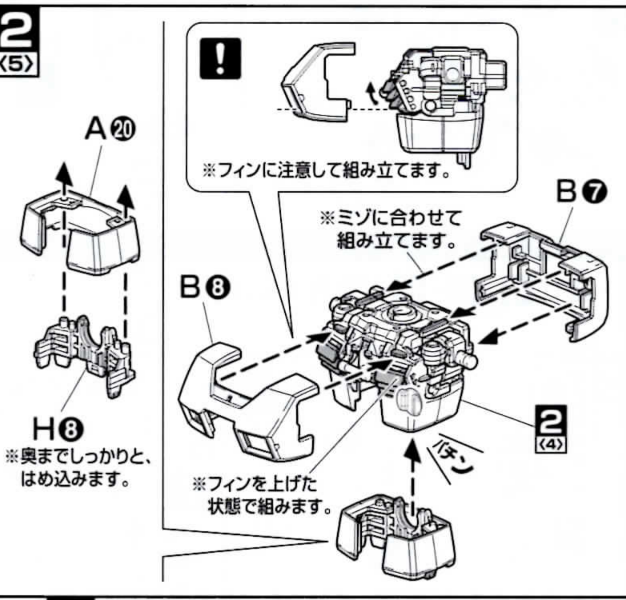
2 〈3〉



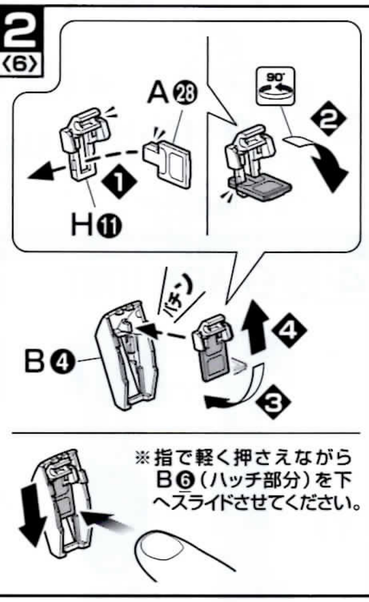
2 〈4〉



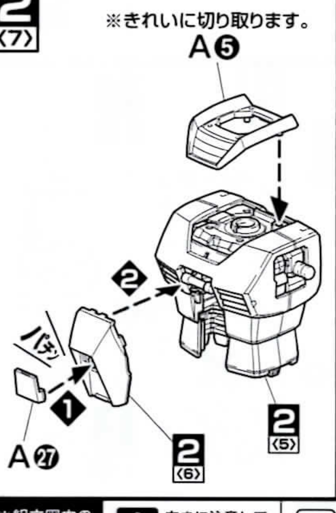
2 〈5〉



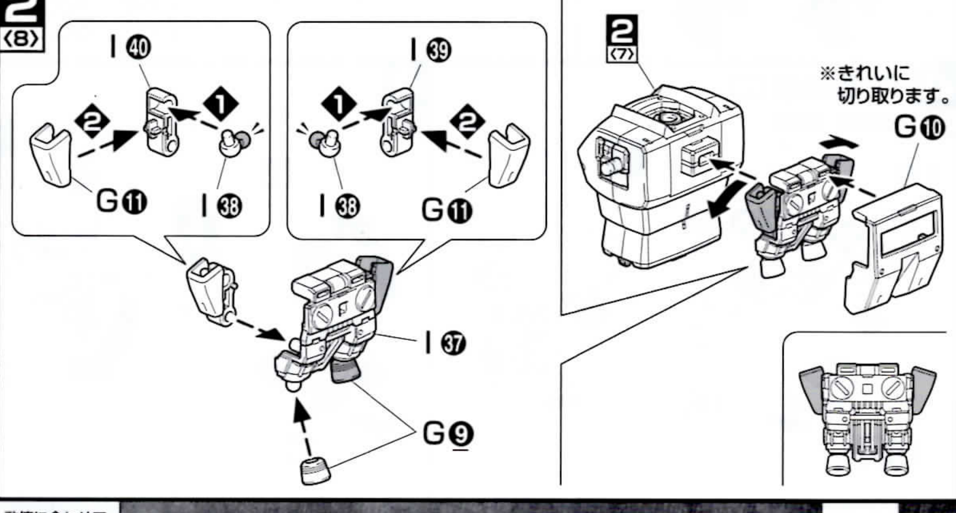
2 〈6〉



2 〈7〉



2 〈8〉



※組立図中の記号説明

!	向きに注意して組み立てる	90°	数値に合わせて回転させます。

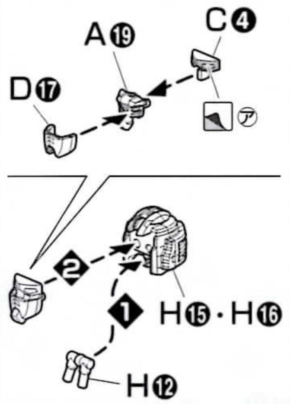
3 HEAD UNIT



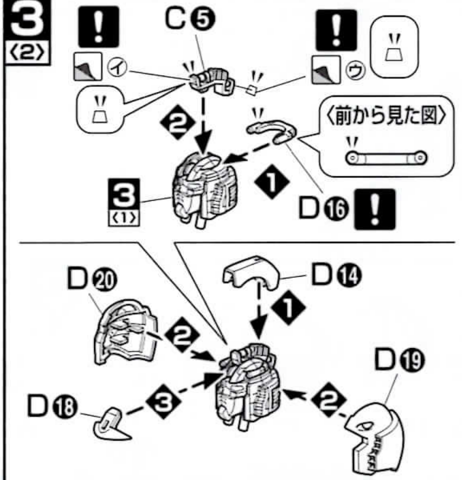
・組立3で使用するパーツ



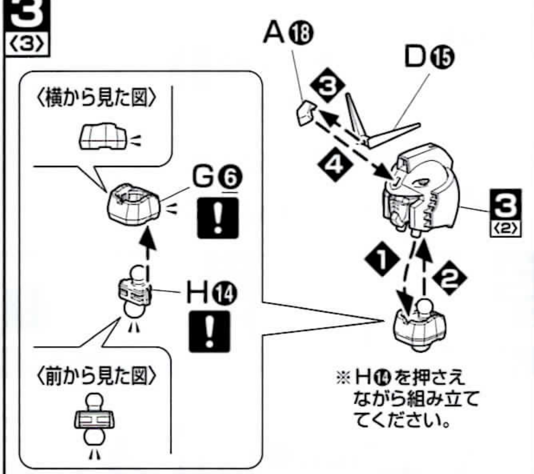
3〈1〉〔頭部の組立〕 HEAD UNIT



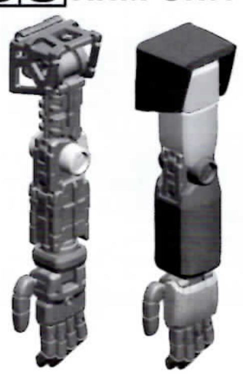
3〈2〉



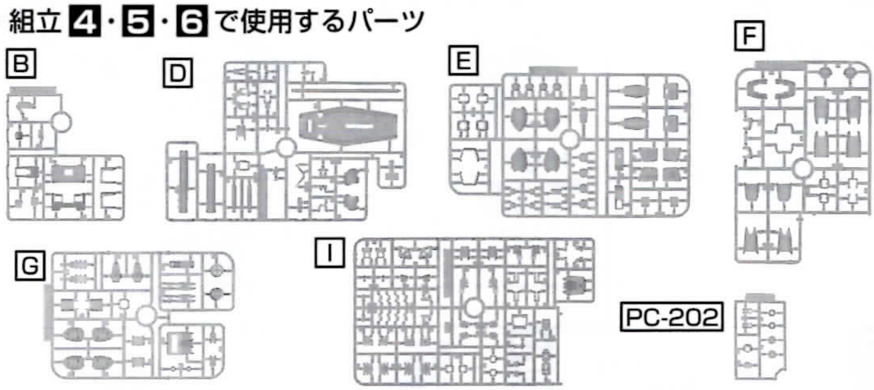
3〈3〉



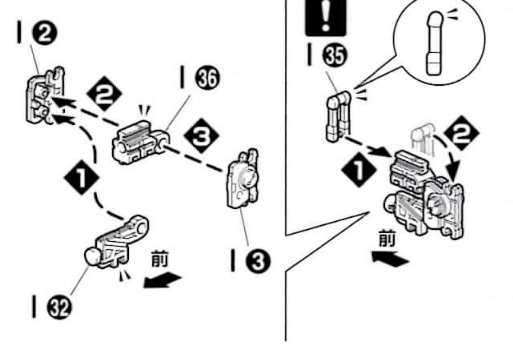
4 5 6 ARM UNIT



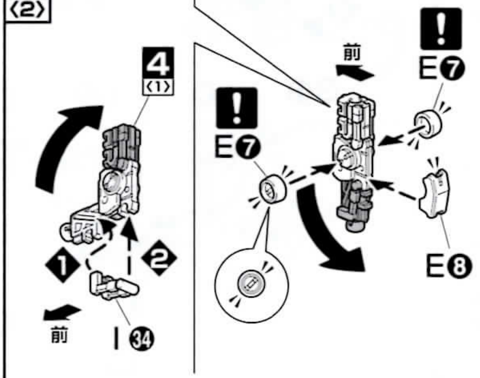
・組立4・5・6で使用するパーツ



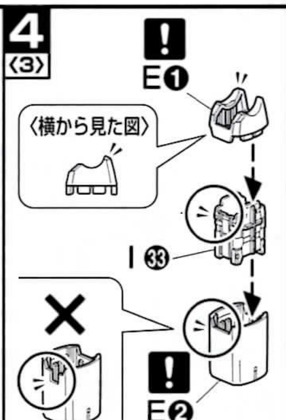
4〈1〉〔右腕の組立〕 RIGHT ARM



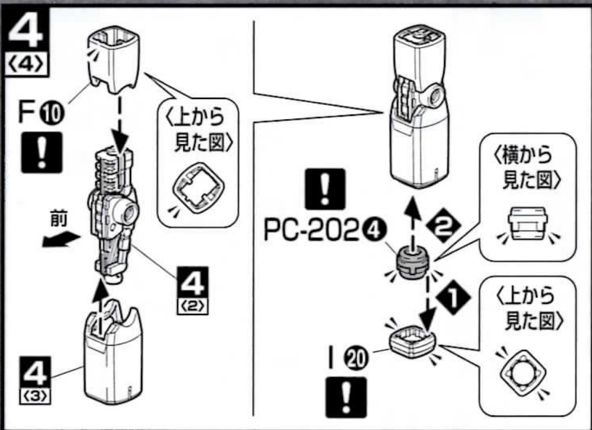
4〈2〉

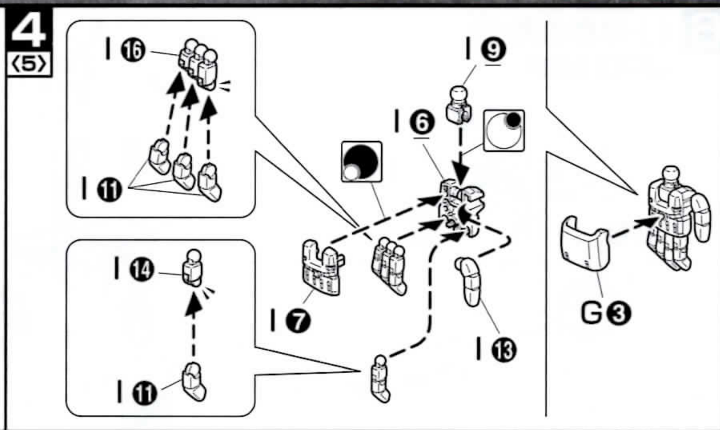


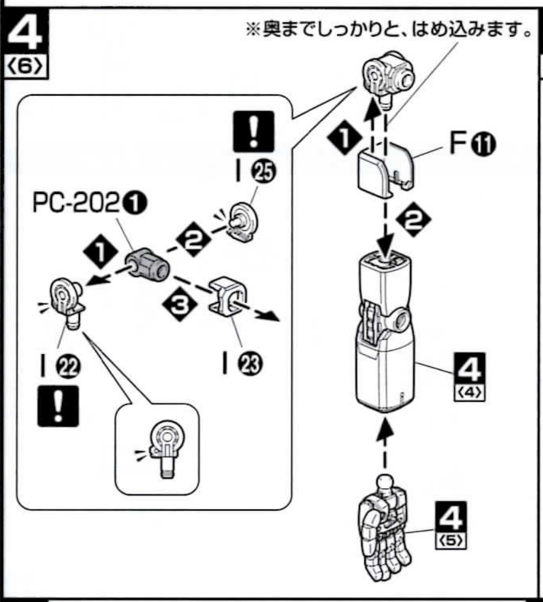
4〈3〉

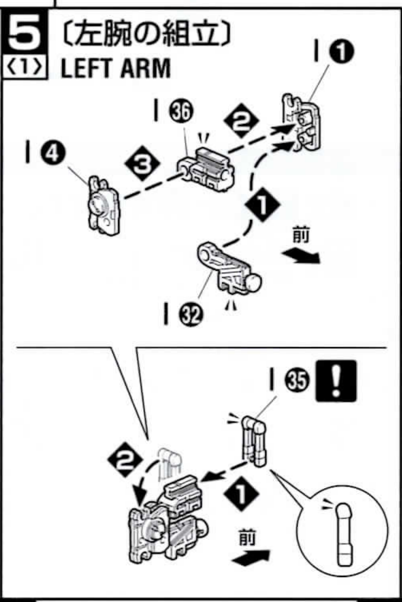


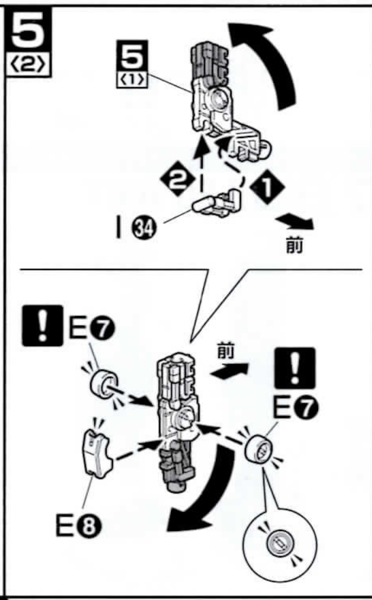
※組立図中の記号説明　ア シールの番号　! 向きに注意して組み立てる

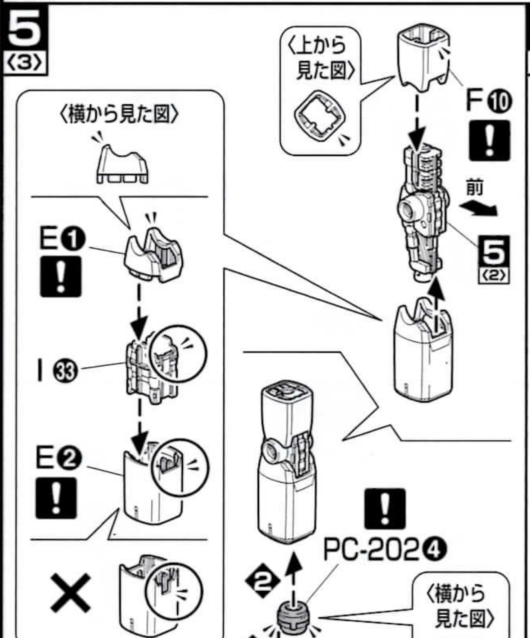


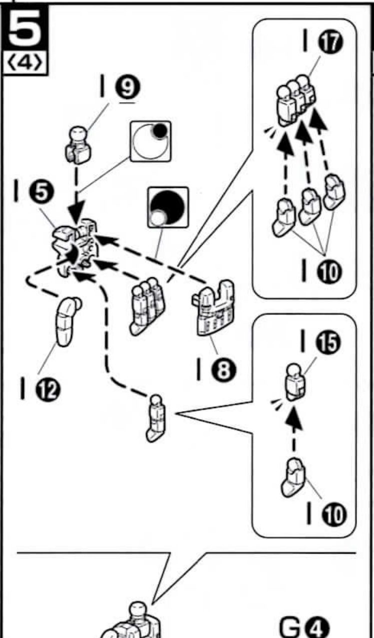


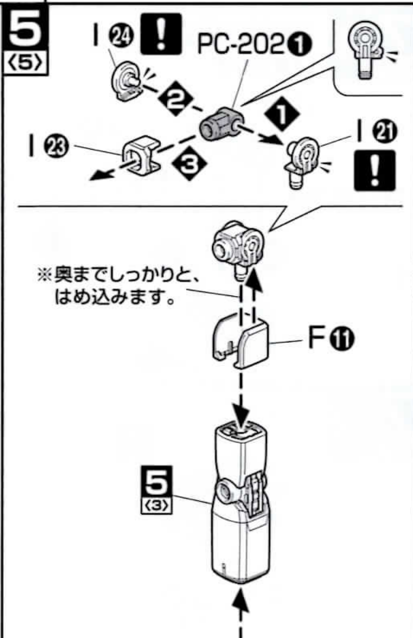








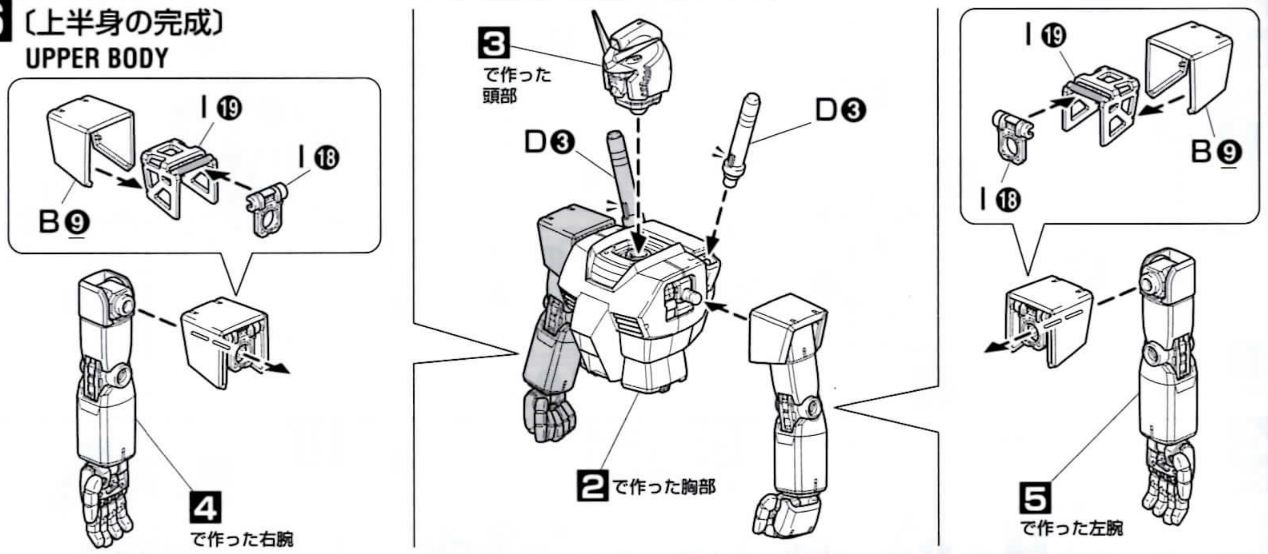




※組立図中の記号説明

記号	説明
!	向きに注意して組み立てる
○	先に組み立てる
●	後から組み立てる

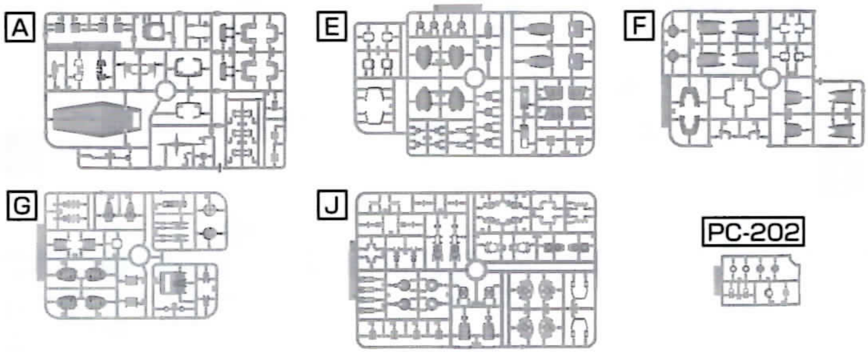
6 〔上半身の完成〕
UPPER BODY



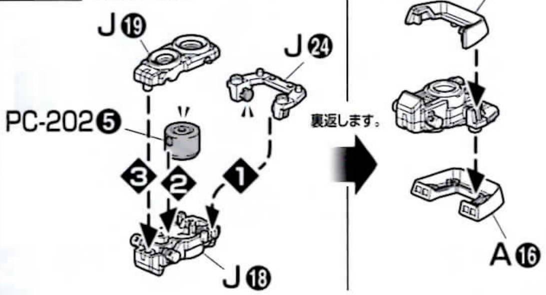
7 8 9 LEG UNIT



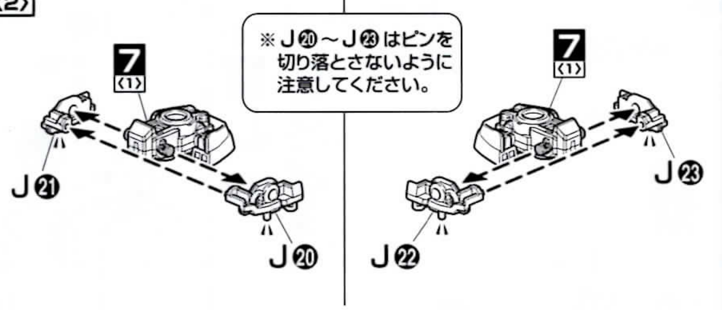
・組立 7・8・9 で使用するパーツ



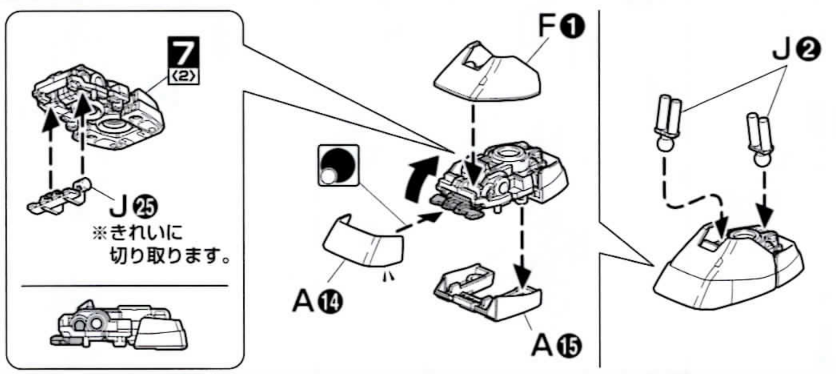
7 ×2 〈1〉 〔脚部の組立〕
LEG UNIT



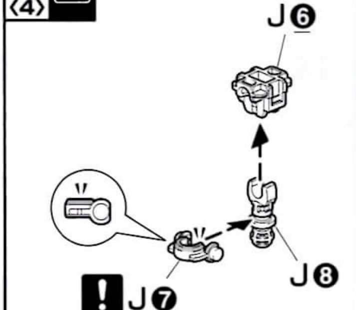
7 〈2〉



7 ×2 〈3〉

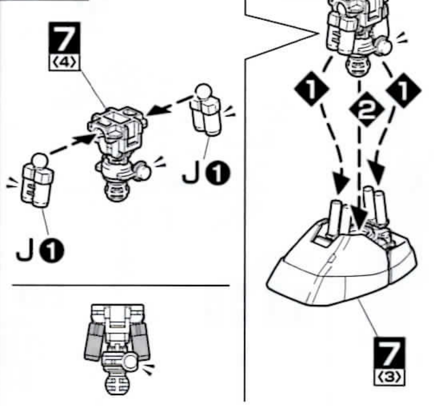


7 ×2 〈4〉

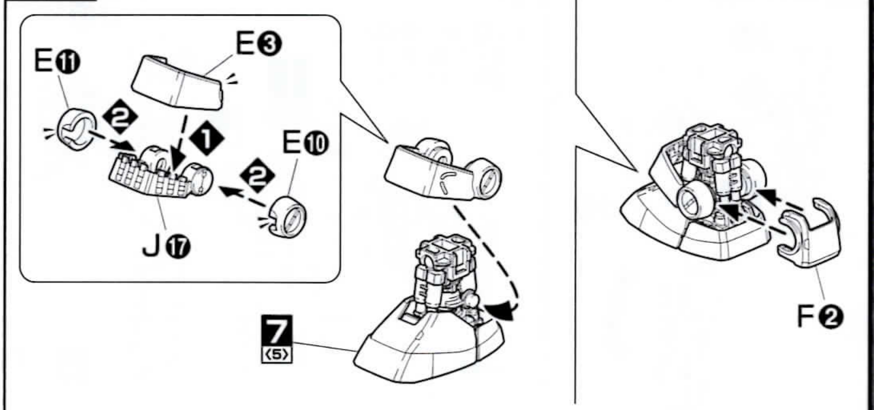


※組立図中の記号説明
！ 向きに注意して組み立てる
×2 部品を数値の個数作ります
後から組み立てる

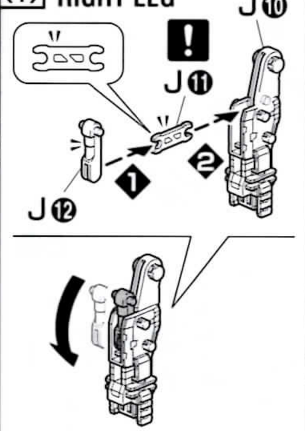
7 ×2 〈5〉



7 ×2 〈6〉

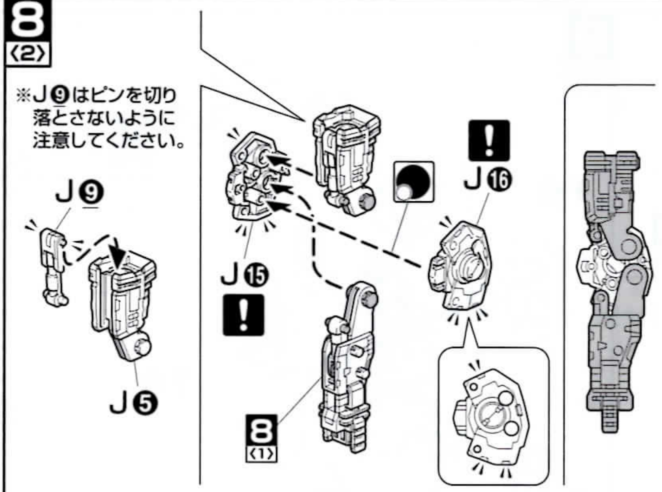


8 〈1〉 〔右脚の組立〕 RIGHT LEG

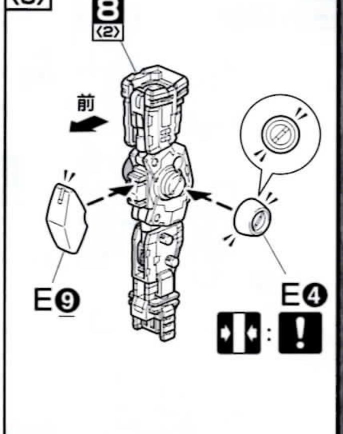


8 〈2〉

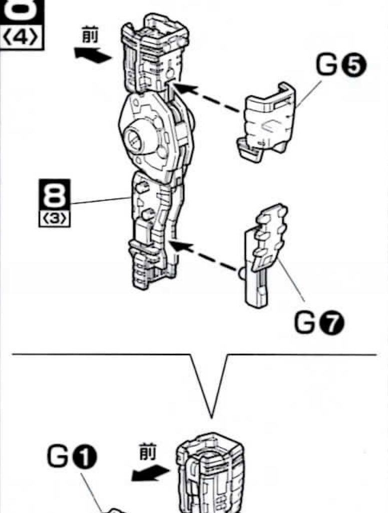
※J❾はピンを切り落とさないように注意してください。



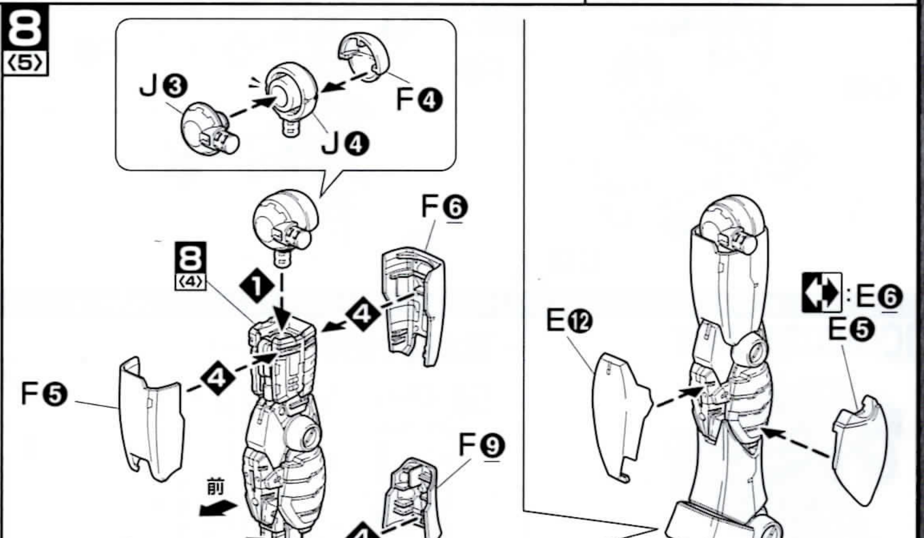
8 〈3〉



8 〈4〉



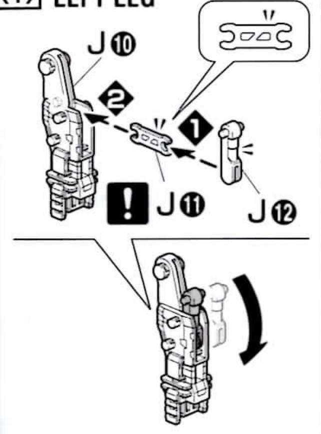
8 〈5〉



※組立図中の記号説明

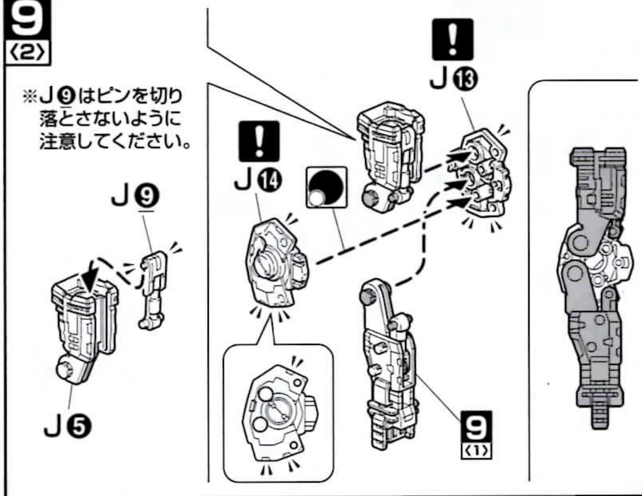
- ! 向きに注意して組み立てる
- ×2 部品を数値の個数作ります
- 両側に同じパーツを取りつける
- 反対側に取り付けるパーツ
- 後から組み立てる

9〈1〉〔左脚の組立〕 LEFT LEG

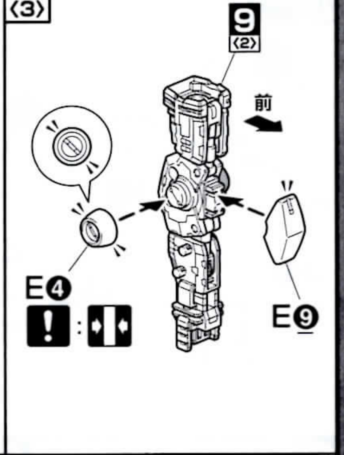


9〈2〉

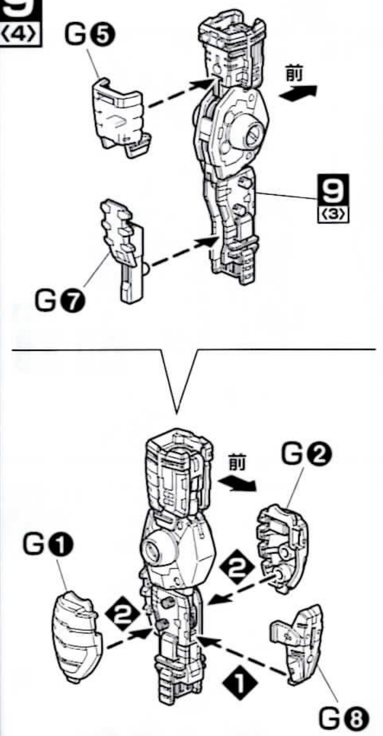
※J⑨はピンを切り落とさないように注意してください。



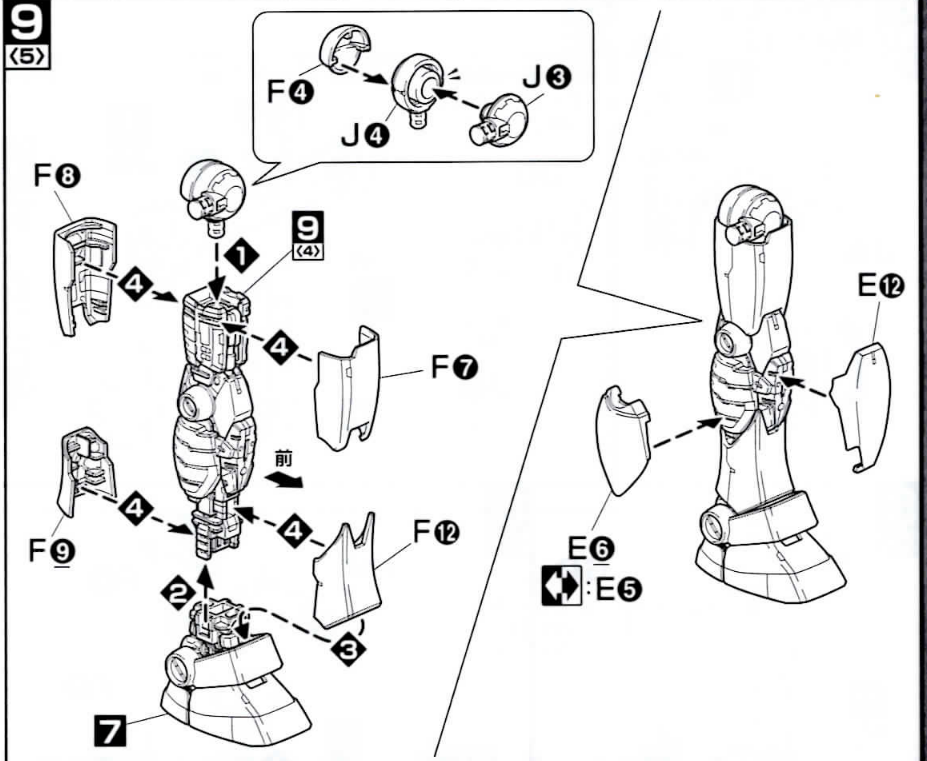
9〈3〉



9〈4〉



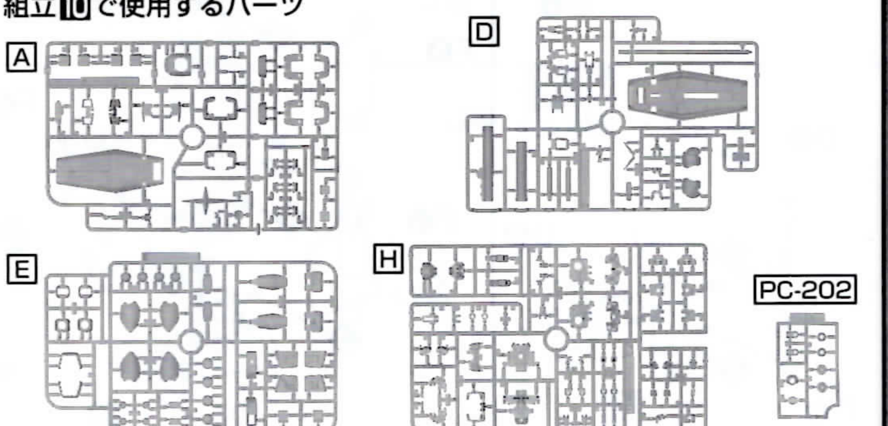
9〈5〉



10 WAIST UNIT

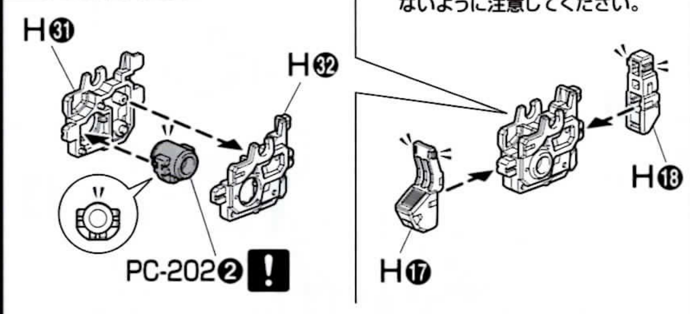


・組立10で使用するパーツ

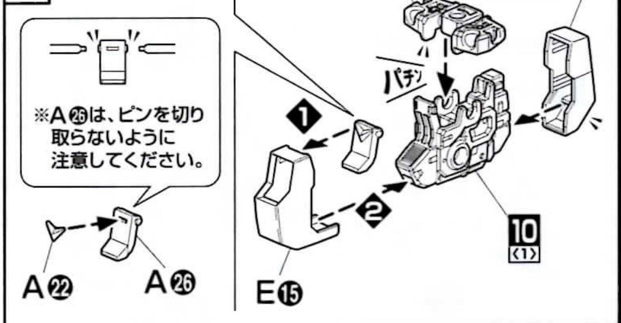


※組立図中の記号説明
向きに注意して組み立てる
両側に同じパーツを取りつける
反対側に取り付けるパーツ
後から組み立てる

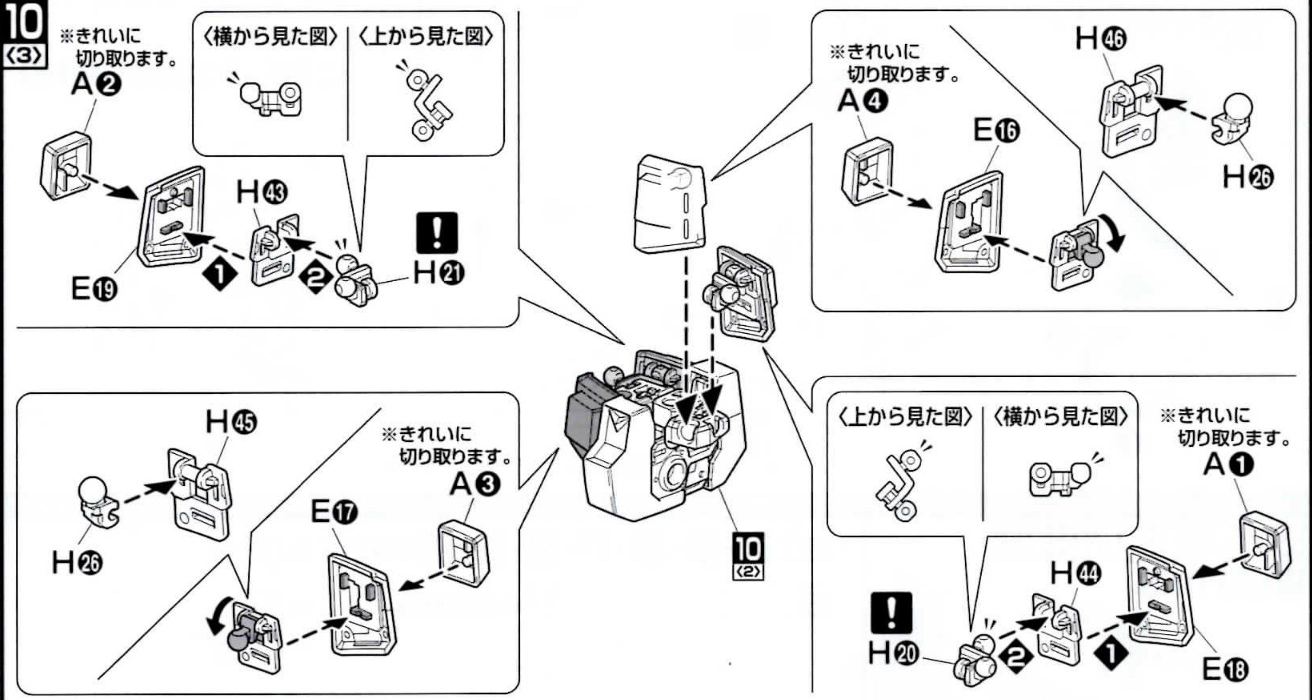
10〈1〉〔腰部の組立〕 WAIST UNIT



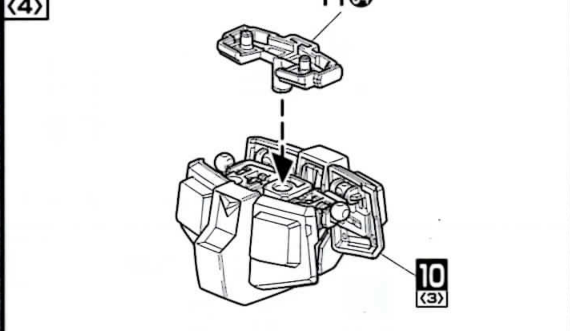
10〈2〉



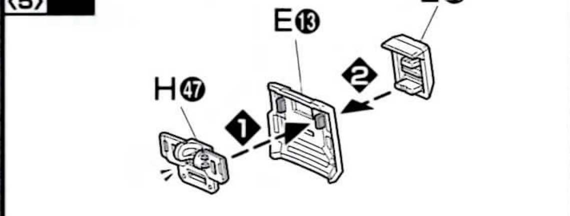
10〈3〉



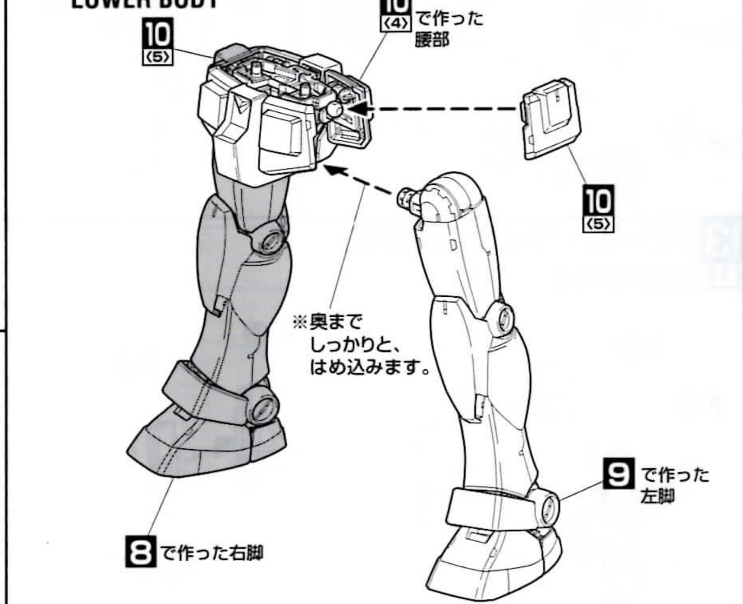
10〈4〉



10〈5〉 ×2

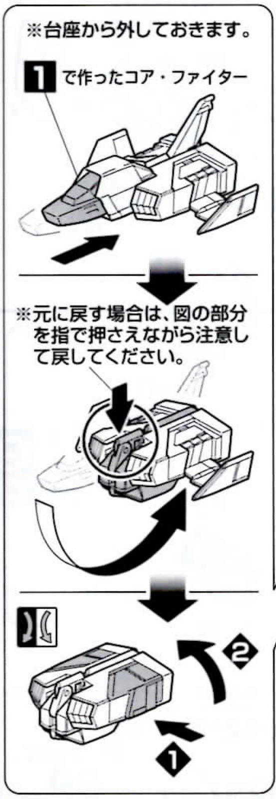


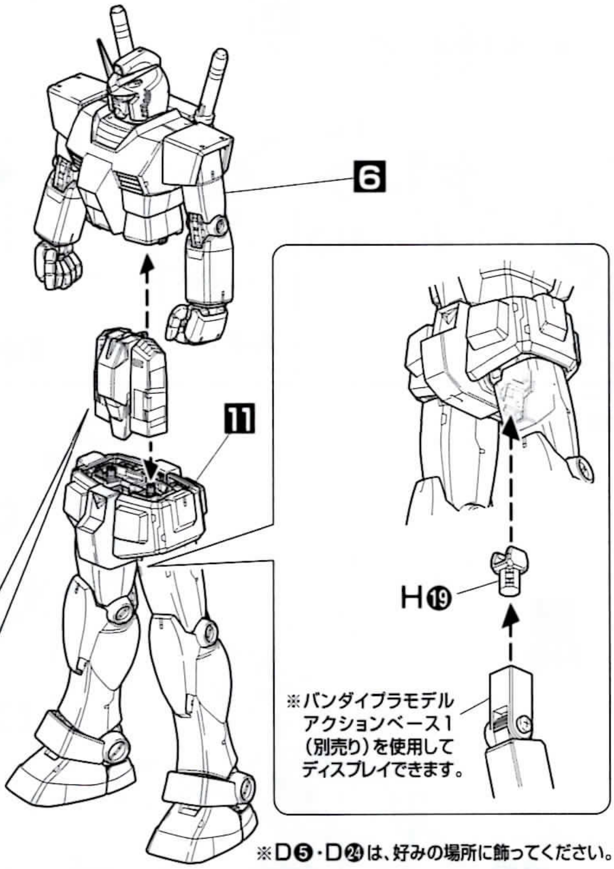
11〔下半身の完成〕 LOWER BODY



※組立図中の記号説明
! 向きに注意して組み立てる
×2 部品を数値の個数作ります

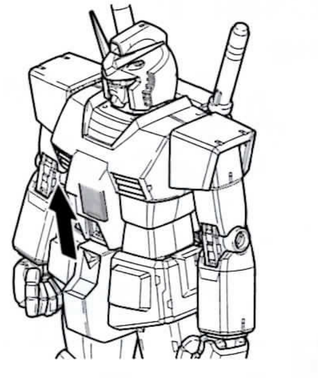
12 〔合 体〕
COMBINE



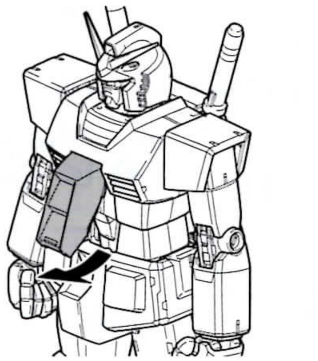


※D❺・D㉔は、好みの場所に飾ってください。

〈コクピットシャッターの開け方〉



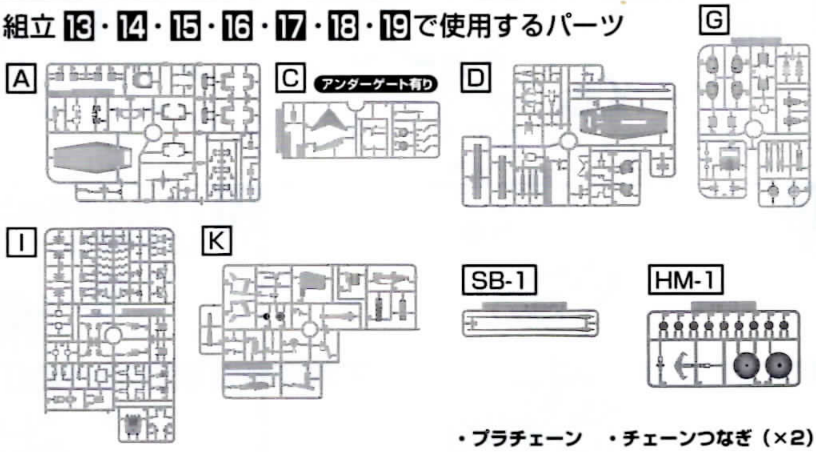
〈コクピットブロックの開け方〉



13 14 15 16 17 18 19
WEAPONS

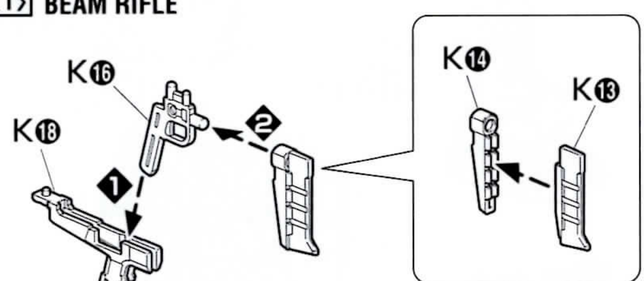


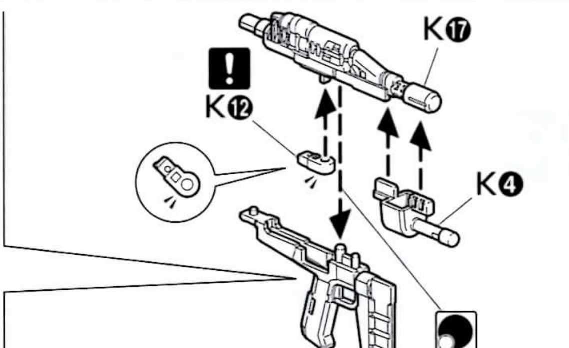
・組立 13・14・15・16・17・18・19 で使用するパーツ



・プラチェーン　・チェーンつなぎ（×2）

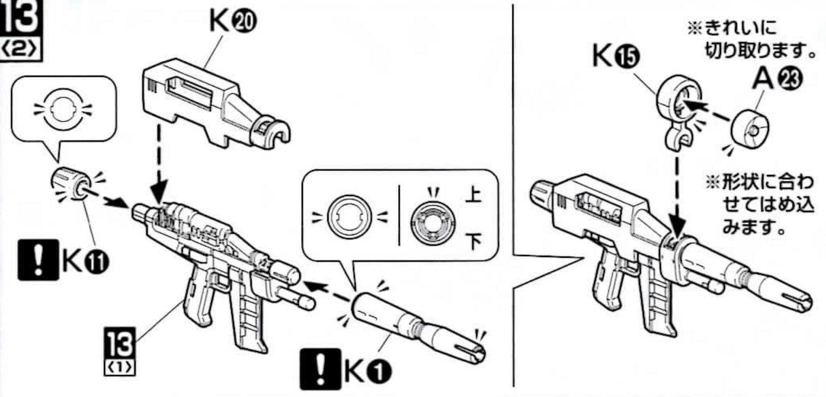
13 〔ビーム・ライフルの組立〕
〈1〉 BEAM RIFLE



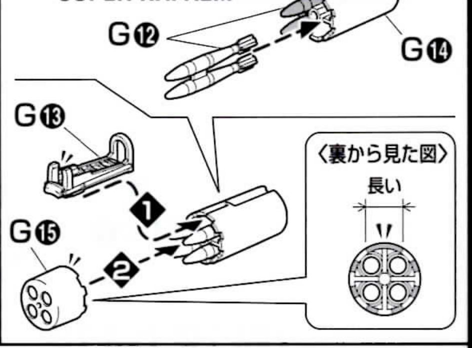


※組立図中の記号説明
! 向きに注意して組み立てる
両側を同じように動かす
後から組み立てる

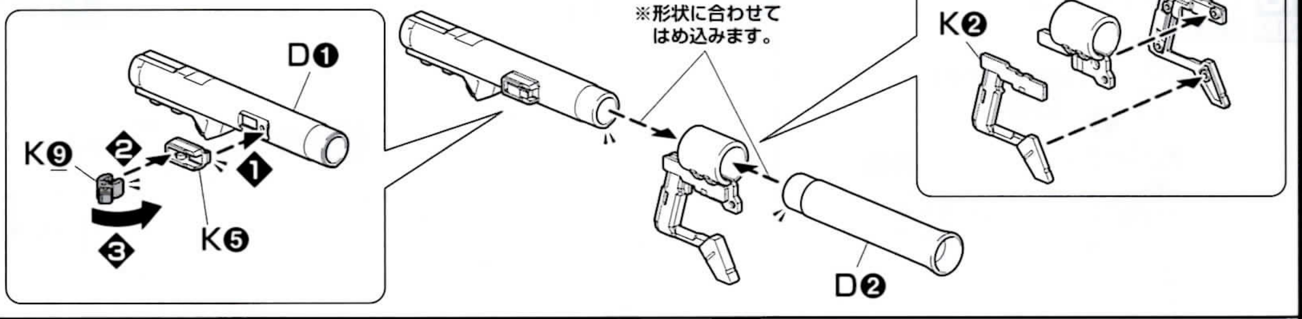
13 〈2〉



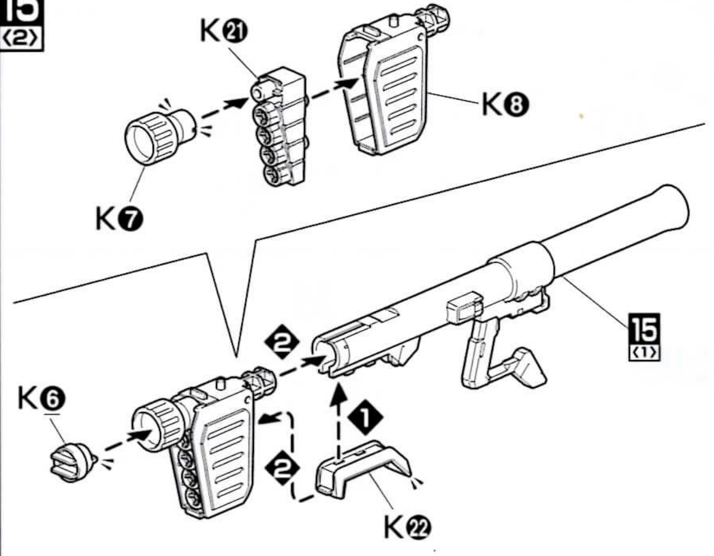
14 〔スーパー・ナパームの組立〕
SUPER NAPALM



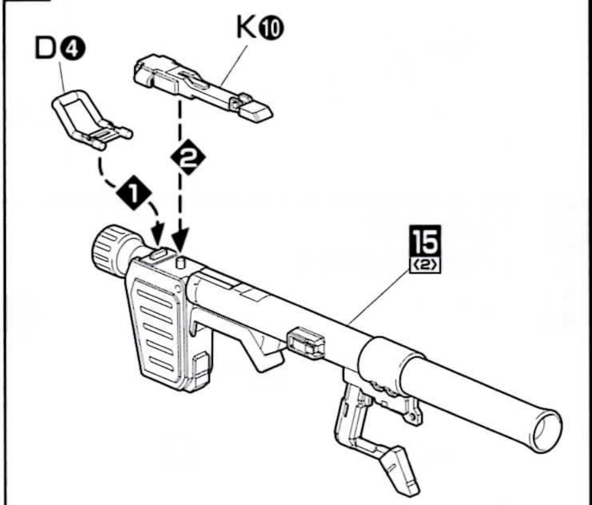
15 〈1〉 〔ハイパー・バズーカの組立〕
HYPER BAZOOKA



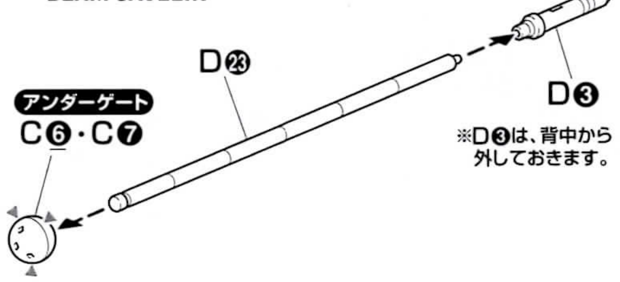
15 〈2〉

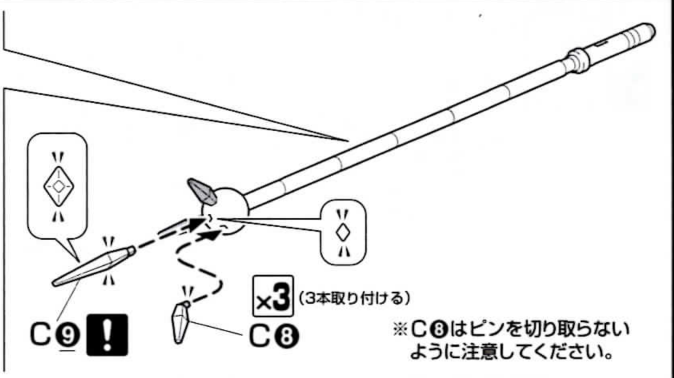


15 〈3〉

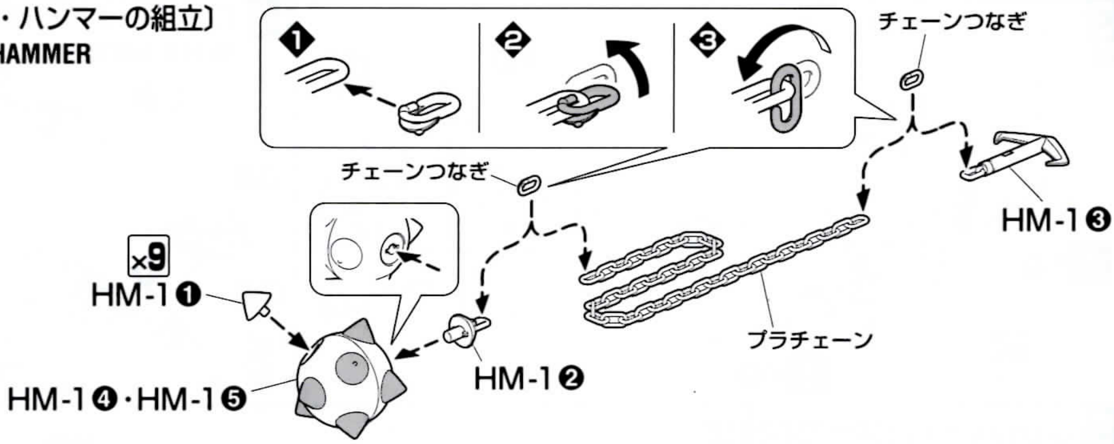


16 〔ビーム・ジャベリンの組立〕
BEAM JAVELIN

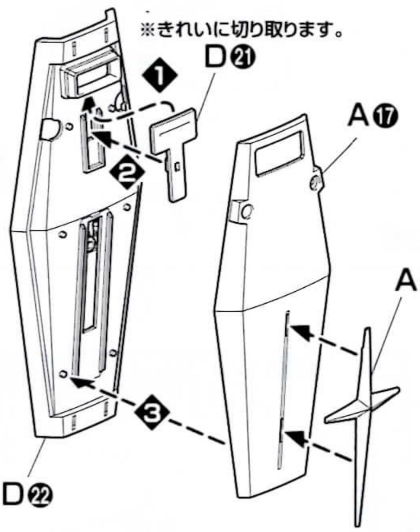




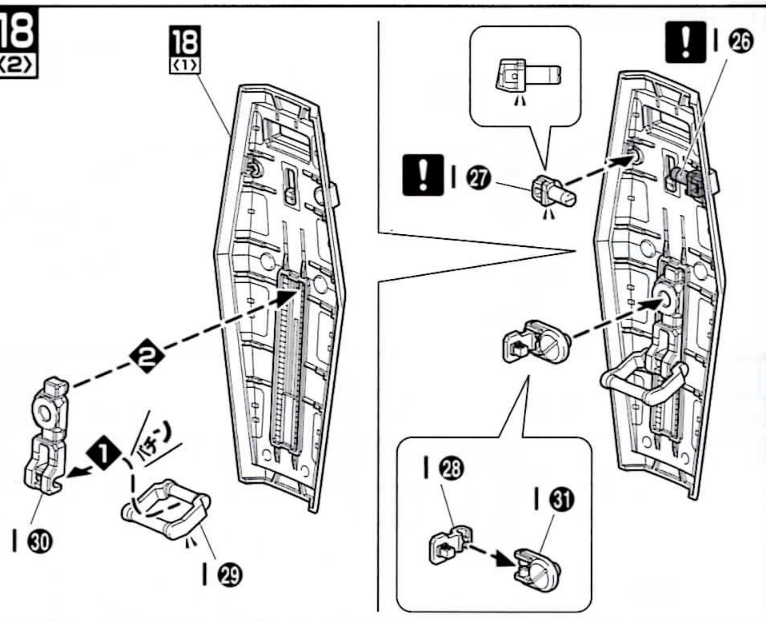
17 〔ガンダム・ハンマーの組立〕 GUNDAM HAMMER



18〈1〉〔シールドの組立〕 SHIELD

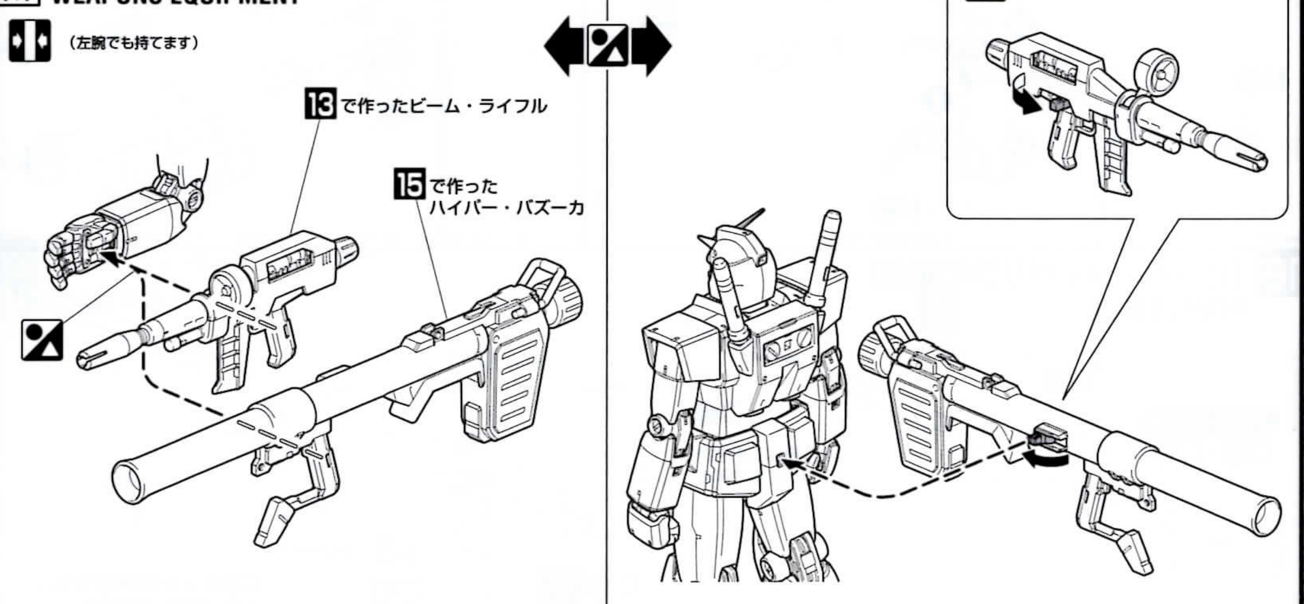


18〈2〉



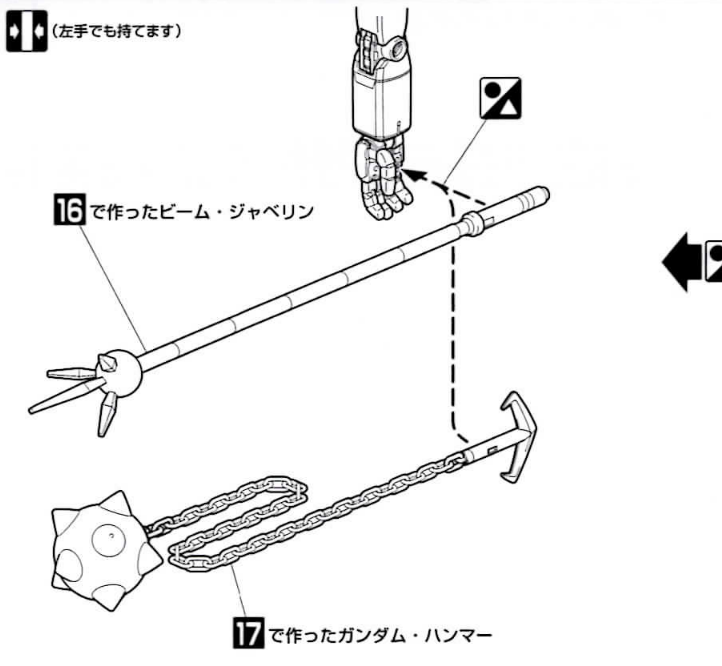
19〈1〉〔武器の装備〕 WEAPONS EQUIPMENT

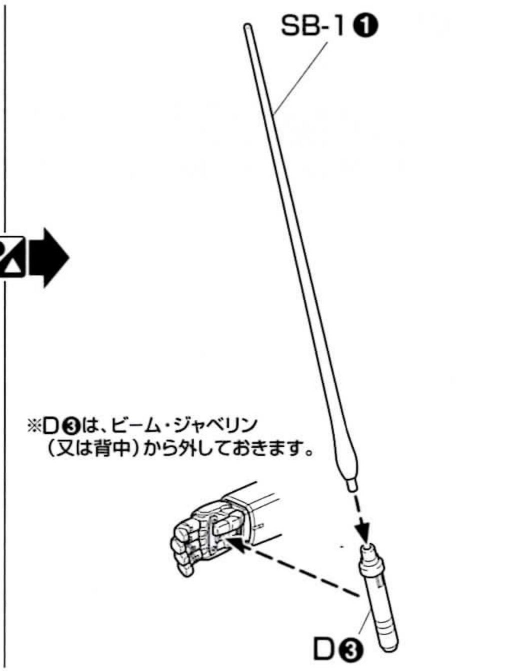
（左腕でも持てます）



※組立図中の記号説明
- ！ 向きに注意して組み立てる
- どちらかを選んで取りつける
- ×9 部品を数値の個数作ります
- 両側に同じパーツを取りつける

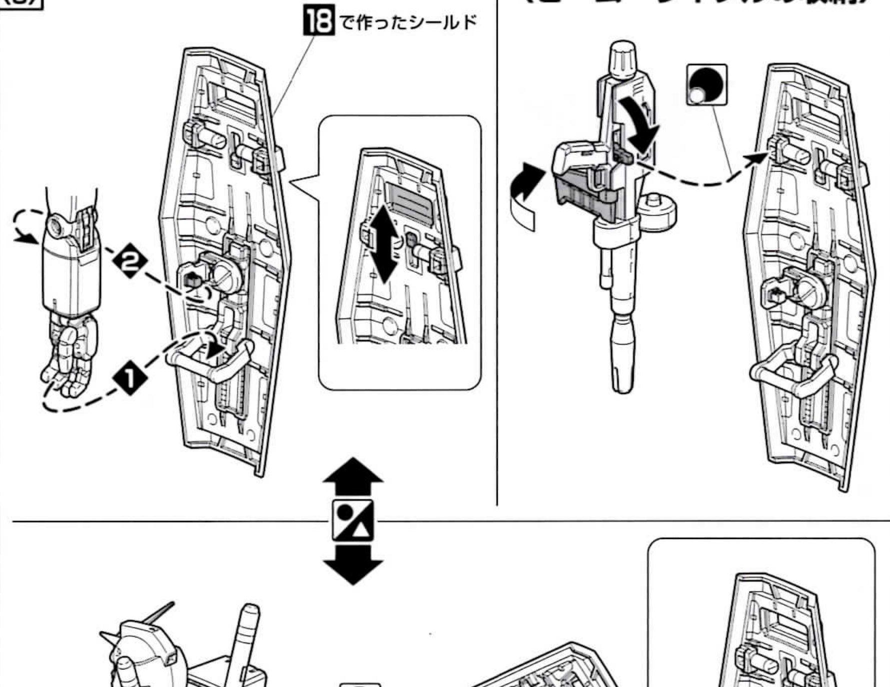
19 〈2〉



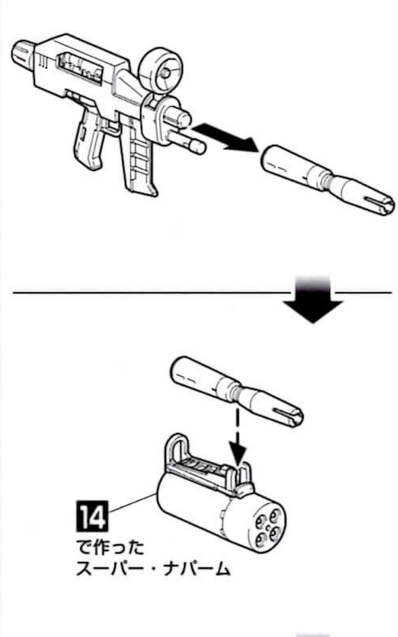


19 〈3〉

〈ビーム・ライフルの収納〉



19 〈4〉



Seal
〈シール〉

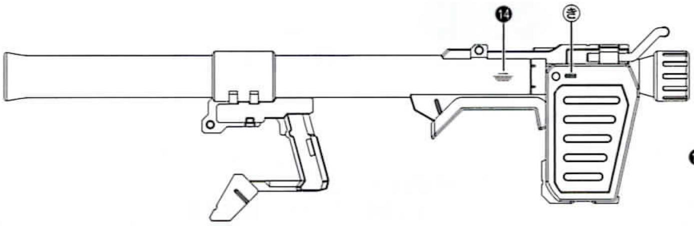
下の図を見て、マーキングシールやガンダムデカールの貼る位置を確認してください。

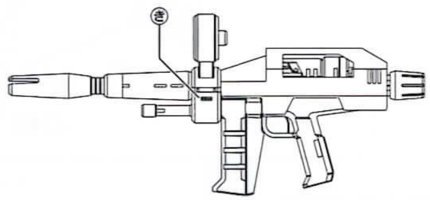
マーキングシールは「ひらがなの黒文字」、ガンダムデカールは「数字の白文字」で表記してあります。
【例】 あ・・・マーキングシール ❶・・・ガンダムデカール

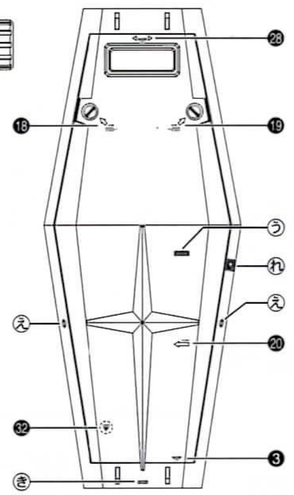
【ガンダムデカールの貼りかた】

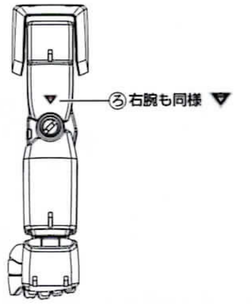
1.転写するマークを大まかに切ります。
2.転写する場所に軽く押さえ、ボールペン等の先の丸い物で上から軽くこすりつけます。
3.シート部分を静かにはがし、転写していない部分があれば、もう一度転写していない部分をこすります。

このマーキングシール及びガンダムデカールはプラモデルオリジナルのものです。貼り指示は一例ですのでイメージに合わせてお貼りください。



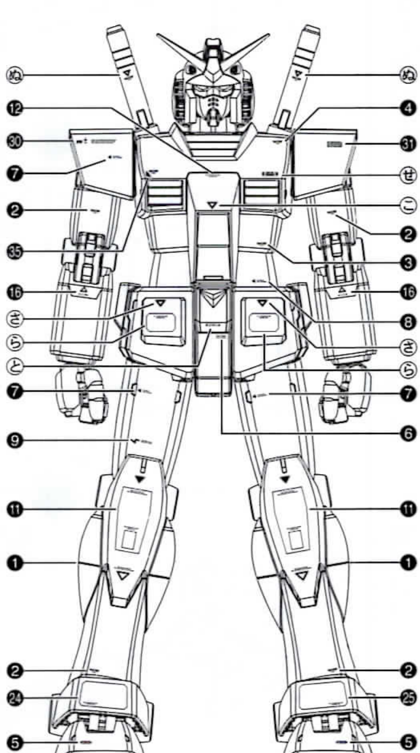


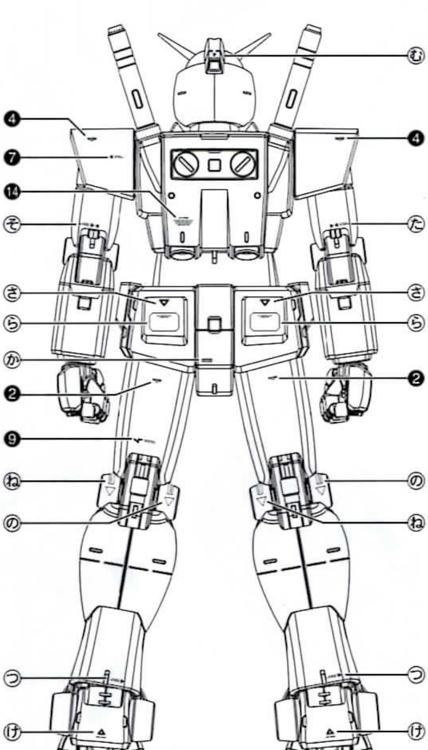


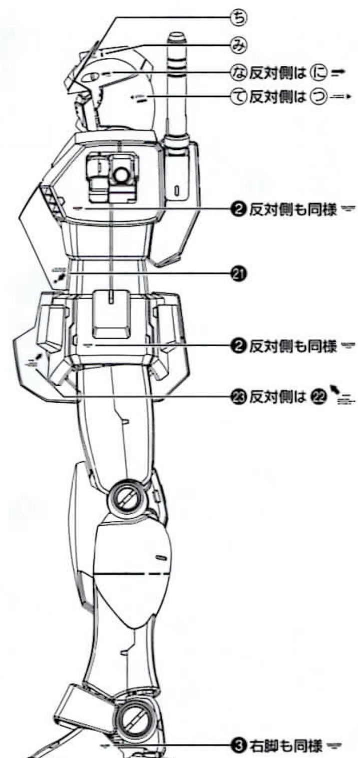


<ランドセル上>









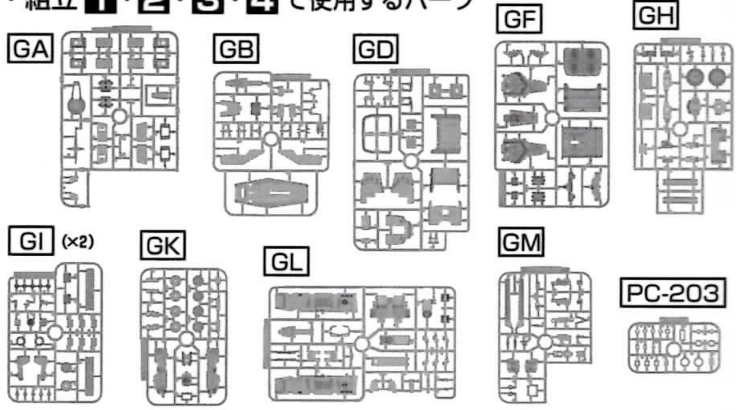
※余ったマーキングシールやガンダムデカールは好きな所に貼ってください。

リアルタイプカラーGファイターの組み立て

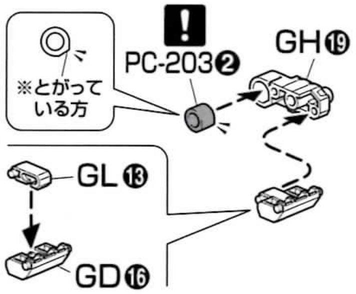
1 2 3 4 A PARTS



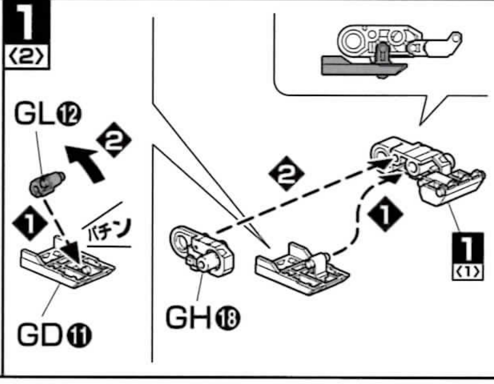
・組立 1・2・3・4 で使用するパーツ



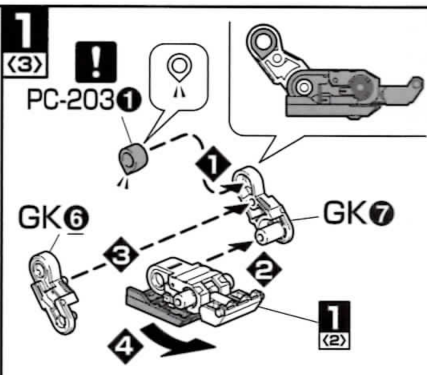
1 〈1〉 〔Aパーツの組立〕 A PARTS



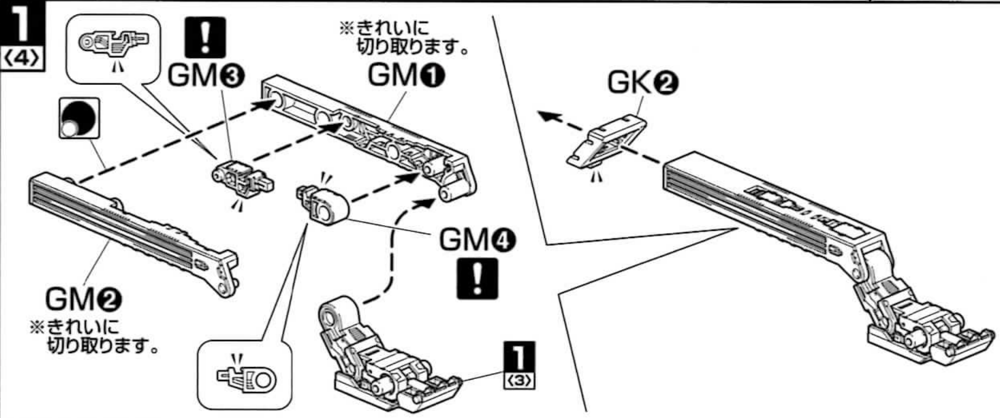
1 〈2〉



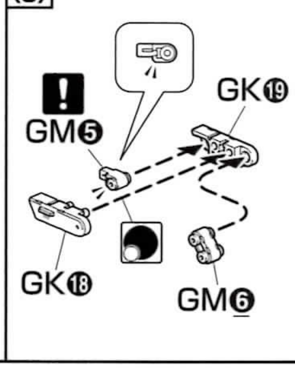
1 〈3〉



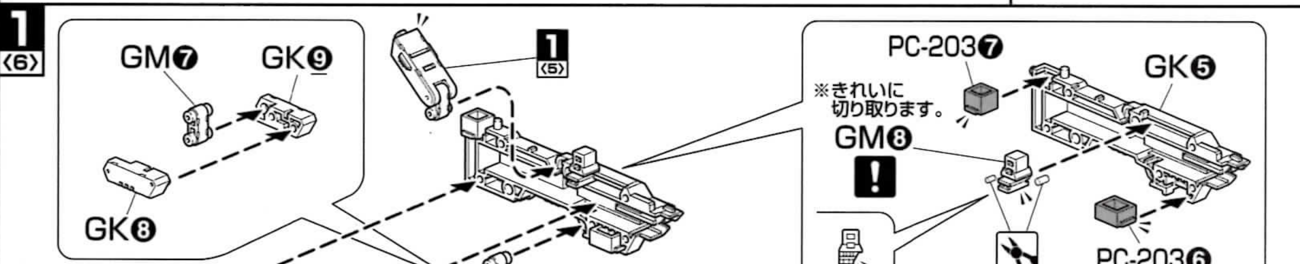
1 〈4〉



1 〈5〉



1 〈6〉



※組立図中の記号説明

- ! 向きに注意して組み立てる
- 後から組み立てる
- 切り取る部分

MS Tracks in U.C.0079（一年戦争の軌跡）

“RX-78-2 ガンダム”のカラーリングは、白を基調としたトリコロールカラーだが、ジャブローでの開発時は白と銀を基調としたカラーリングも試されており、他にも赤と白のカラーリングもあったようだ。サイド７遭遇戦時に、いくつかの機体は焼却処分されたもののうち一機は“ガンダム”の消耗パーツ供給用に回収されている。ジャブローの設計製造支援システムが、塗装パターンの検証にも援用された事は言うまでもない。加えて連邦軍には、“運用する機体と全く同じものを開発セクションが保有する”という伝統がある。これは、連邦軍の母体のひとつとなった軍事組織が、宇宙開発の極初期に得た教訓に基づいている。最前線で問題が起きた場合、例えばエアフィルターひとつがパイロットの生死を左右するかも知れない。ことに当該ミッションやテクノロジーのノウハウが構築途上であればなおさらの事で





ある。これらを考え併せれば、むしろGメカやコア・ブースターが2機ずつしか存在しないと考える方がおかしい。

連邦軍が開発した設計製造支援システムの本質は、生産工程のレスポンスにある。実際、工業製品の開発工程に必須のはずの“モックアップ”が不要であり、すなわち、設計からダイレクトに試作機の建造に移行できたのだ。このような生産環境にあって、モルモット部隊に配備される装備がワンオフと言う事は逆にあり得ないはずだ。「ロービジリティ塗装のGファイターに騎乗するダークグリーン塗装のガンダム」というビジュアルイメージは、オデッサ作戦に前後して流布された。連邦軍の戦略や生産能力を考えれば、このイメージ通りの実機が存在する可能性は高いのだが、“黒い三連星と対峙する同系塗装のガンダム”と並んで、あくまで“シミュレーター内における仮想イメージ”とする説もあり、その実在や戦闘記録などの詳細は不明である。

Illustration by Kunio Okawara

PAINTING〔塗装〕

※よりリアルに仕上げたい方は、下の基本色をご覧ください。※塗装にはより安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。

Gアーマー リアルタイプカラー 指定色

<ガンダム 指定色>

- 顔、バスーカなどの塗装色
  ホワイト（100%）+ネービーブルー（少量）
- 胸部などの塗装色
  ミッドナイトブルー（100%）
- 襟などの塗装色
  イエロー（45%）+ホワイト（35%）+オレンジ（20%）
- 腹部、つま先などの塗装色
  モンザレッド（80%）+ホワイト（10%）+イエロー（5%）+ニュートラルグレー（5%）
- スネなどの塗装色
  ホワイト（75%）+ニュートラルグレー（25%）+ネービーブルー（少量）
- ふくらはぎなどの塗装色
  グリーン（35%）+ホワイト（30%）+ブラック（25%）+オリーブドラブ（10%）
- 武器などの塗装色
  ニュートラルグレー（90%）+ブラック（10%）
- 目の塗装色
  クリアーイエロー（100%）
- 額センサーなどの塗装色
  クリアーレッド（100%）
- ビーム・ジャベリン発光部
  蛍光ピンク（100%）

<Gファイター 指定色>

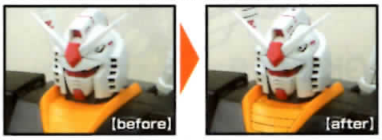
- ノーズなどの塗装色
  ホワイト（80%）+ニュートラルグレー（15%）+パープル（5%）+ブルー（少量）
- 本体などの塗装色
  ホワイト（40%）+ブラック（35%）+ブルー（15%）+レッド（10%）
- 内部メカなどの塗装色
  ニュートラルグレー（90%）+ブラック（10%）

●ABS部分への塗装は破損する恐れがありますので、塗装はお勧めできません。※カラー配合は参考値であり、写真とカラーガイドの色は異なる場合があります。

ワンポイントステップ ~One point step~

スミいれしてみよう!

ガンダムマーカー/スミいれ用（別売り）などを使用して、キットのスジ彫りを塗装することで、立体感、リアル感が増します。スミ入れするだけで見違えるような仕上がりになります。



バンダイ「模型情報」誌上でMSVのキット化が発表された1983年。当時のMSVブームとは何であったのか、そして満を持して放つMSV-Rとは!?

MOBILE SUIT VARIATION MSV

MSV(モビルスーツ・バリエーション)の歴史、それは4点のザクバリエーションから始まった。

MSV(モビルスーツ・バリエーション)はキット化発表の約2年前の1981年、大河原氏がムック本用に書き下ろした、4点のザクバリエーションを発端にスピンオフ的な企画として始動。その後もムック本、コミックボンボン、模型情報に数々のバリエーションとエースパイロットの機体が掲載され、ガンプラファンの圧倒的な支持を受けて多数のMSVがキット化された。

基本となった4点のザクバリエーションは、既成概念にとらわれず、プラモ作りを楽しむヒントになればと、物作りが好きな大河原氏ならではの思いがこめられたものだった。MSV登場以前に描かれたリアルタイプと総称される、機体全体に細かく注意書きなどコーションデータを描いた一連のイラストも同様の思いから描かれたもである。

大別される事の多い2つのシリーズだが、言わばリアルタイプはMSVの始祖、共通のコンセプトを持つ同じカテゴリーのものだといえるだろう。

そして、約25年振りの2009年、「月刊ガンダムエース」誌上で復活、再始動した新たなMSV、「MSV-R」の連載にあたり大河原氏は「MSV-Rでは重量感、ミリタリズム、そして、遊び。商品化が前提ではないので、枠から外れた遊びという要素を構築できたらいいですね。模型をお客様が自分なりに工夫出来る楽しみの余地を残した物になればと考えています。25年前は、多忙を極めた中での作業でした、今回は出来るだけ時間をとって、じっくりと描きたいと思ってます。」と、MSV-Rへの思いを語られた。25年前同様のコンセプトで描かれる「MSV-R」に注目して頂きたい。

文:草刈健一



模型情報・別冊
MSバリエーションハンドブック

当時、模型情報誌に掲載されていた設定画稿の数々。

25年

機動戦士ガンダム MOBILE SUIT VARIATION MSV-R

ガンプラブーム全盛期、大人気となった「MSV」。その流れを受け継いだ企画「MSV-R」が、ガンダム30周年を機に始動する事となった。

新たに描かれ発表されるモビルスーツや武器。今までは文章設定のみでしか存在しなかったメカニック群を中心に展開していく。それらの真実からは、復活だけではなく、新たな時代の胎動を感じることができるはずだ。

(協力:角川書店 ガンダムエース編集部)

Gファイターバリエーション



Gファイター強襲揚陸型

Gファイター宇宙型

Gファイター爆撃型

◀Gファイターのバリエーションも書き起こされている。



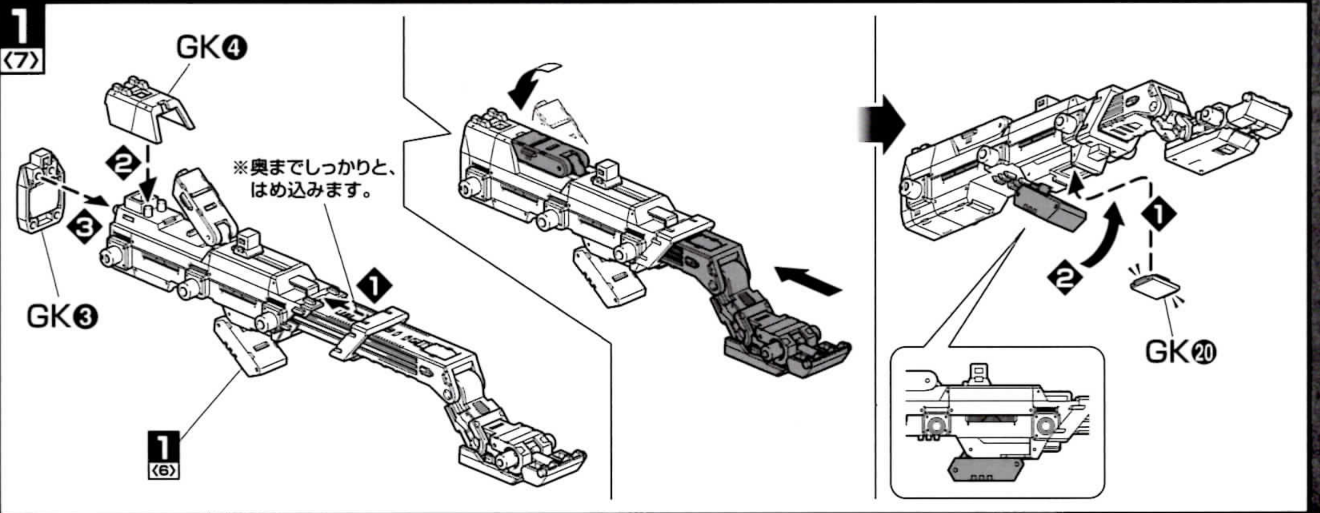
Gファイター
リアルタイプカラー

▲▶大河原邦男氏により、新たに設定画として書き起こされたガンダム リアルタイプカラーとGファイター リアルタイプカラー。



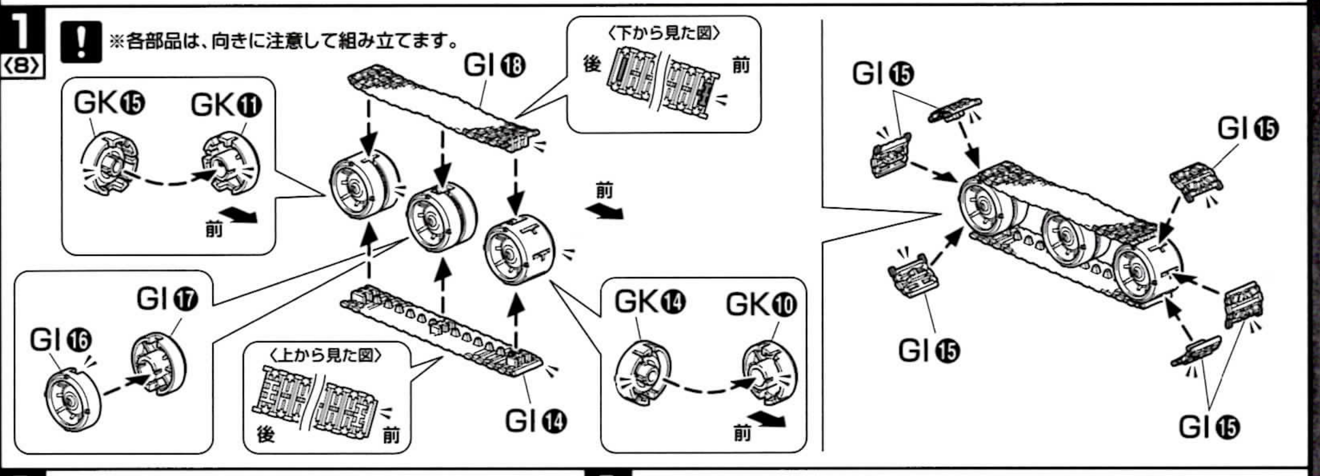
ガンダム リアルタイプカラー

1〈7〉

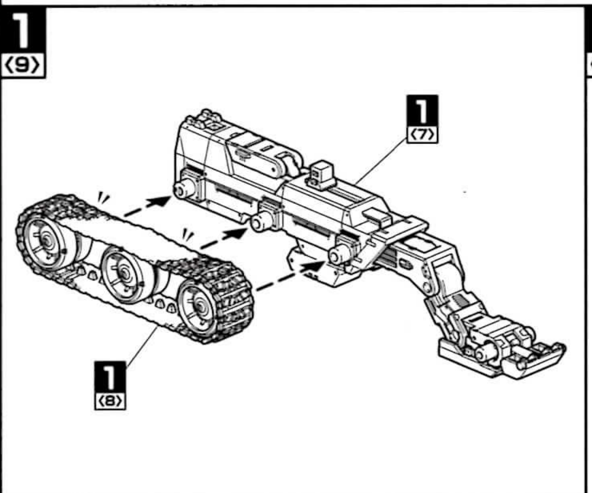


1〈8〉

! ※各部品は、向きに注意して組み立てます。

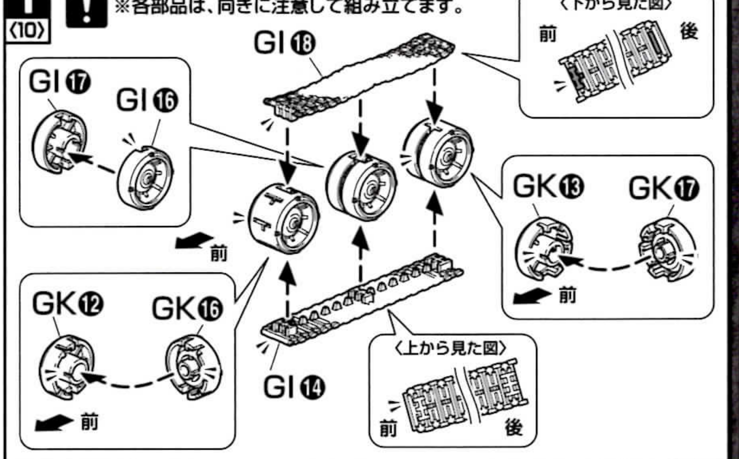


1〈9〉



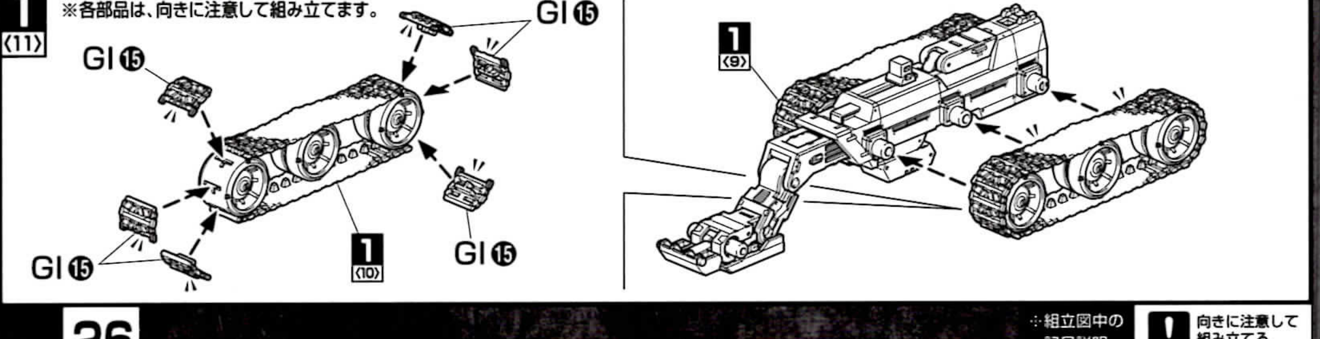
1〈10〉

! ※各部品は、向きに注意して組み立てます。

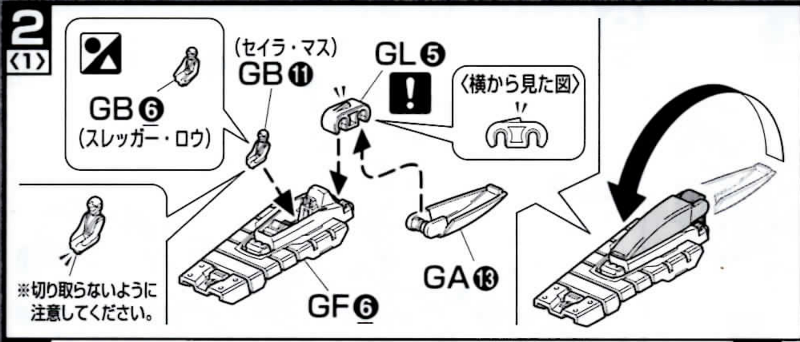


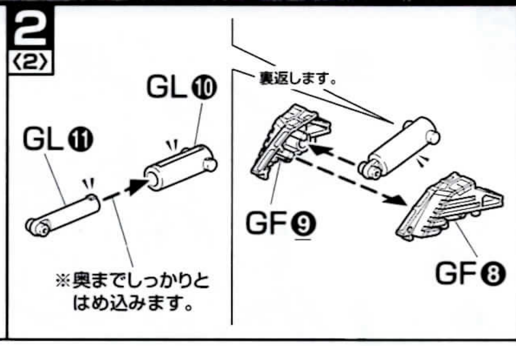
1〈11〉

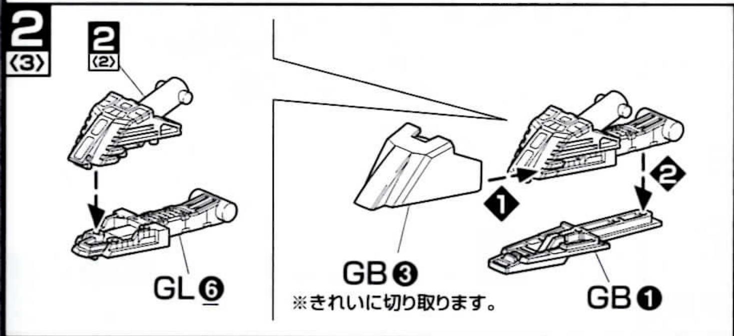
※各部品は、向きに注意して組み立てます。

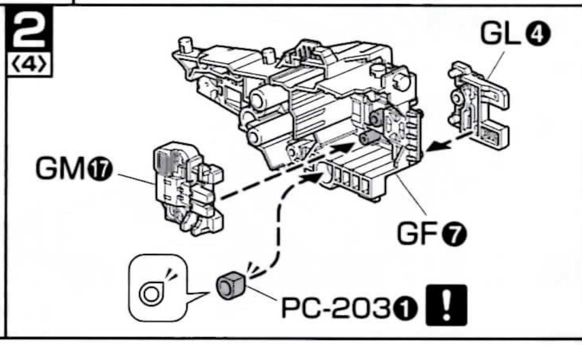


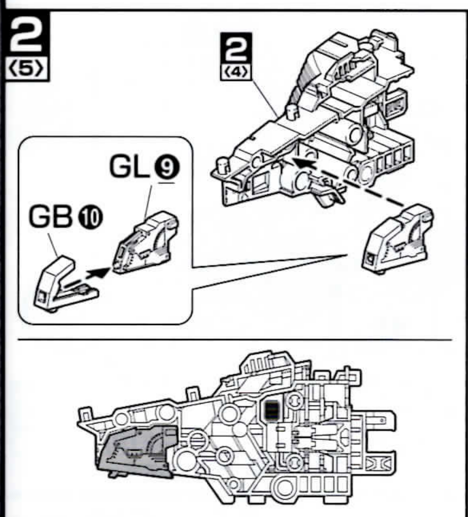
※組立図中の記号説明　! 向きに注意して組み立てる

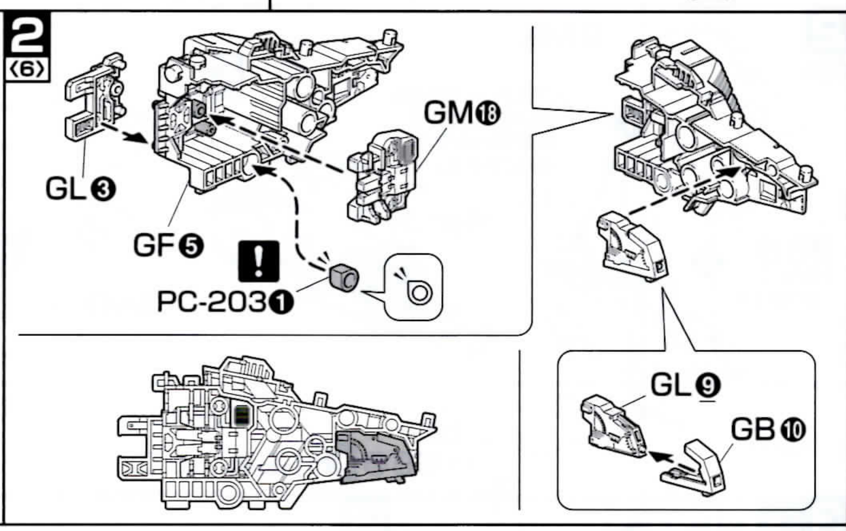


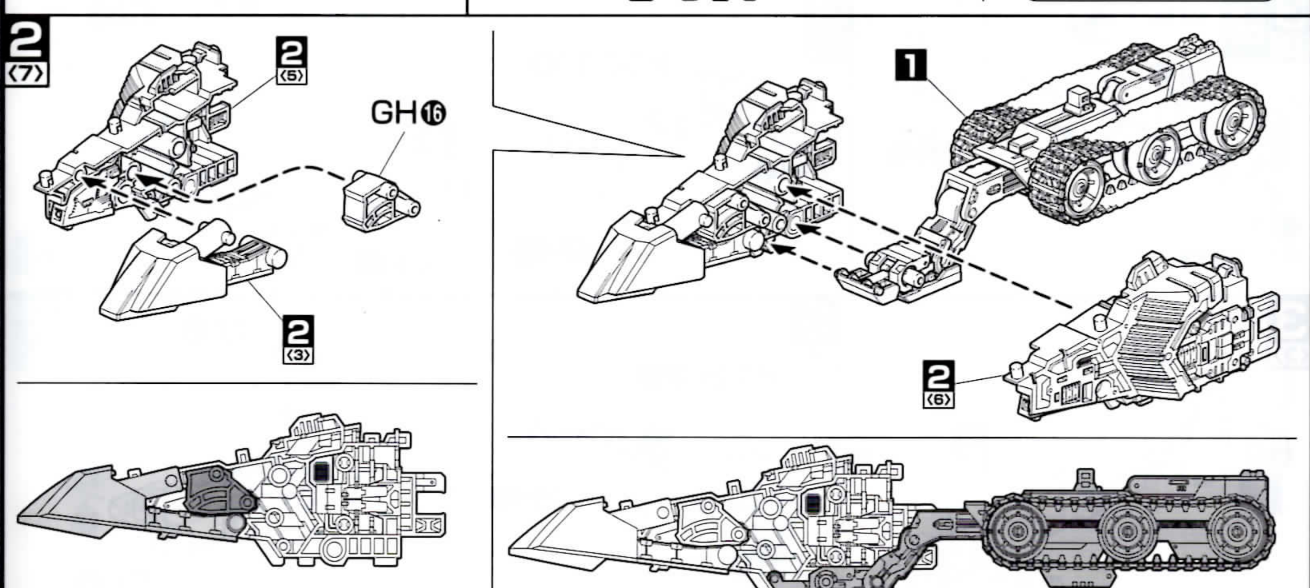








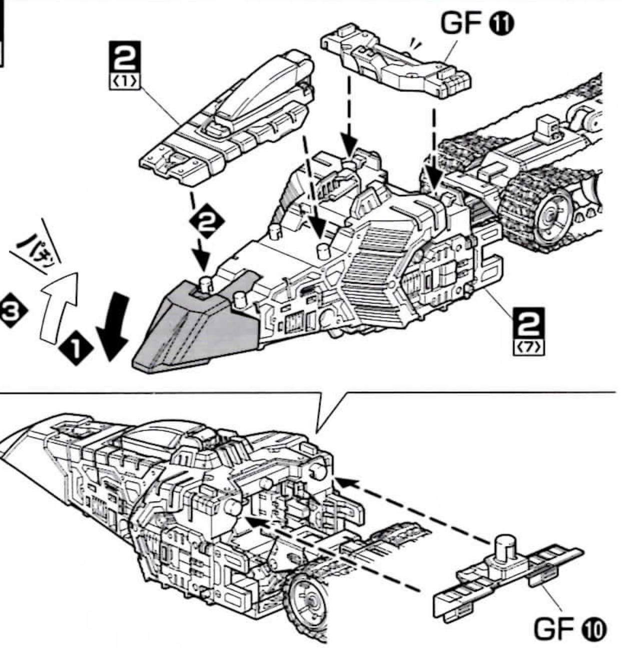




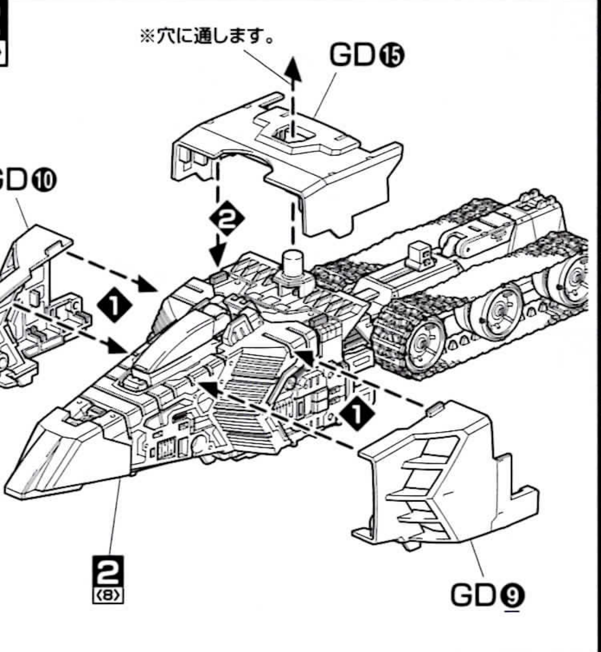
※組立図中の記号説明

- どちらかを選んで取りつける
- 向きに注意して組み立てる

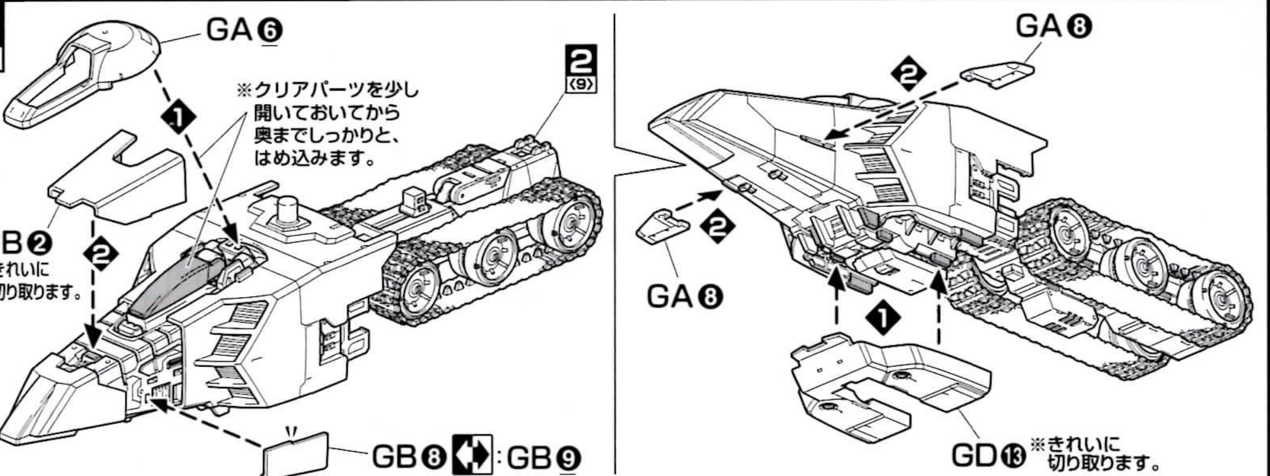
2 ⟨8⟩



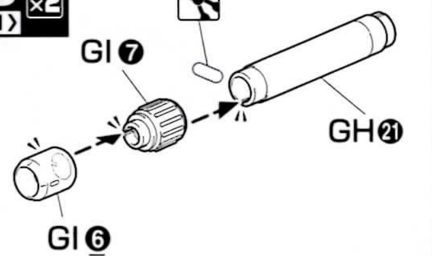
2 ⟨9⟩



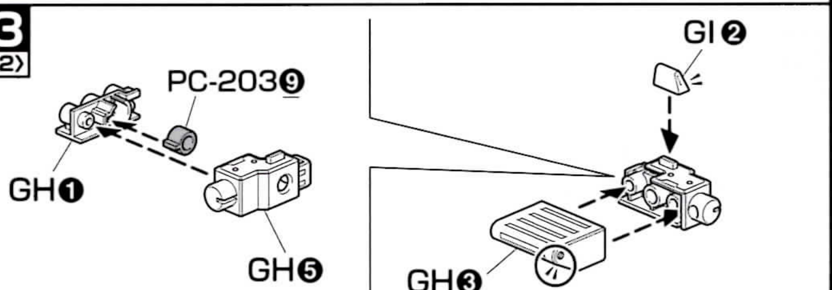
2 ⟨10⟩



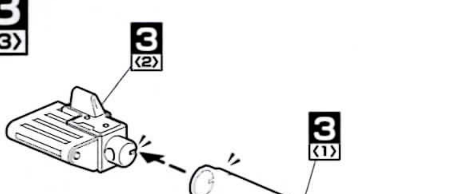
3 ⟨1⟩ ×2



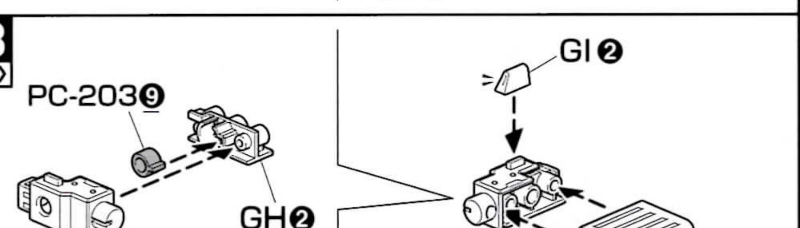
3 ⟨2⟩



3 ⟨3⟩

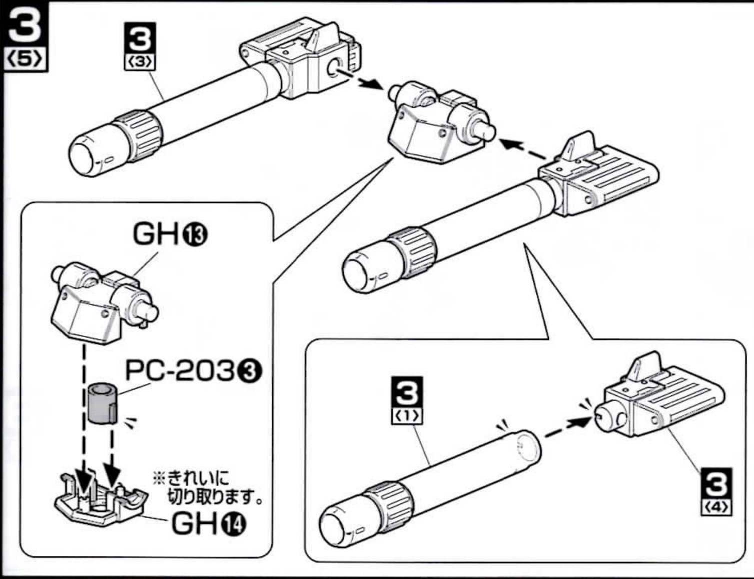


3 ⟨4⟩

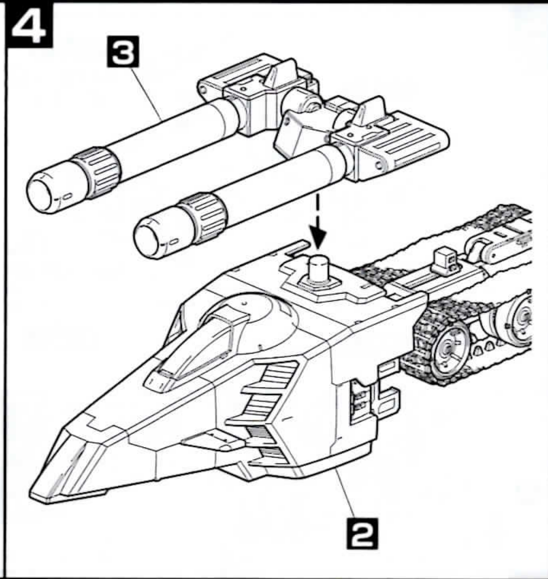


※組立図中の記号説明
- 反対側に取り付けるパーツ
- 切り取る部分
- ×2 部品を数値の個数作ります

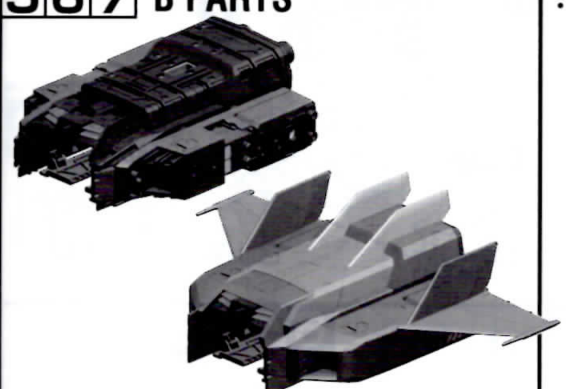
3 〈5〉



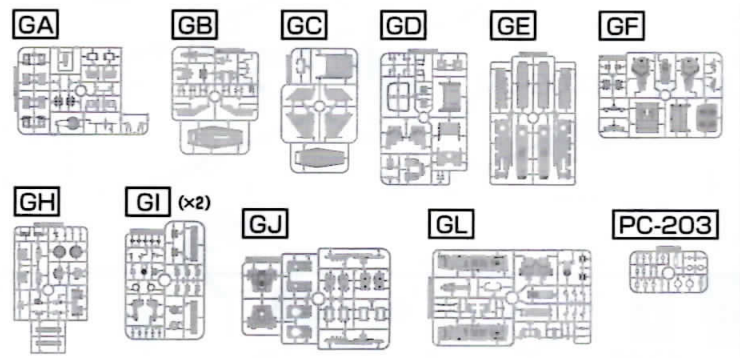
4



5 6 7 B PARTS



・組立 5・6・7 で使用するパーツ

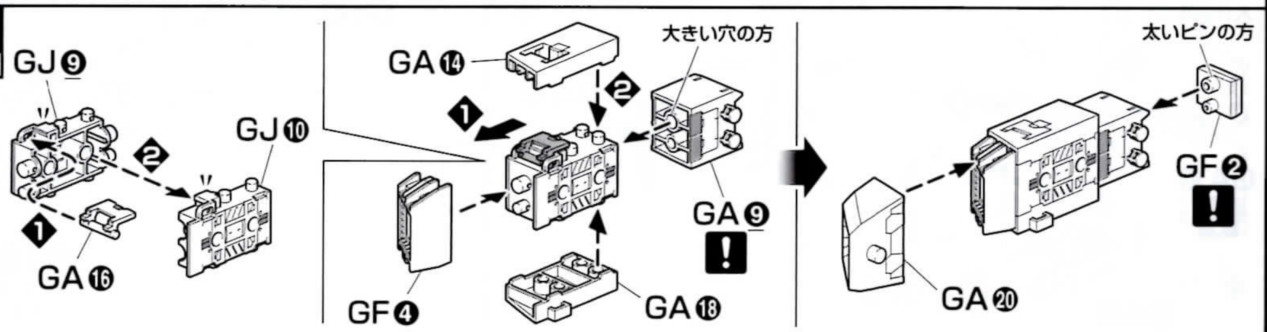


5 〔Bパーツの組立〕

〈1〉 B PARTS

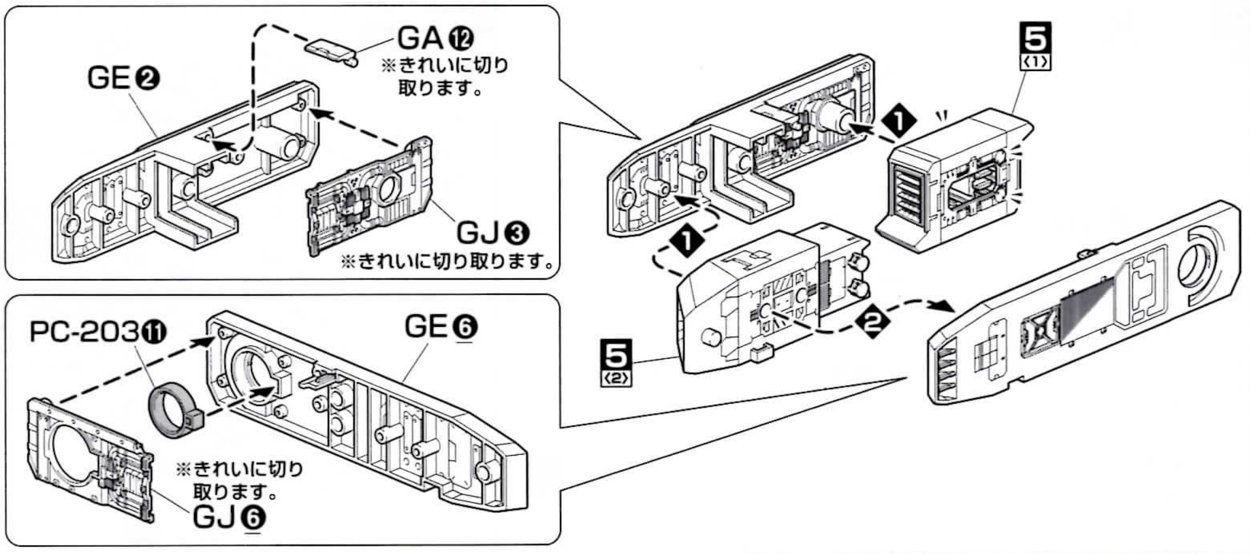


5 〈2〉

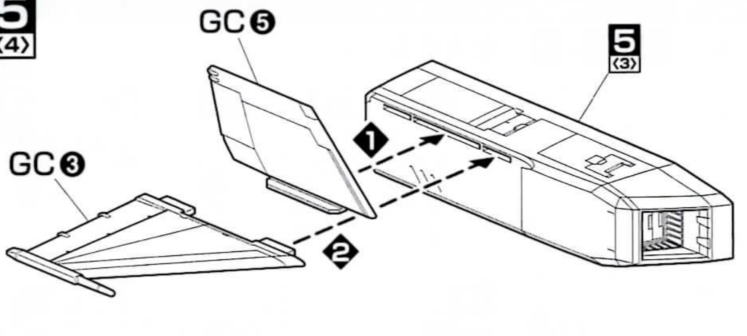


∴組立図中の記号説明　! 向きに注意して組み立てる

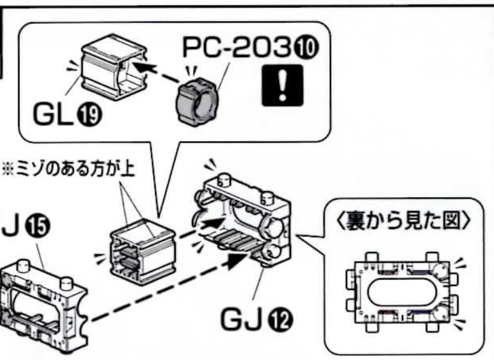
5
〈3〉



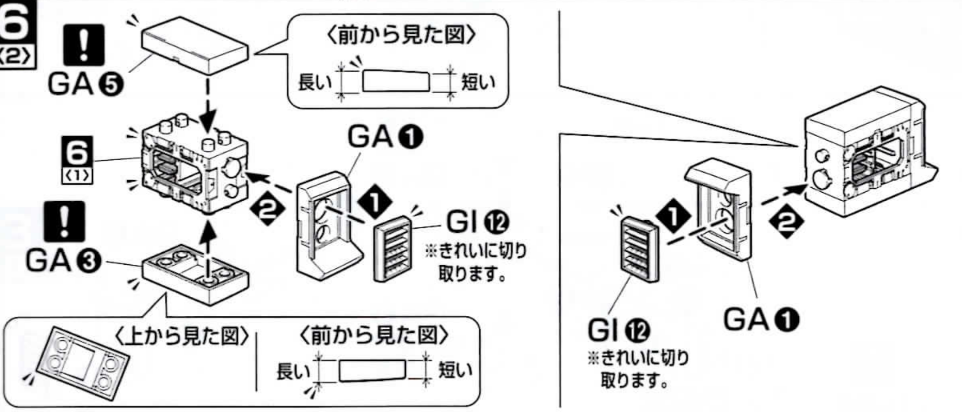
5
〈4〉



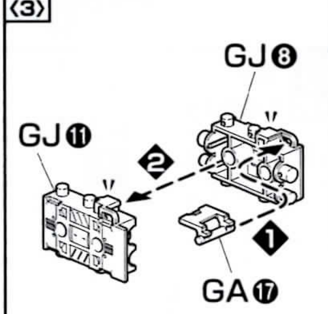
6
〈1〉



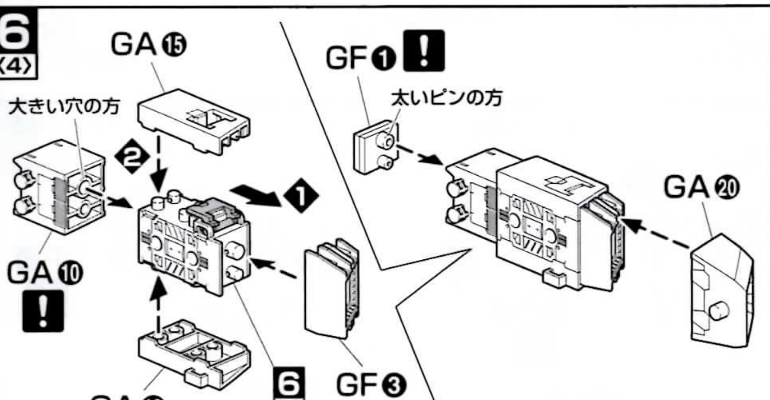
6
〈2〉



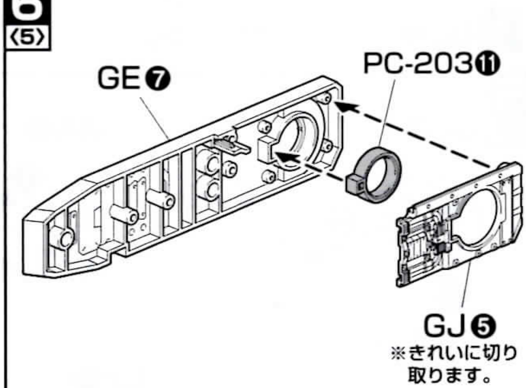
6
〈3〉



6
〈4〉

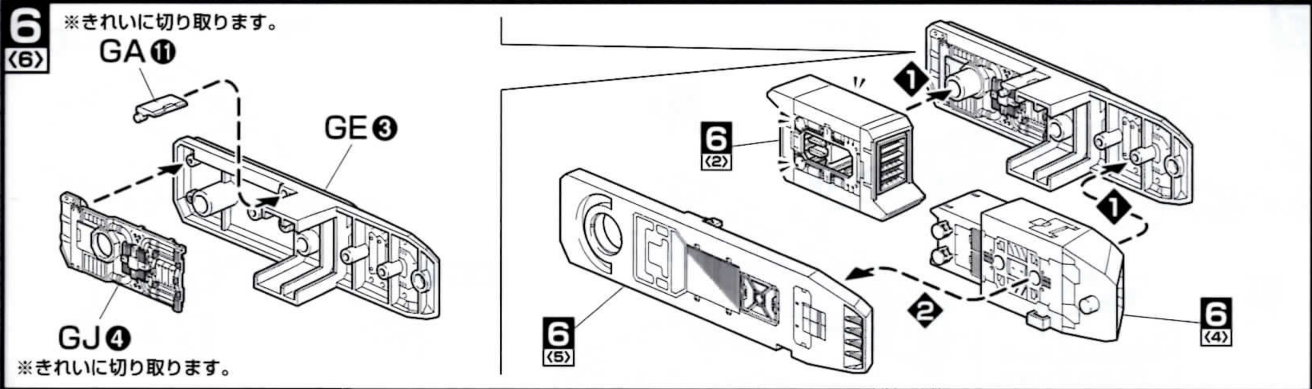


6
〈5〉

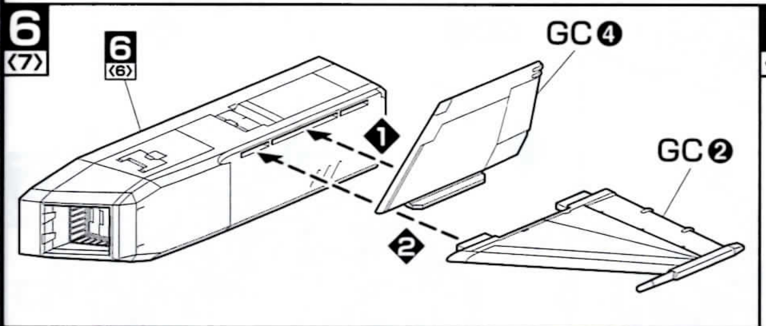


※組立図中の記号説明
! 向きに注意して組み立てる

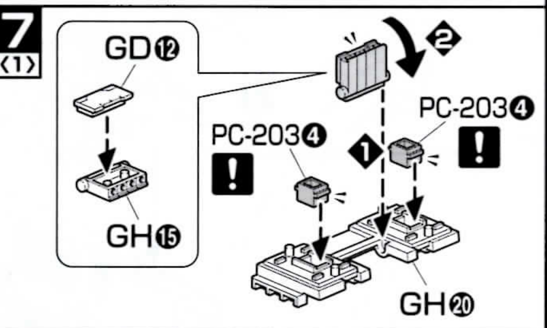
6 〈6〉



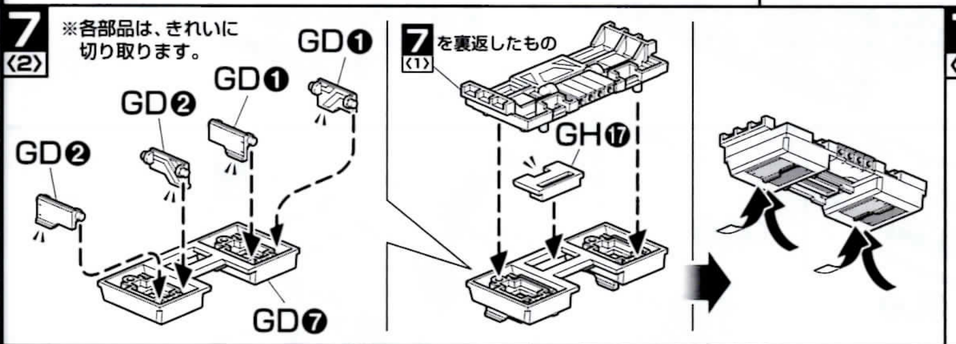
6 〈7〉



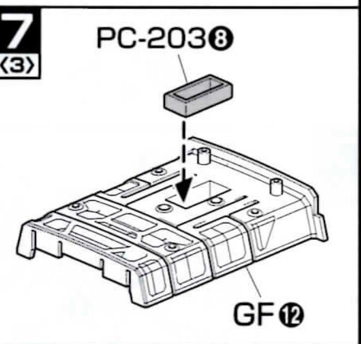
7 〈1〉



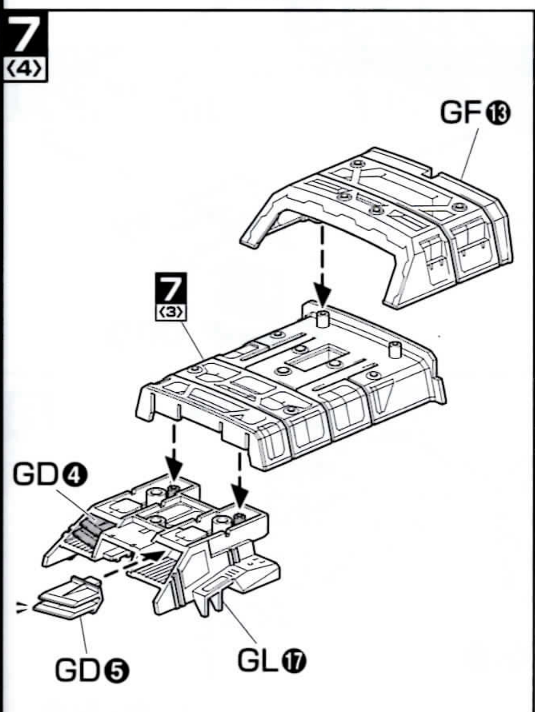
7 〈2〉



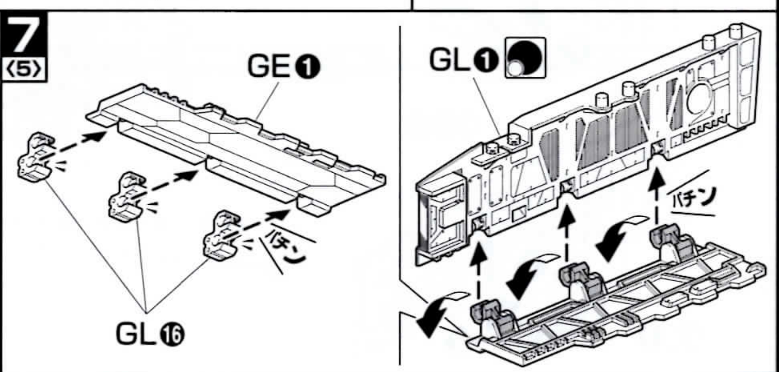
7 〈3〉



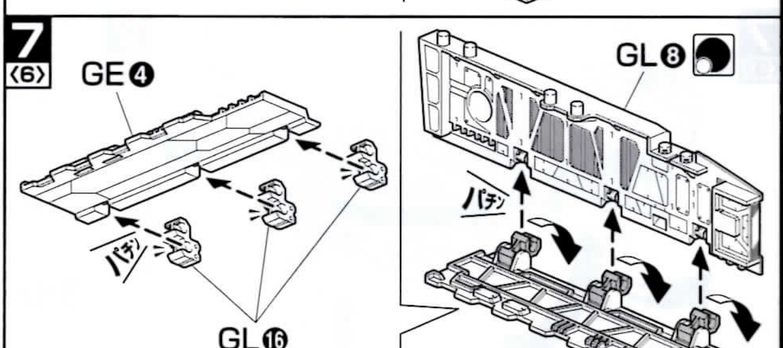
7 〈4〉



7 〈5〉



7 〈6〉

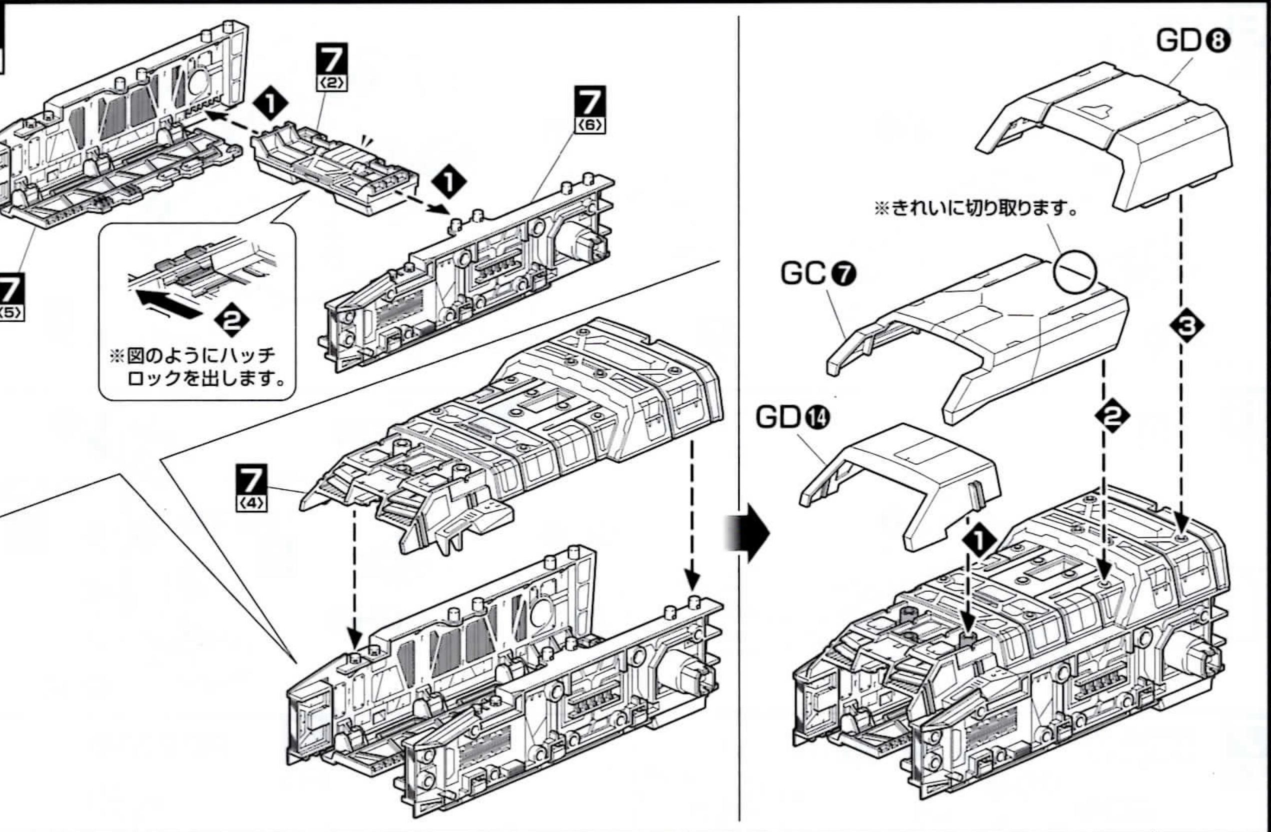


※組立図中の記号説明

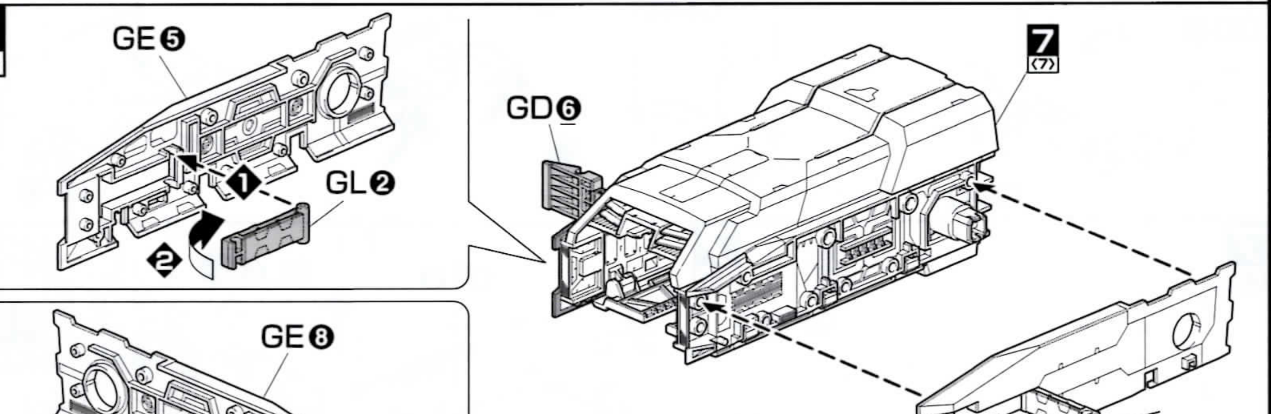
後から組み立てる

向きに注意して組み立てる

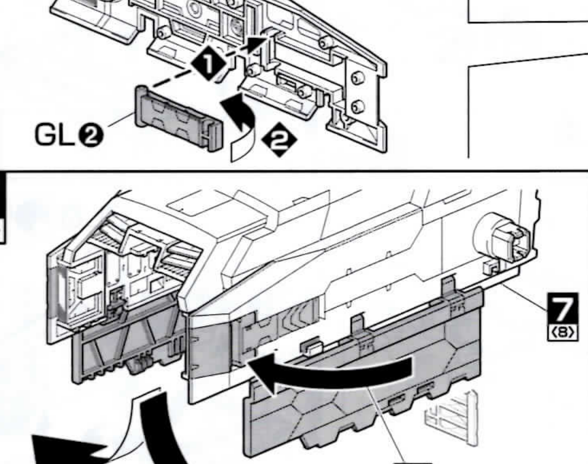
7 〈7〉



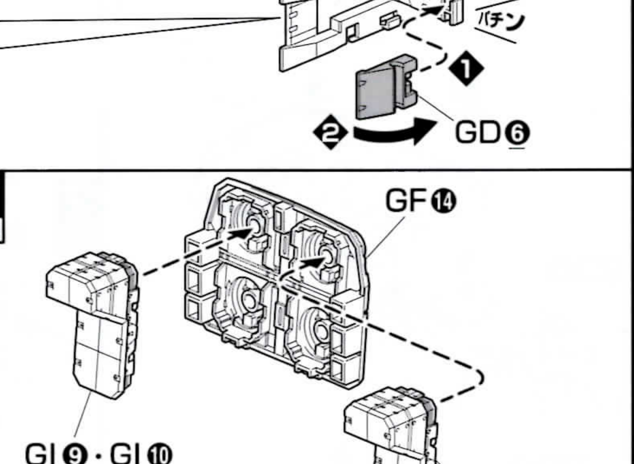
7 〈8〉



7 〈9〉

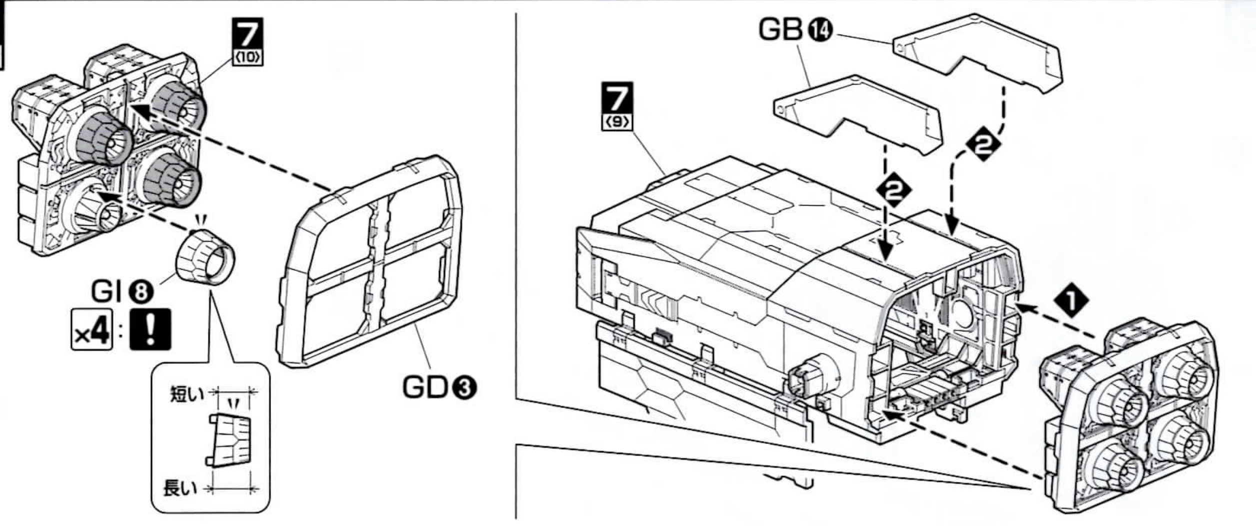


7 〈10〉

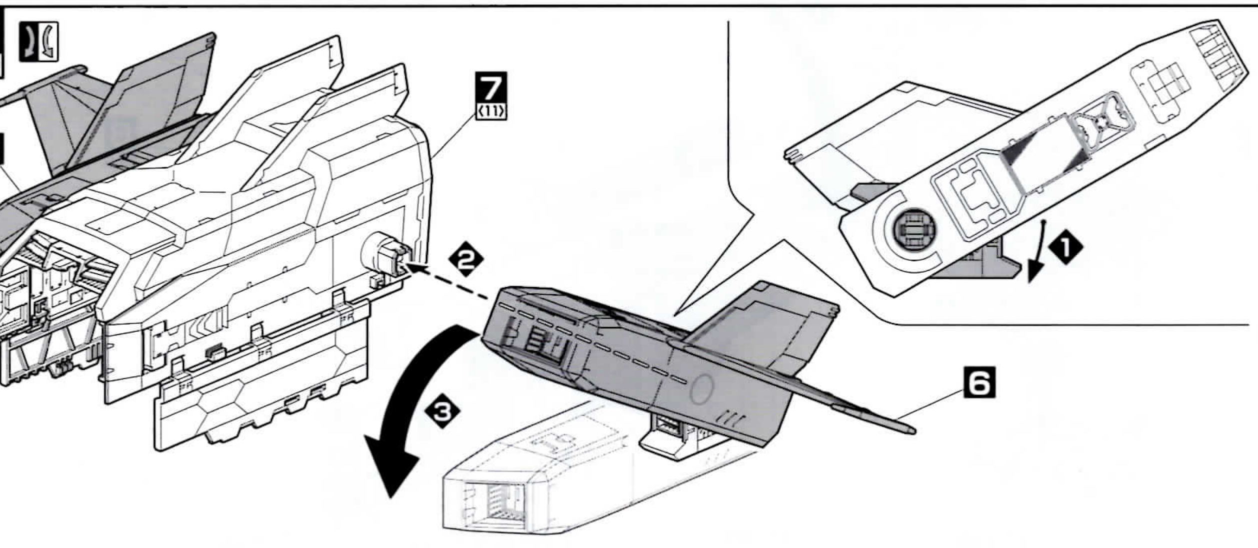


※組立図中の記号説明　両側を同じように動かす

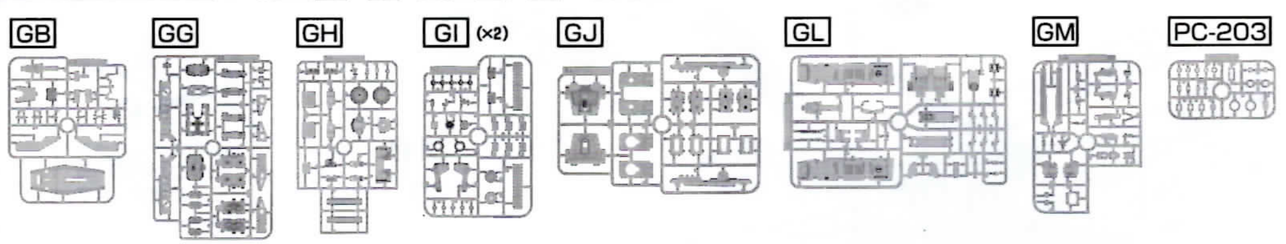
7 〈11〉



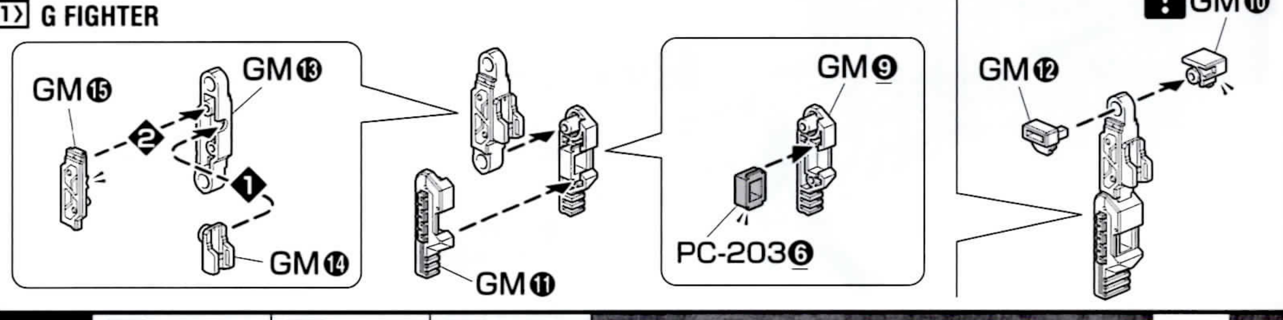
7 〈12〉

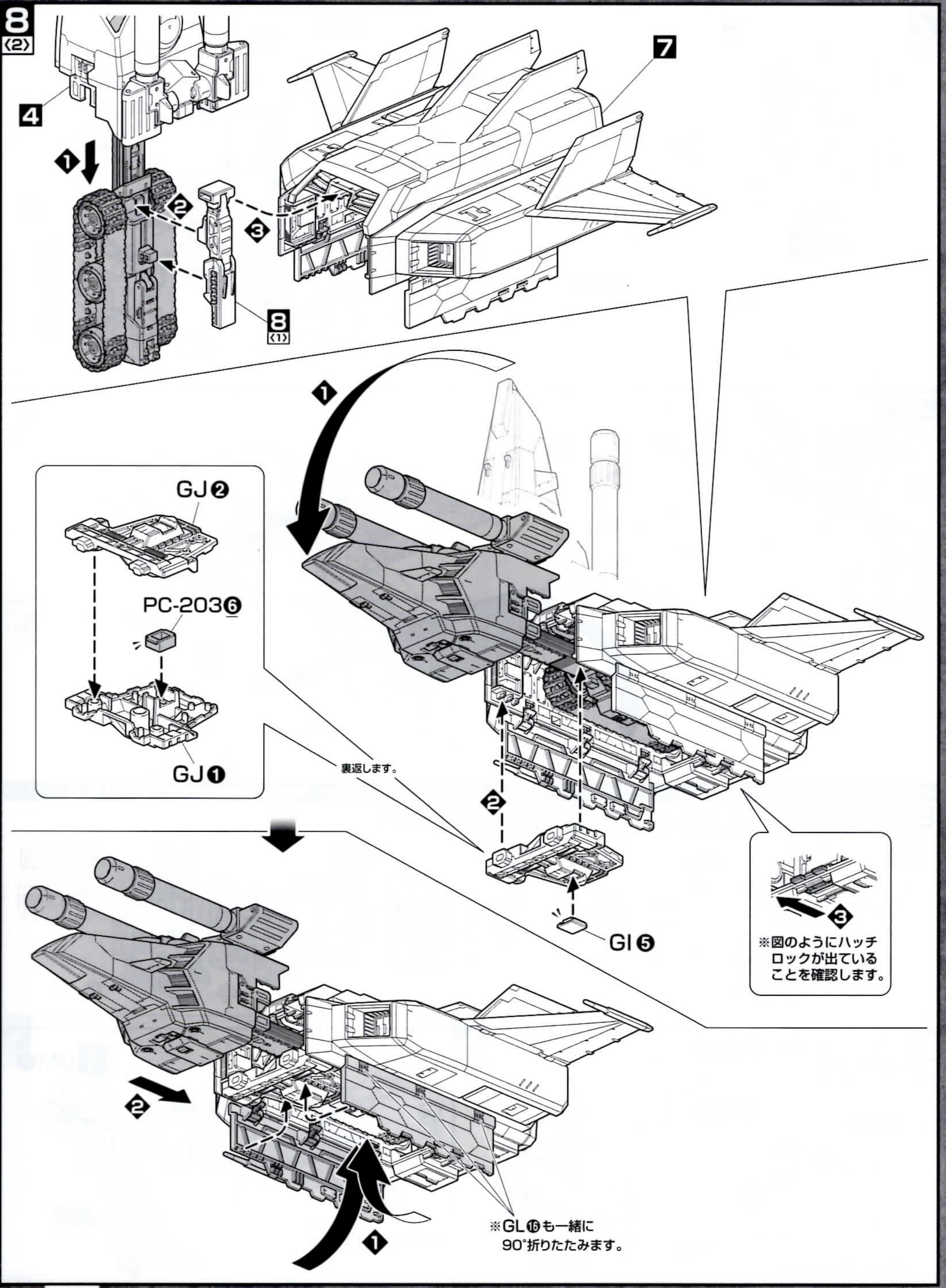


8 9 10 11 12 ・組立 8・9・10・11・12 で使用するパーツ



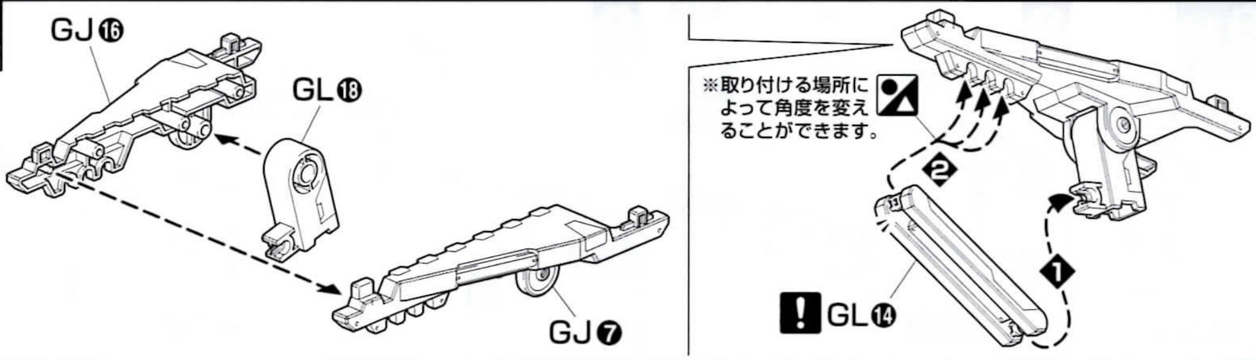
8 〈1〉 〔Gファイターの組立〕 G FIGHTER



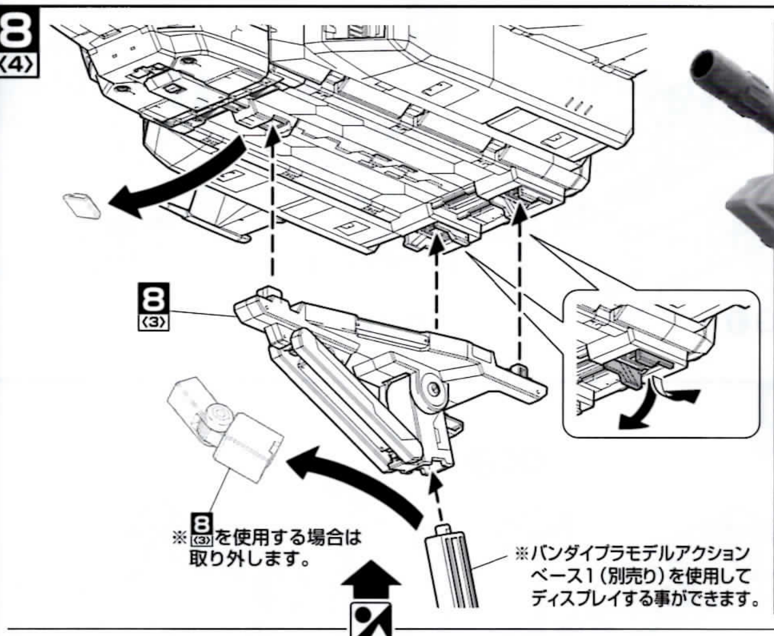


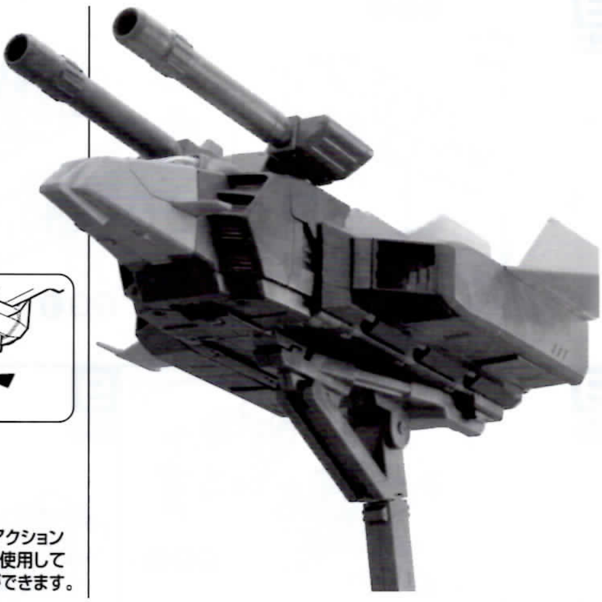
8
〈2〉
4
❶
❷
❸
7
8
〈1〉
❶
GJ❷
PC-203⑥
GJ❶
裏返します。
❷
GI❺
❸
※図のようにハッチロックが出ていることを確認します。
❷
❶
※GL⑯も一緒に90°折りたたみます。

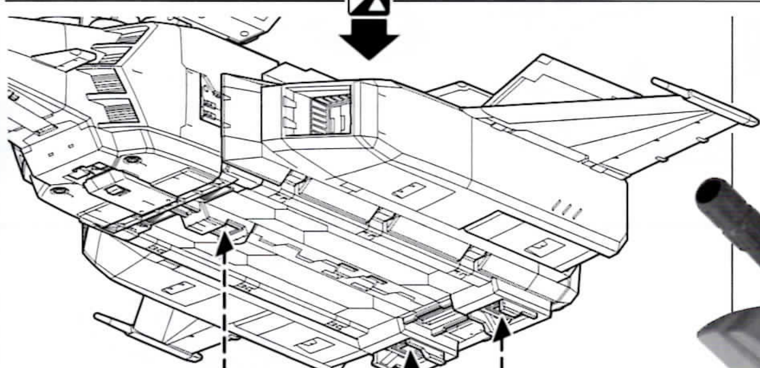
8
〈3〉

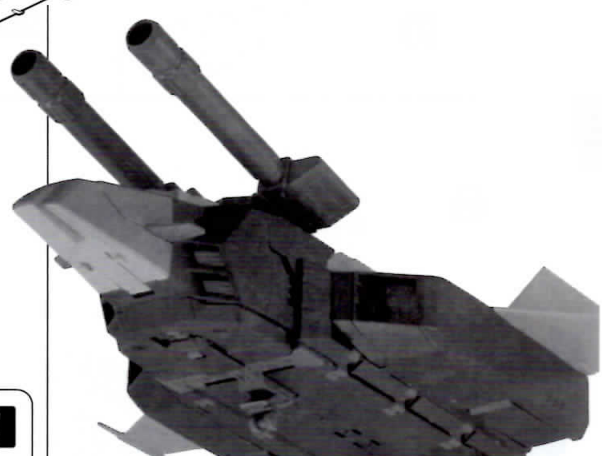


8
〈4〉



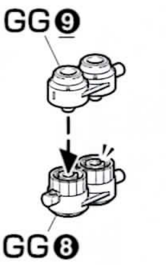




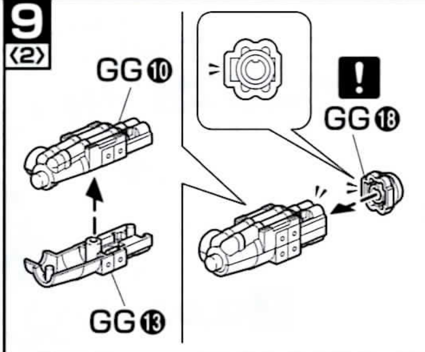


※組立図中の記号説明
! 向きに注意して組み立てる
どちらかを選んで取りつける
×2 部品を数個の個数作ります

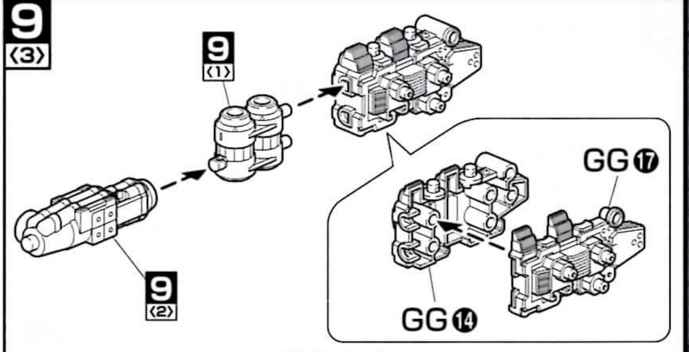
9 ⟨1⟩ ×2



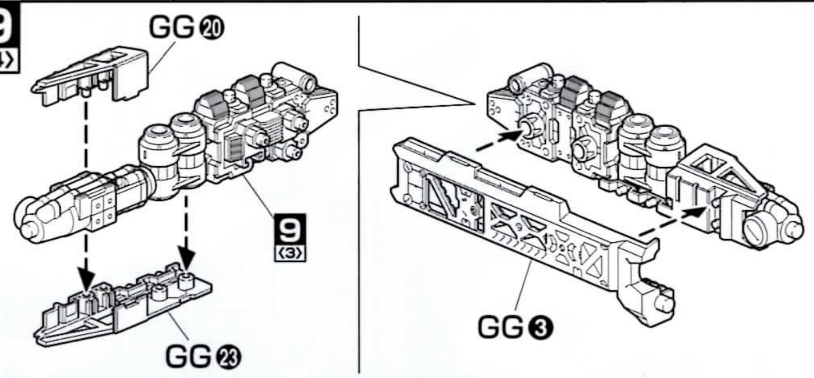
9 ⟨2⟩



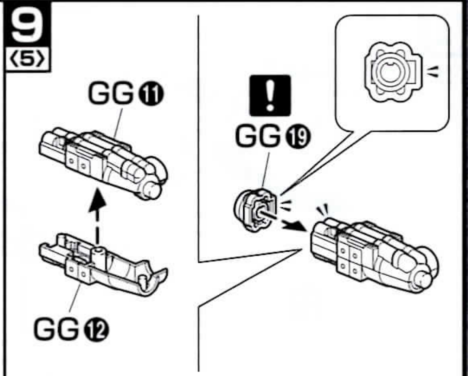
9 ⟨3⟩



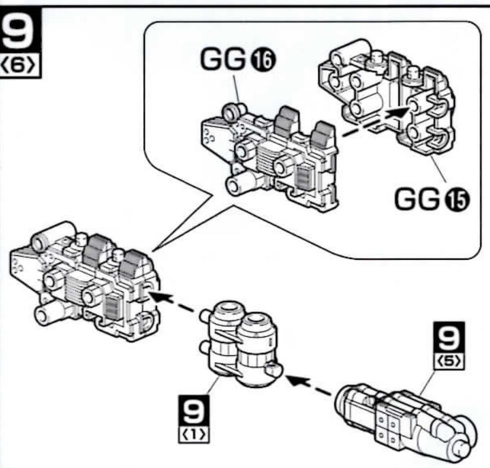
9 ⟨4⟩



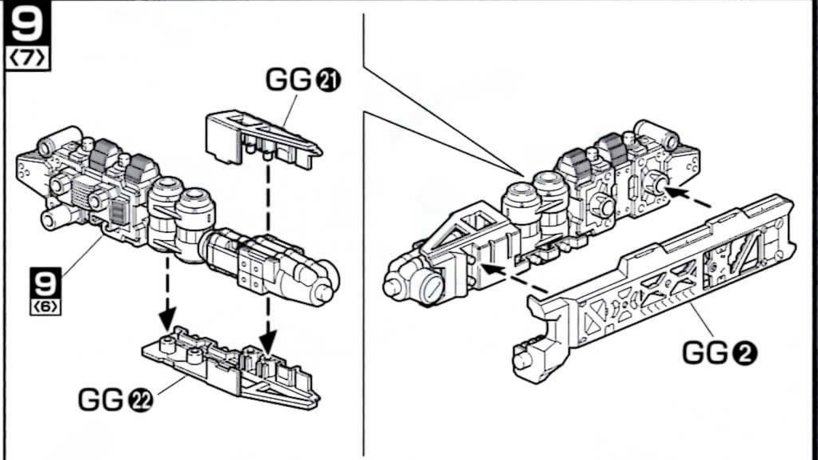
9 ⟨5⟩



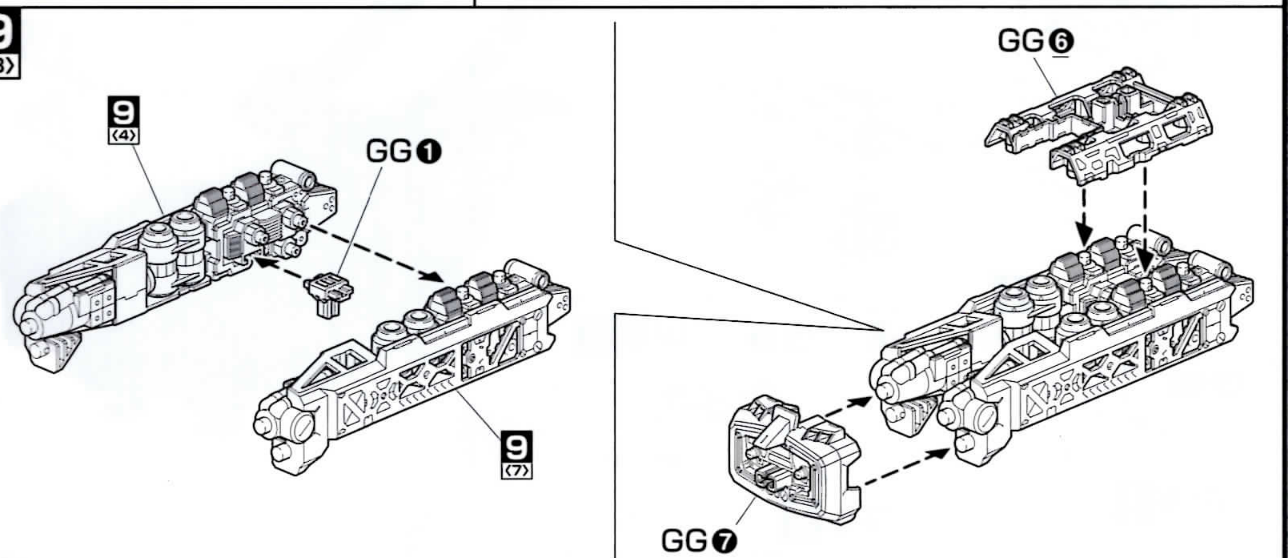
9 ⟨6⟩



9 ⟨7⟩



9 ⟨8⟩

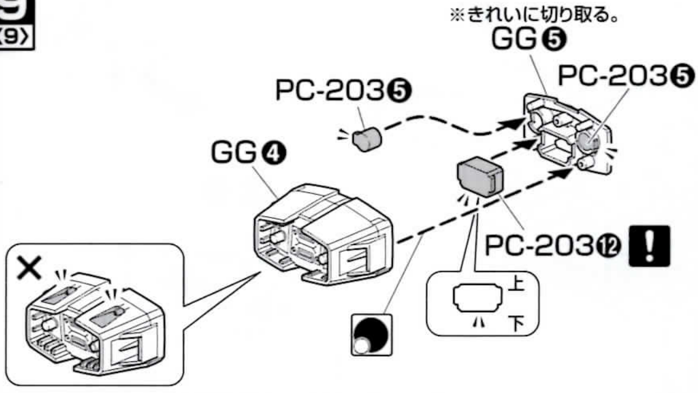


※組立図中の記号説明

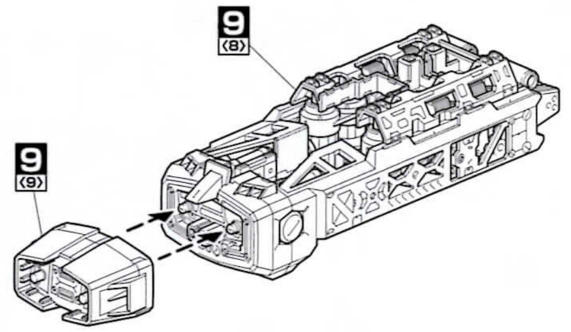
×2 部品を数値の個数作ります

! 向きに注意して組み立てる

9 〈9〉

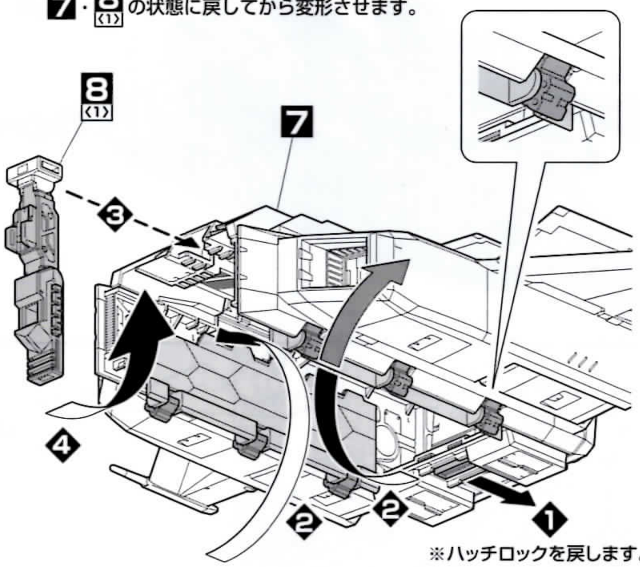


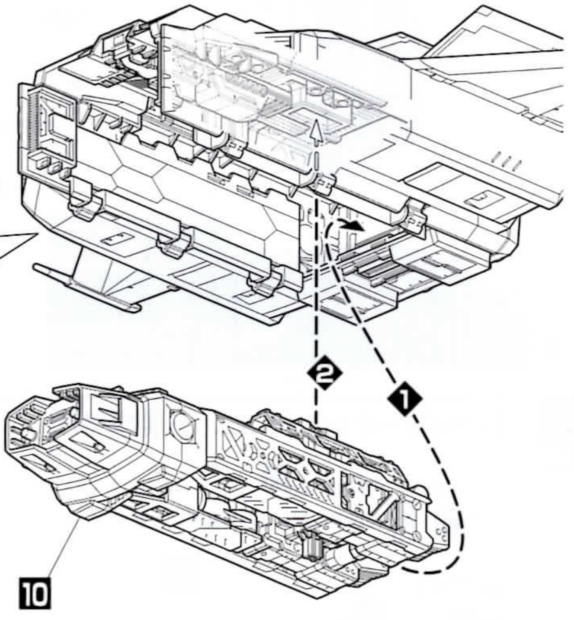
10



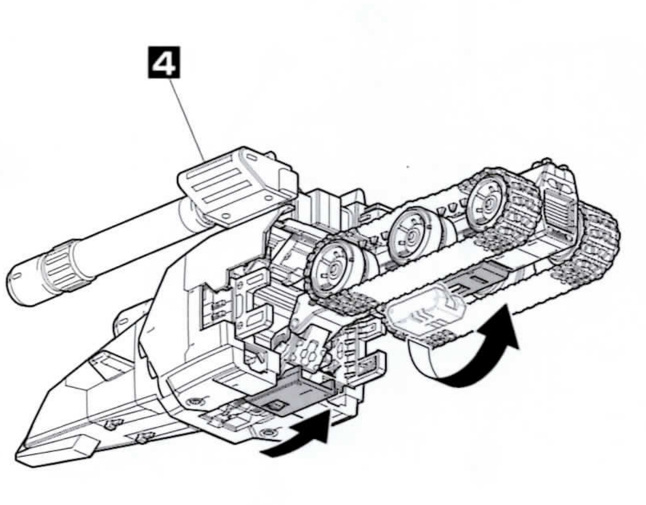
11 〈1〉 〔Gファイターキャタピラユニット半収納状態〕

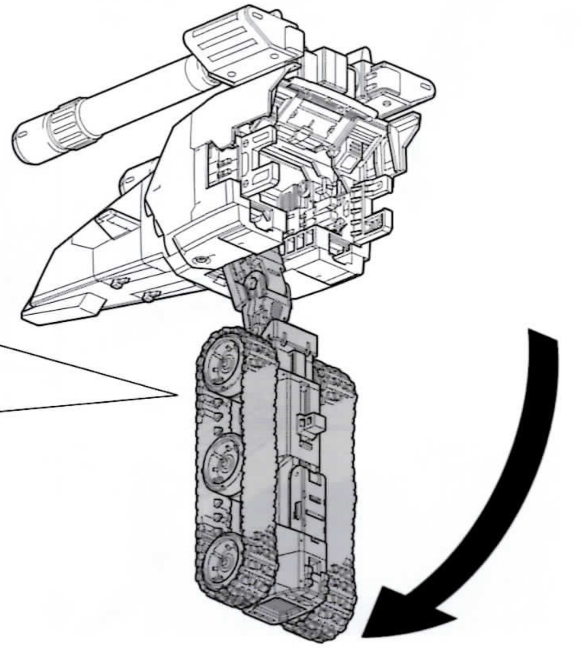
※Gファイター Aパーツを P29の 4 、Gファイター Bパーツを P33の 7・8〈1〉の状態に戻してから変形させます。



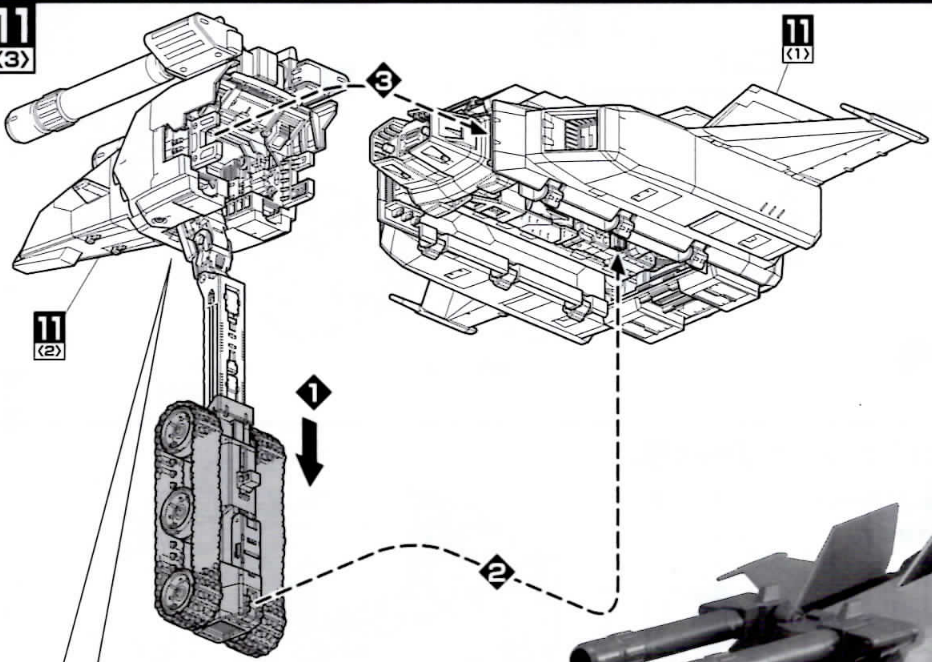


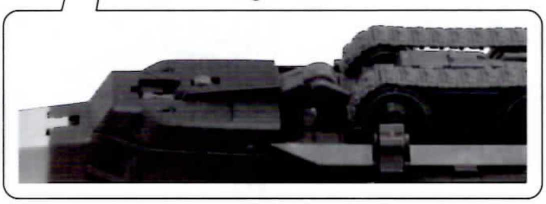
11 〈2〉

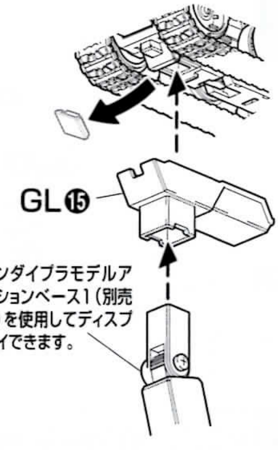




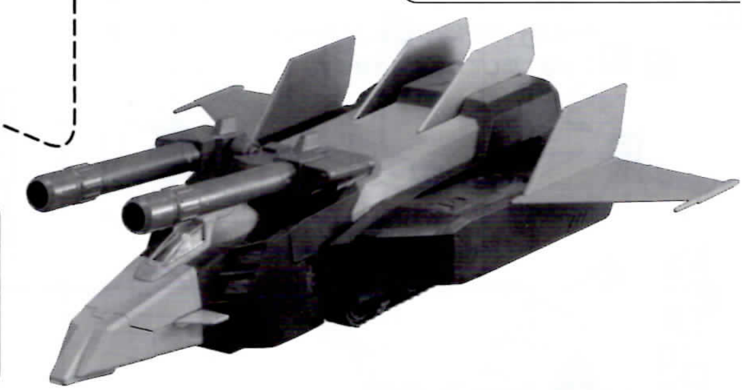
11 〈3〉





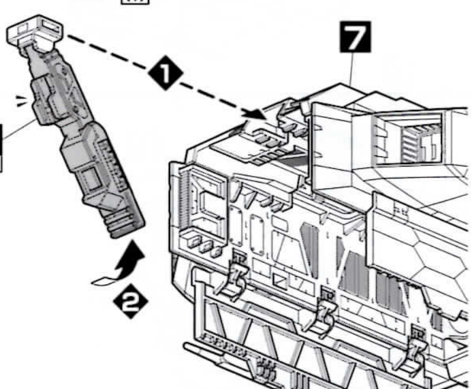


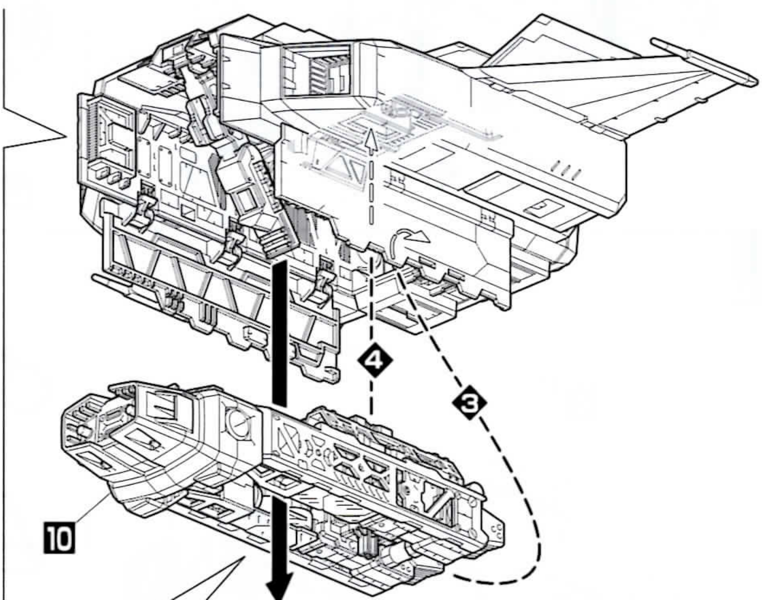
※バンダイプラモデルアクションベース1（別売り）を使用してディスプレイできます。

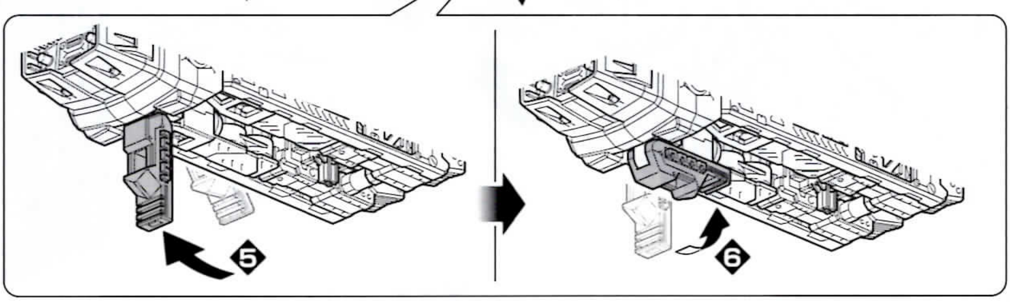


12 〈1〉〔Gファイターキャタピラユニット展開状態〕

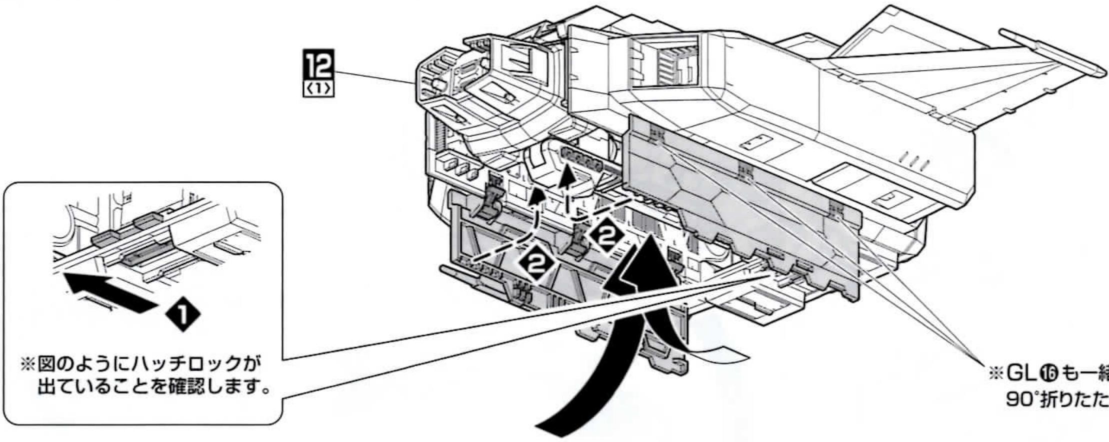
※GファイターAパーツをP37の11〈2〉、GファイターBパーツをP33の7・8〈1〉の状態に戻してから変形させます。



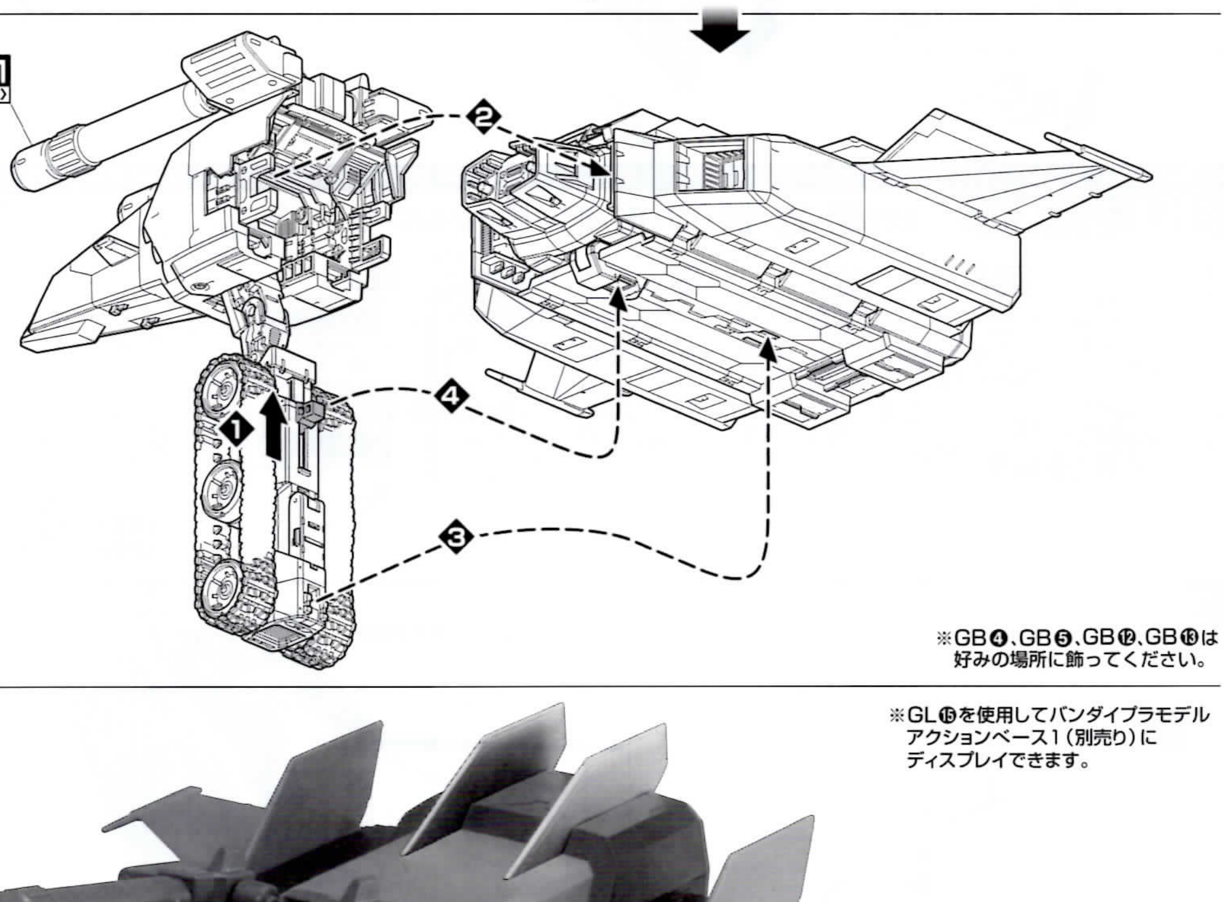




12 〈2〉

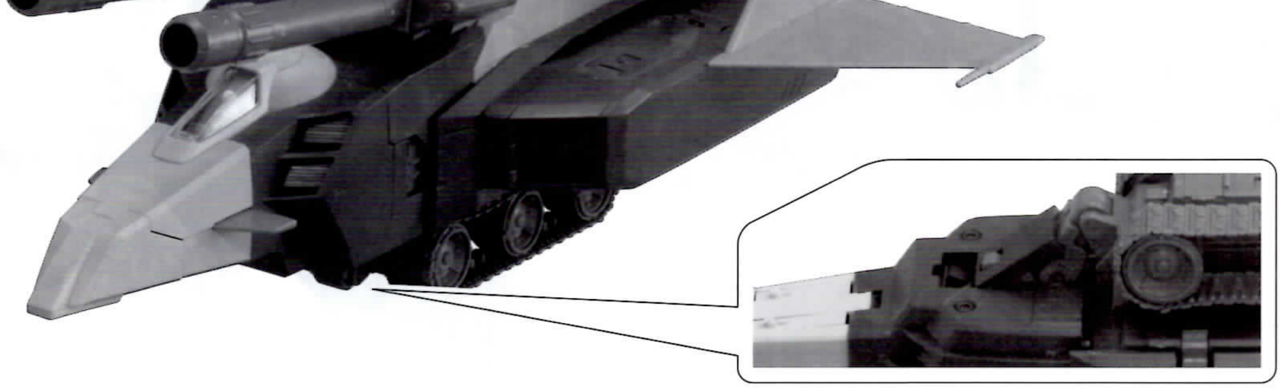


※GL⓰も一緒に
90°折りたたみます。

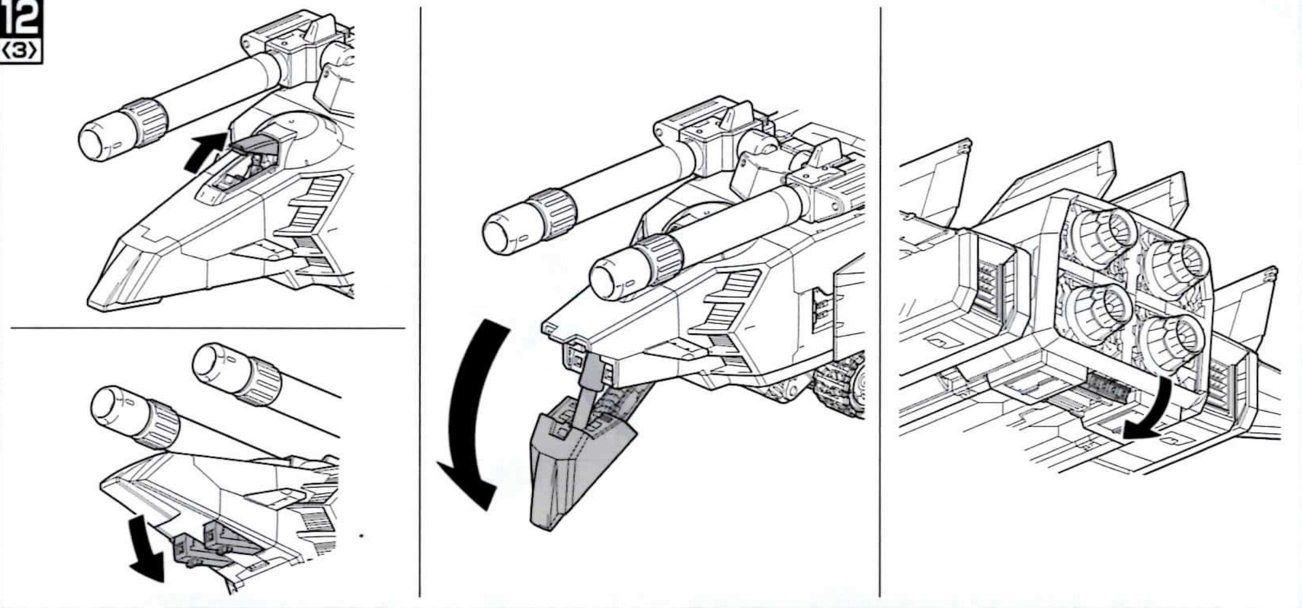


※GB❹、GB❺、GB⓬、GB⓭は
好みの場所に飾ってください。

※GL⓯を使用してバンダイプラモデル
アクションベース1（別売り）に
ディスプレイできます。

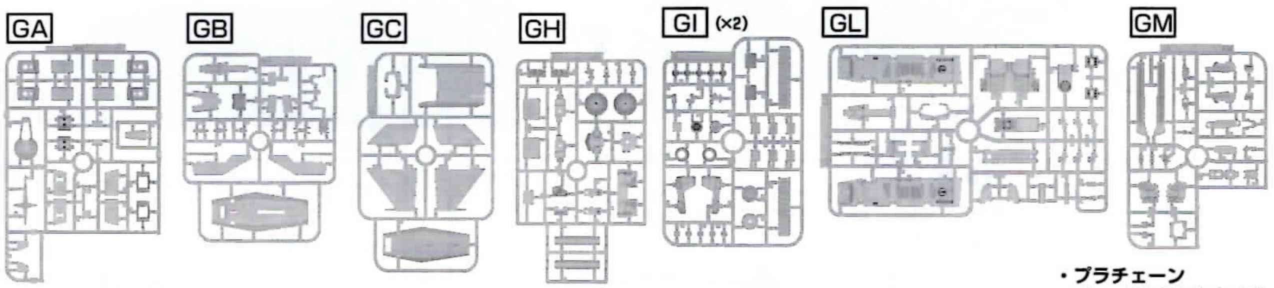


12 〈3〉



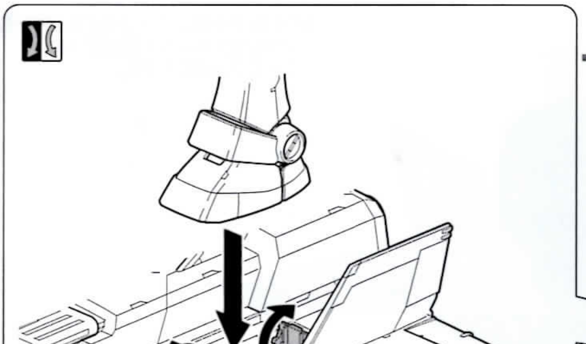
13 14 15 16 17 18

・組立 13・14・15・16・17・18 で使用するパーツ



・プラチェーン
・チェーンつなぎ（×2）

13

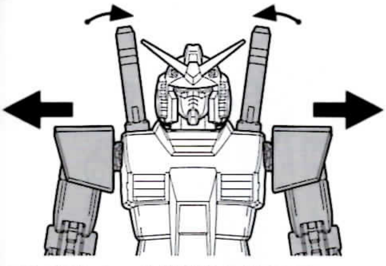




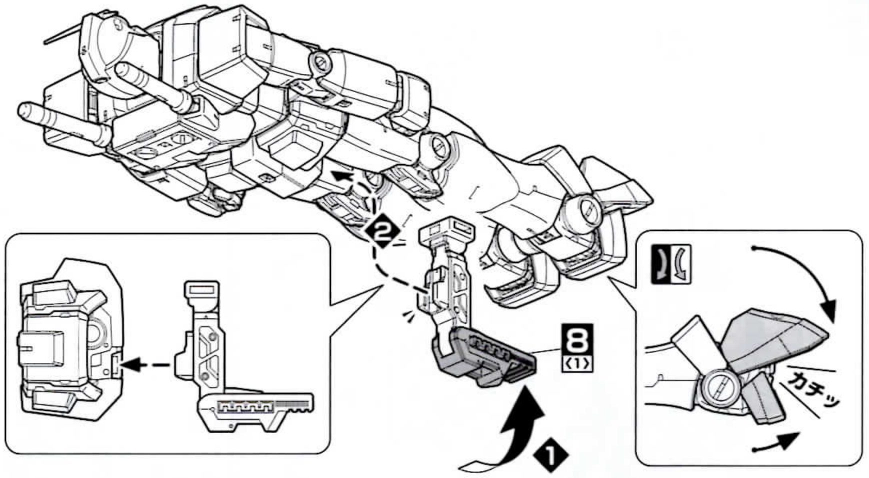
※組立図中の記号説明　両側を同じように動かす

14 〈1〉 〔Gアーマー〕

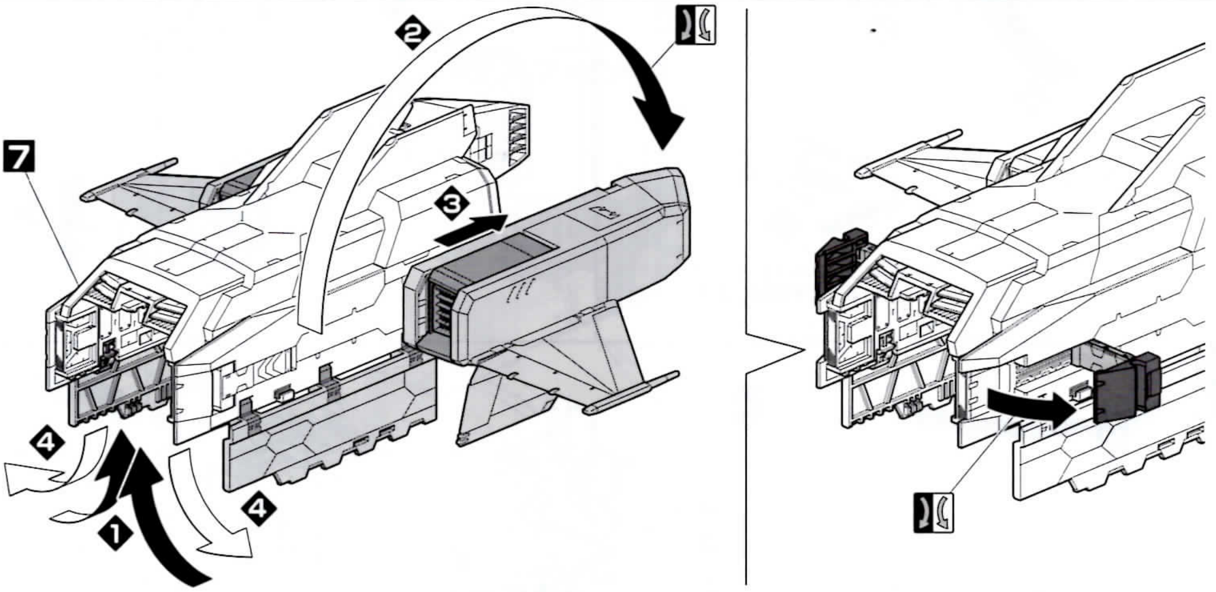
※GファイターAパーツをP37の 11〈2〉、GファイターBパーツをP33の 7・8〈1〉 の状態に戻してから変形させます。



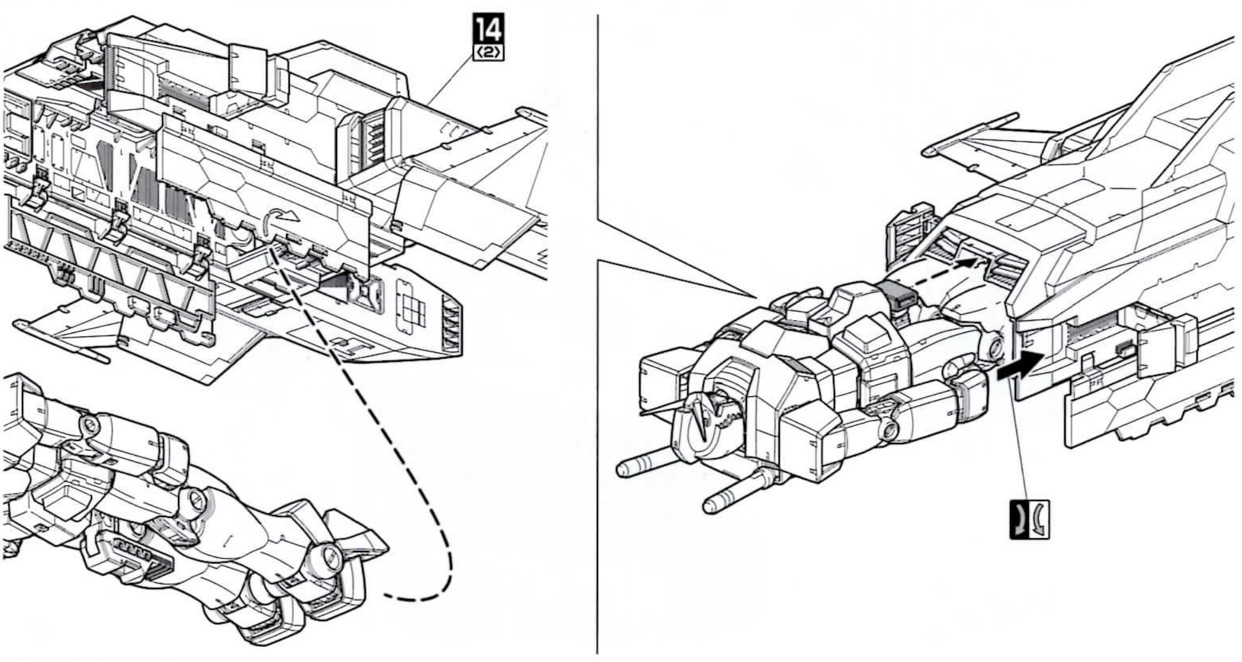
※ライフル・シールドは外しておきます。



14 〈2〉

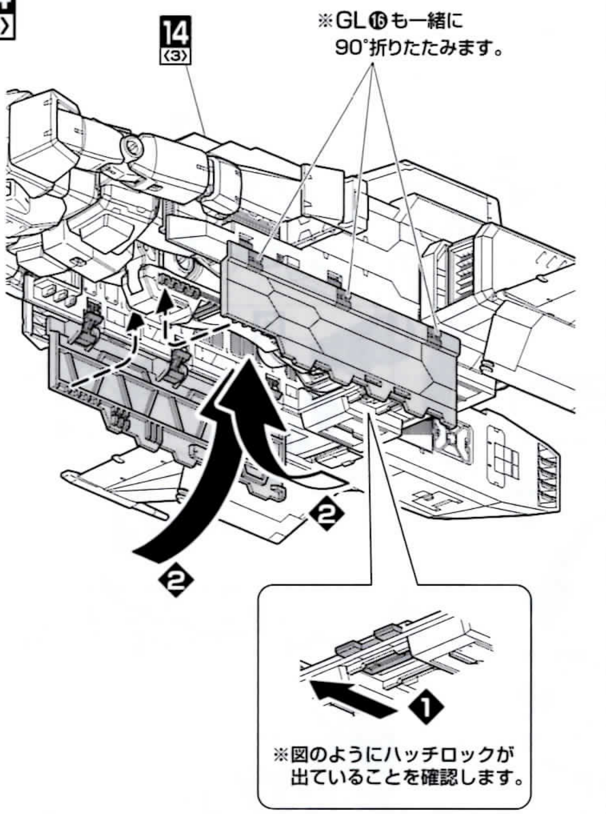


14 〈3〉

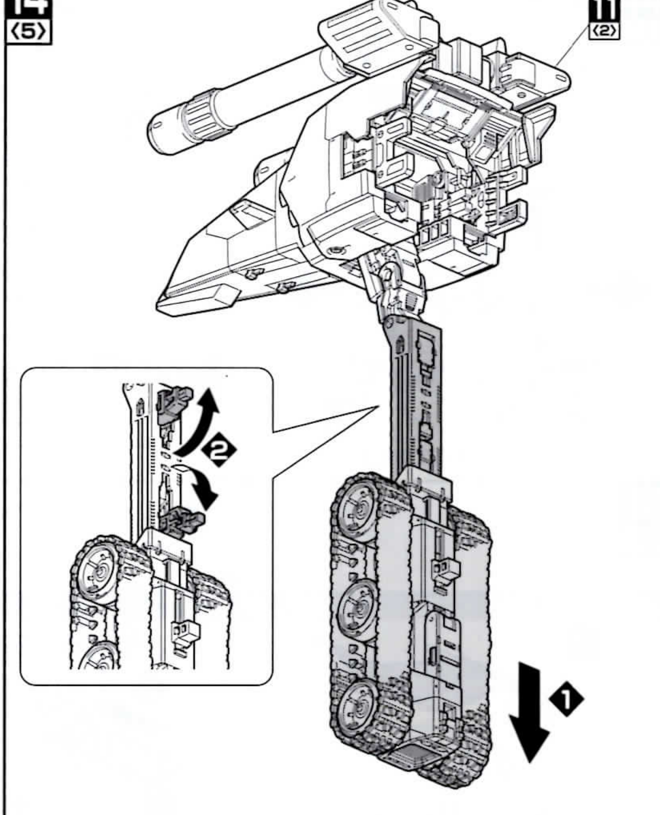


※組立図中の記号説明　両側を同じように動かす

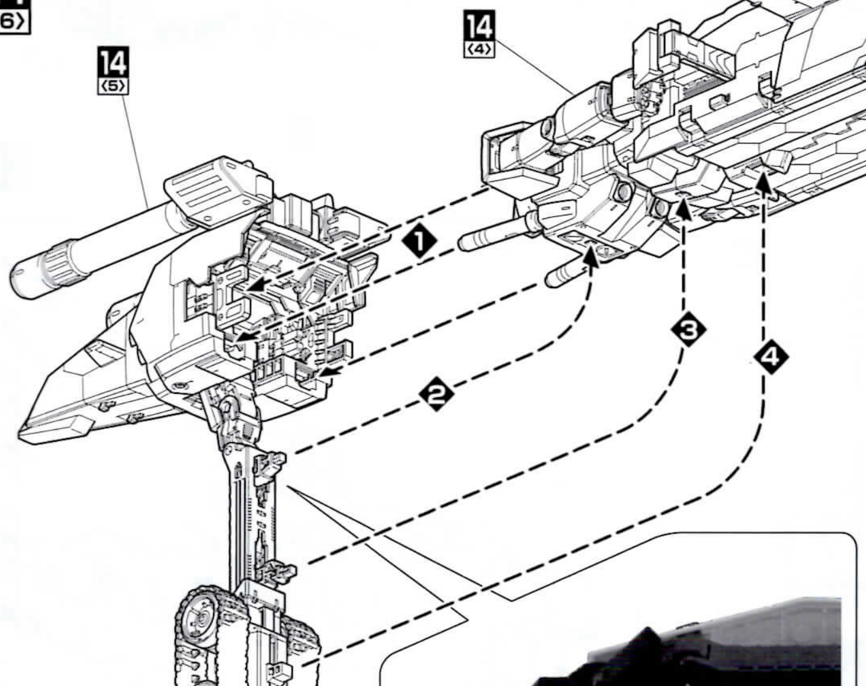
14 〈4〉



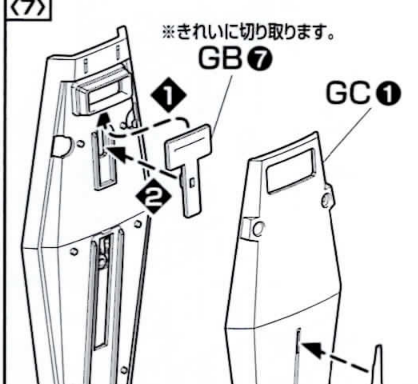
14 〈5〉



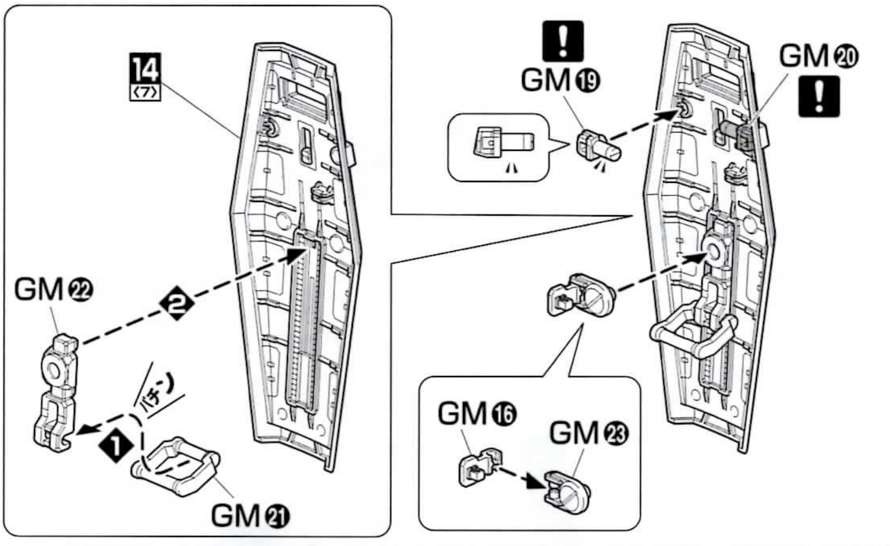
14 〈6〉



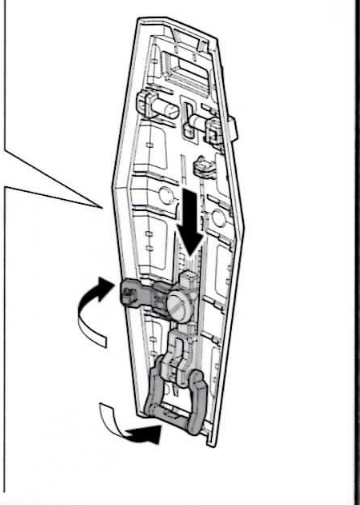
14 〈7〉 〔左腕用シールドの組立〕



14 〈8〉

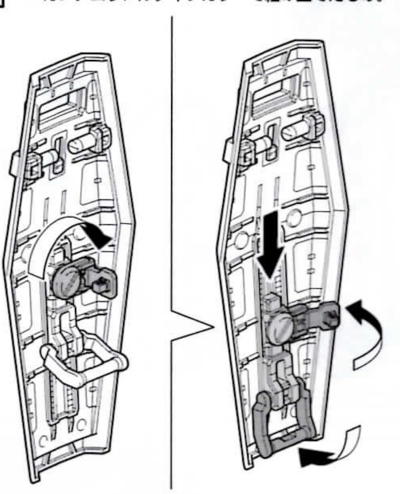


〈左腕用〉



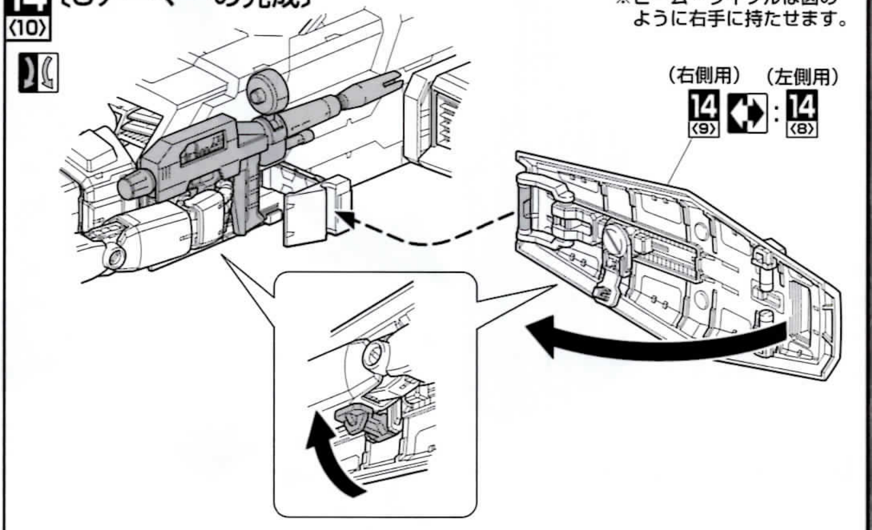
14 〈9〉

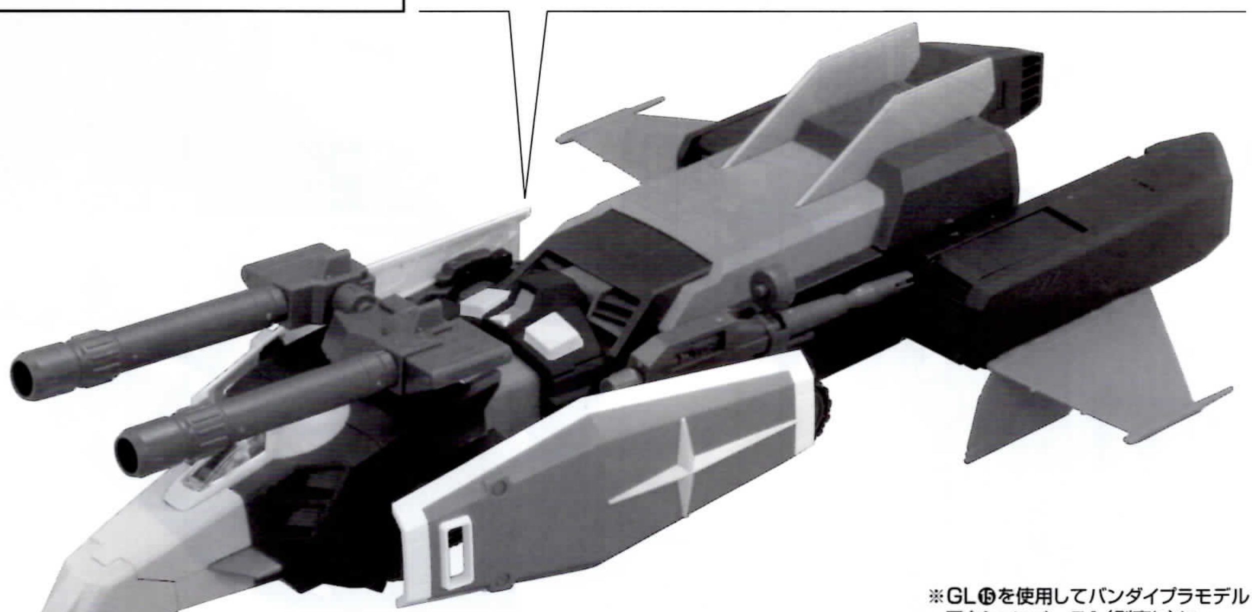
〈右腕用〉
※ガンダムリアルタイプカラーで組み立てたもの。



14 〈10〉 〔Gアーマーの完成〕

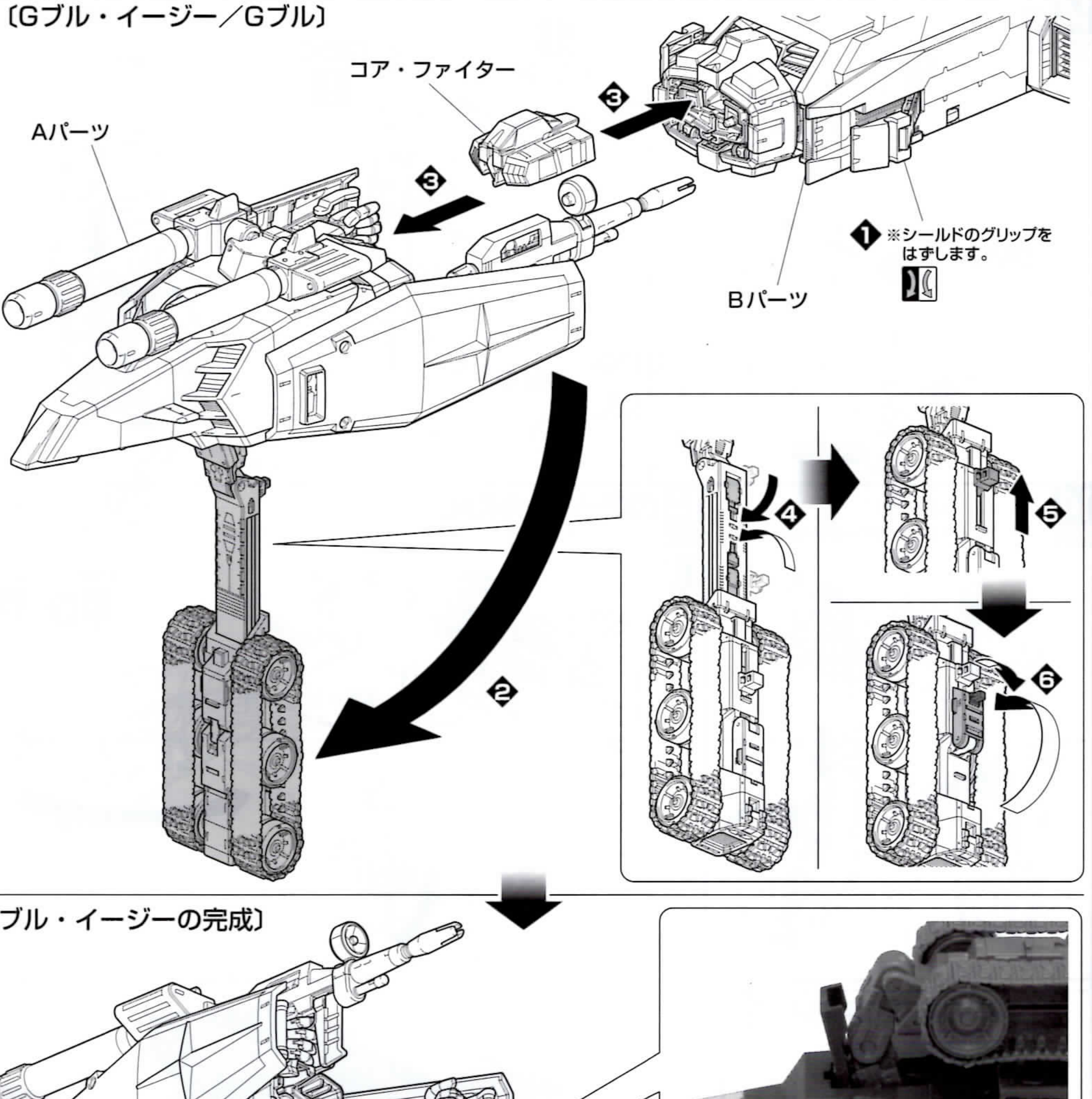
※ビーム・ライフルは図のように右手に持たせます。



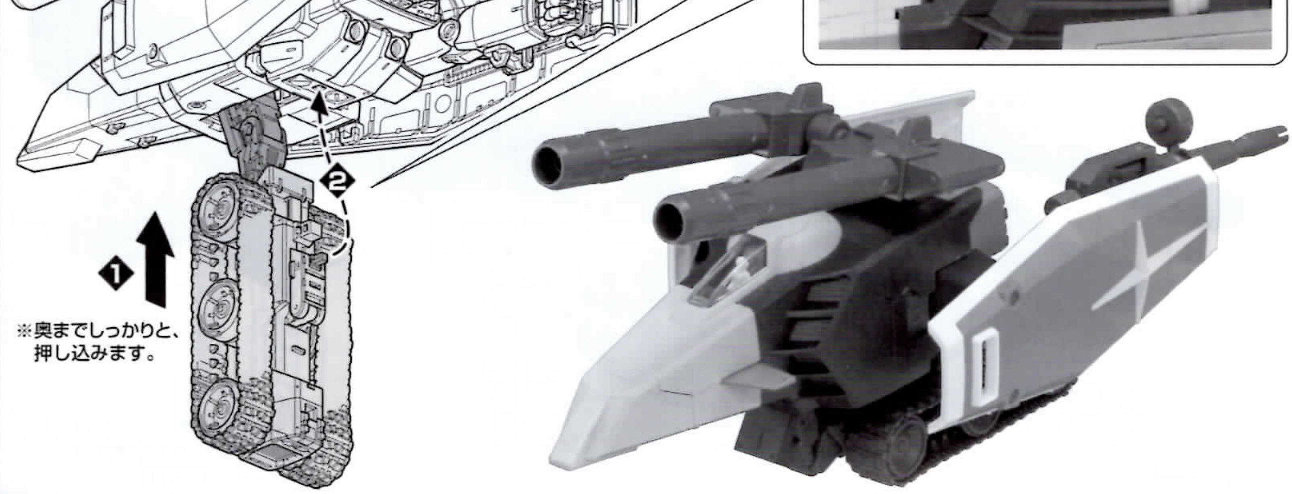


※GL⑮を使用してバンダイプラモデルアクションベース1（別売り）にディスプレイできます。

15 〈1〉〔Gブル・イージー／Gブル〕

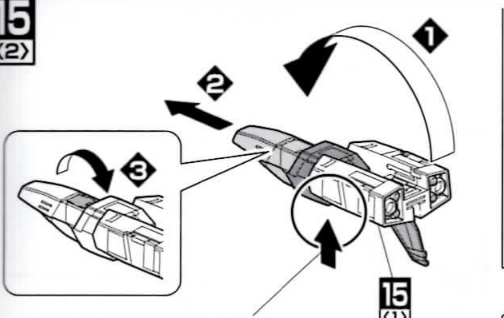


〔Gブル・イージーの完成〕



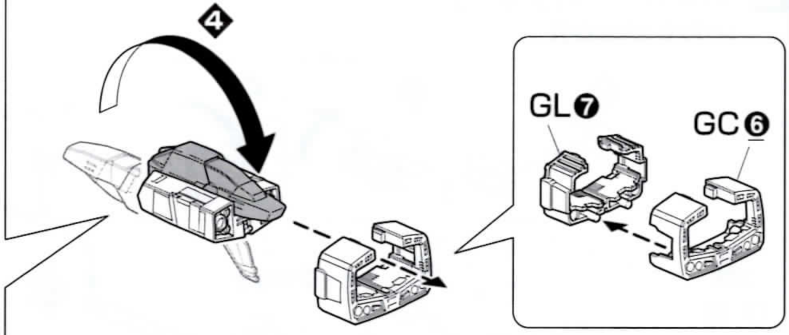
※組立図中の記号説明 両側を同じように動かす

15 〈2〉

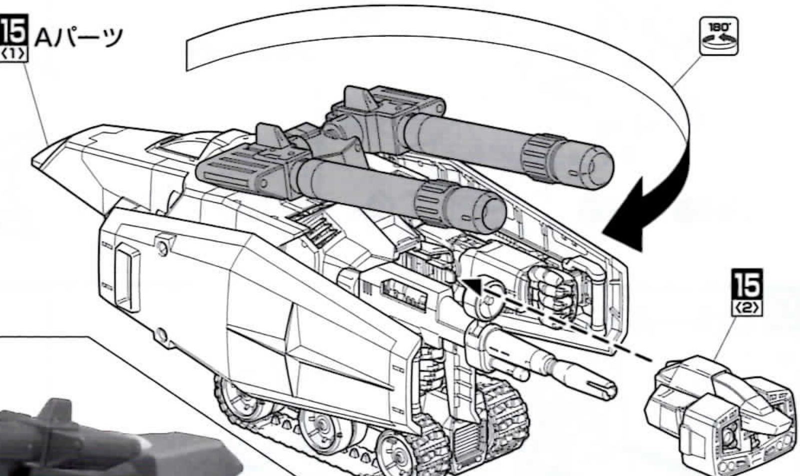


コア・ファイター

※元に戻す場合は、図の部分を指で押さえながら注意して戻してください。

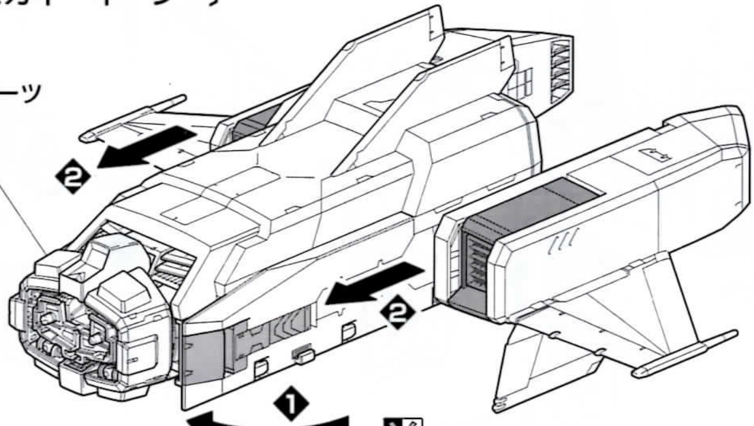


15 〈3〉 〔Gブルの完成〕

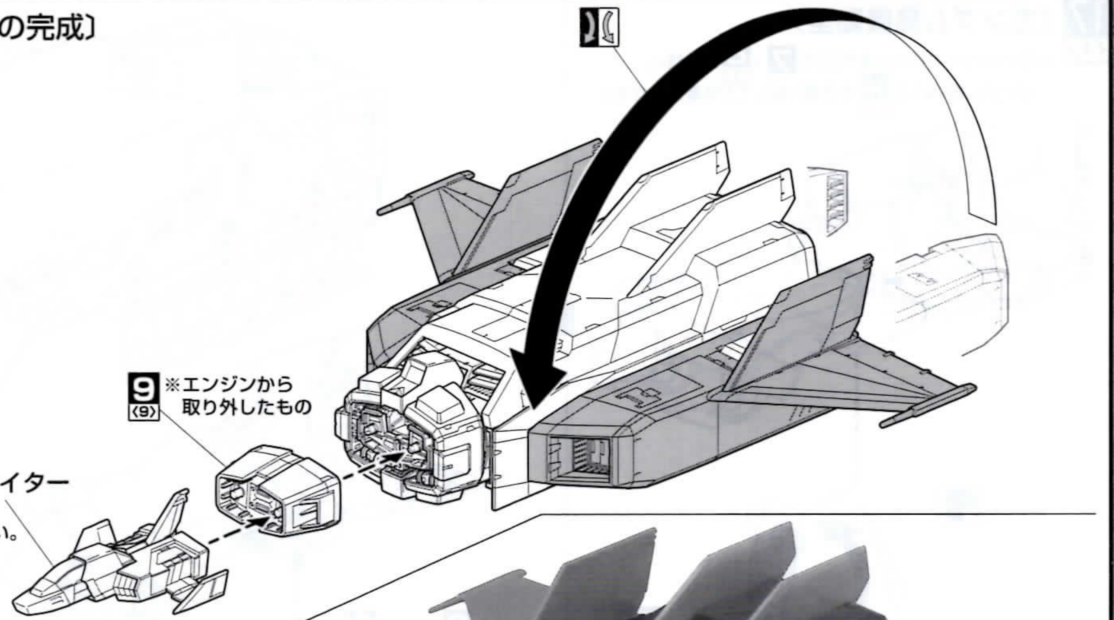


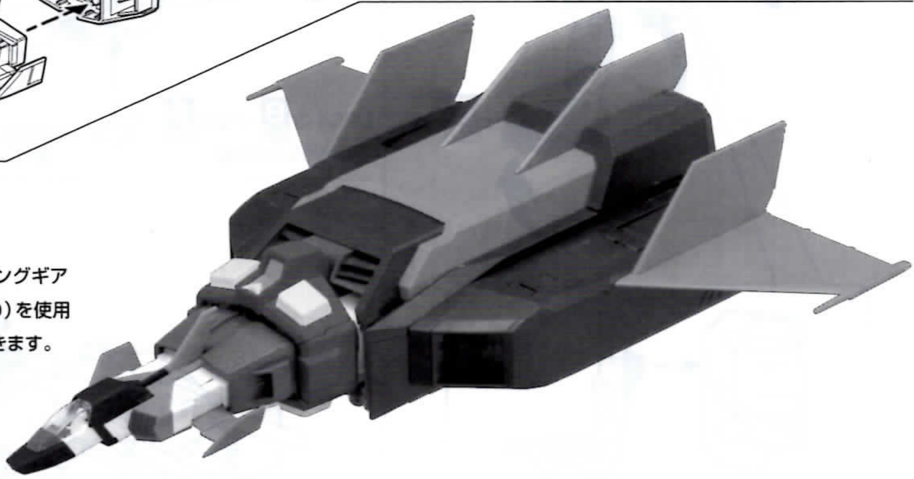


16 〈1〉 〔Gスカイ／Gスカイ・イージー〕



16 〈2〉〔Gスカイの完成〕

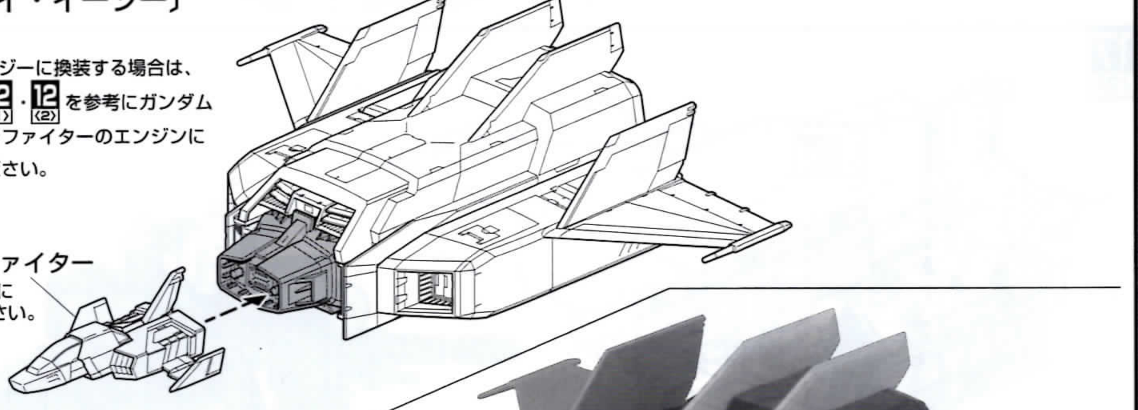


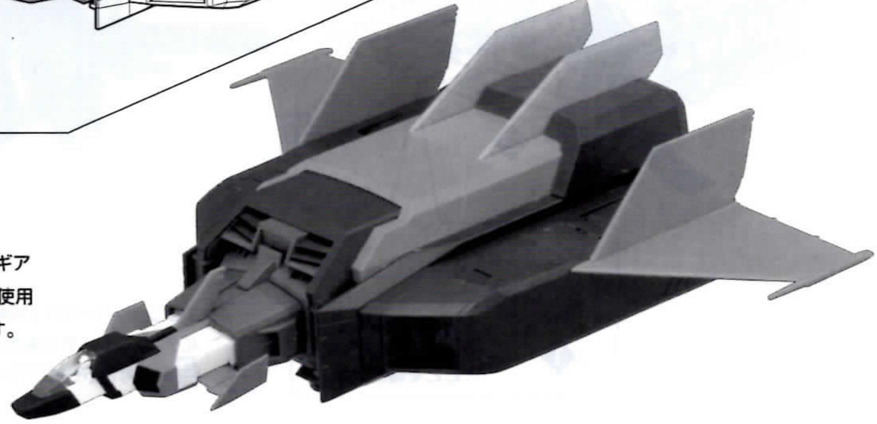


※P35の 8 〈4〉 を参考にランディングギア
又はアクションベース1（別売り）を使用
してディスプレイすることができます。

16 〈3〉〔Gスカイ・イージー〕

※Gスカイ・イージーに換装する場合は、
P38～39の 12 〈1〉・12 〈2〉 を参考にガンダム
のBパーツをGファイターのエンジンに
載せ替えてください。



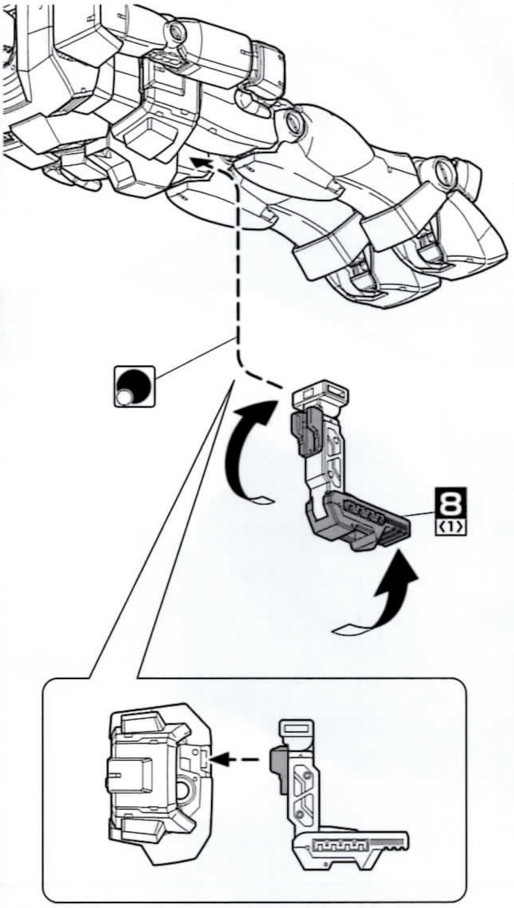


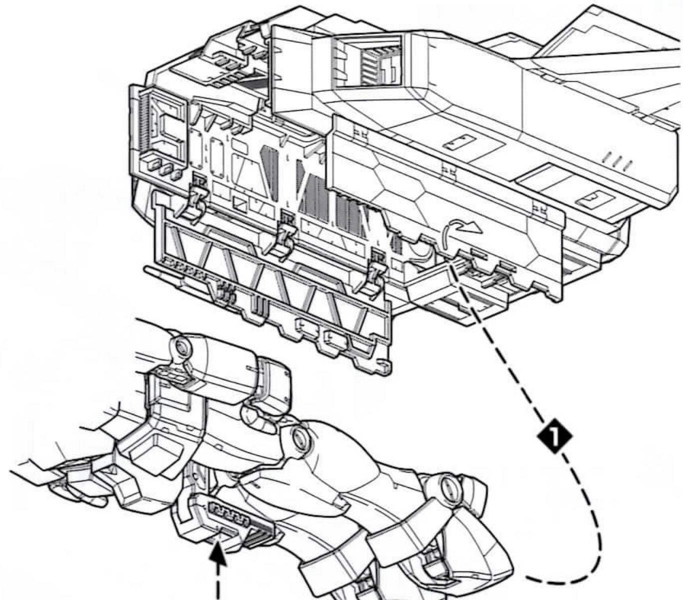
※P35の 8 〈4〉 を参考にランディングギア
又はアクションベース1（別売り）を使用
してディスプレイすることができます。

※組立図中の記号説明
両側を同じように動かす

17 〈1〉 〔ガンダム高機動型〕

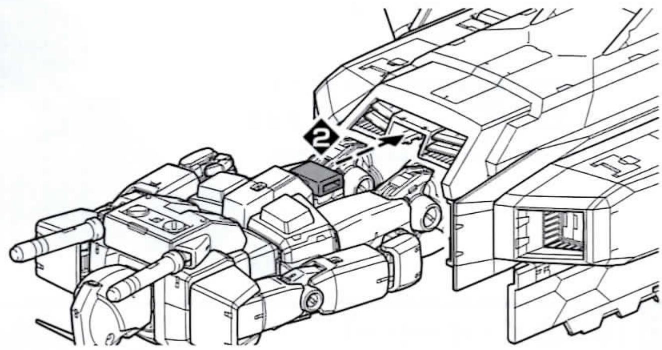
※GファイターBパーツをP33の 7 ・ 8〈1〉 の状態に、
ガンダムをP41の 14〈1〉 の状態に戻してから変形させます。



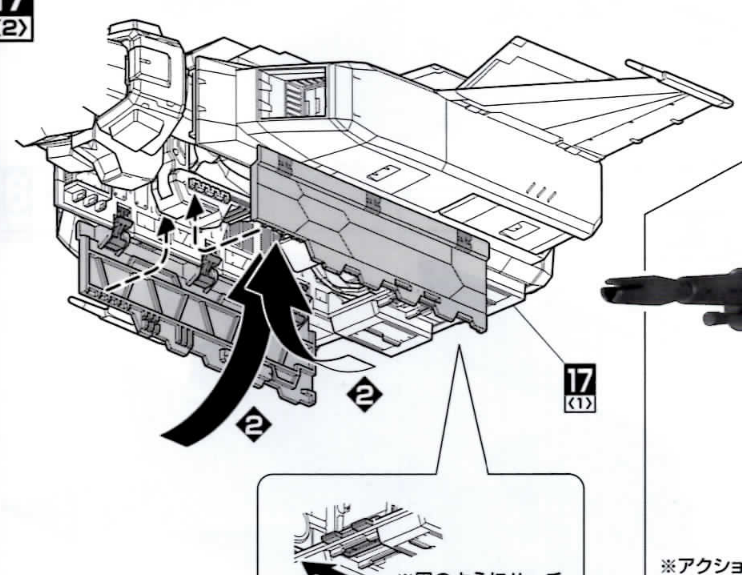


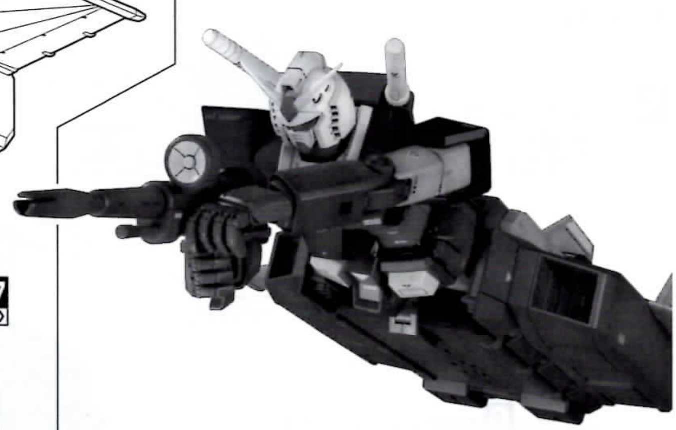
※P34の 8〈2〉・P35 8〈4〉 で使用した GI ❺。

※台座に取り付けない時に使用してください。



17 〈2〉



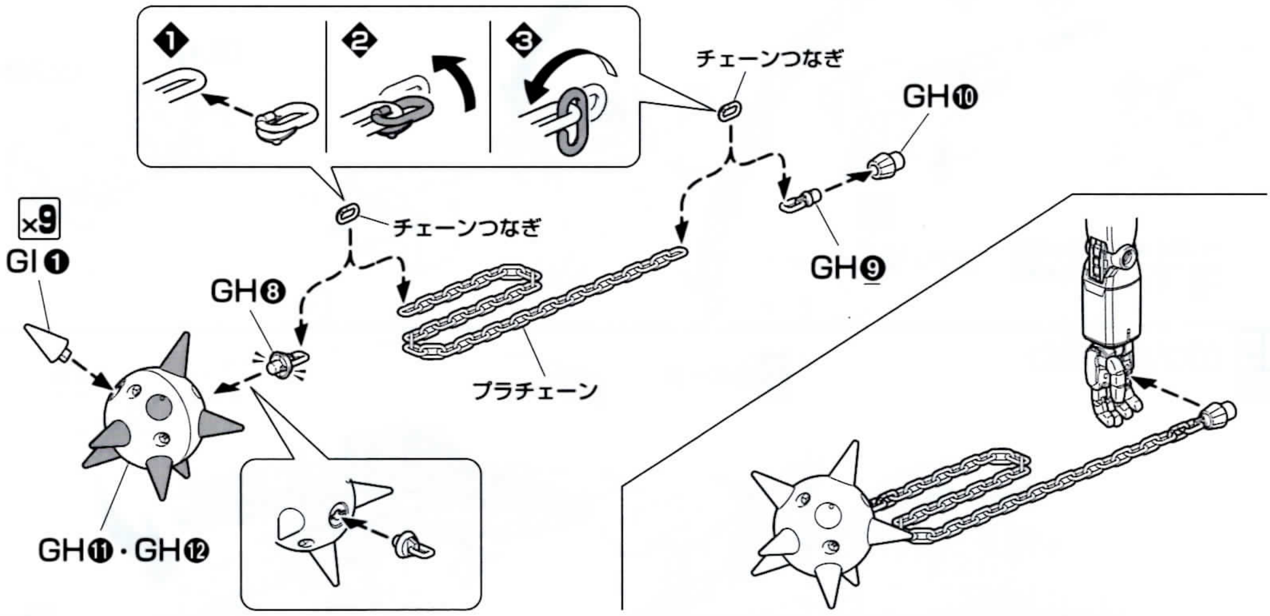


※アクションベース1（別売り）にディスプレイする場合は、P35 8〈4〉 を参考に取り付けてください。

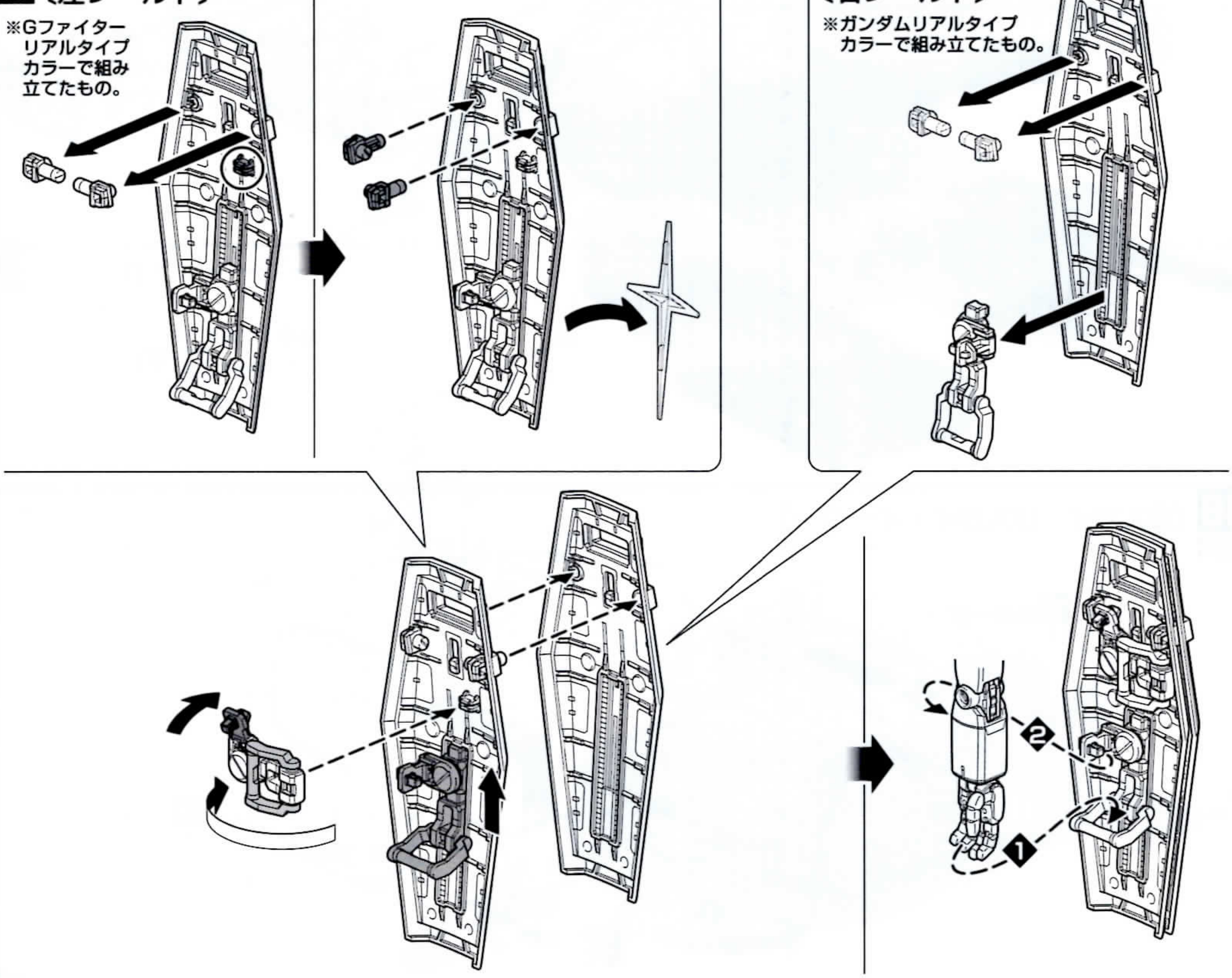
※組立図中の記号説明

後から組み立てる

18 〔ハイパー・ハンマー〕
HYPER HAMMER



19 〔左シールド〕 〔右シールド〕

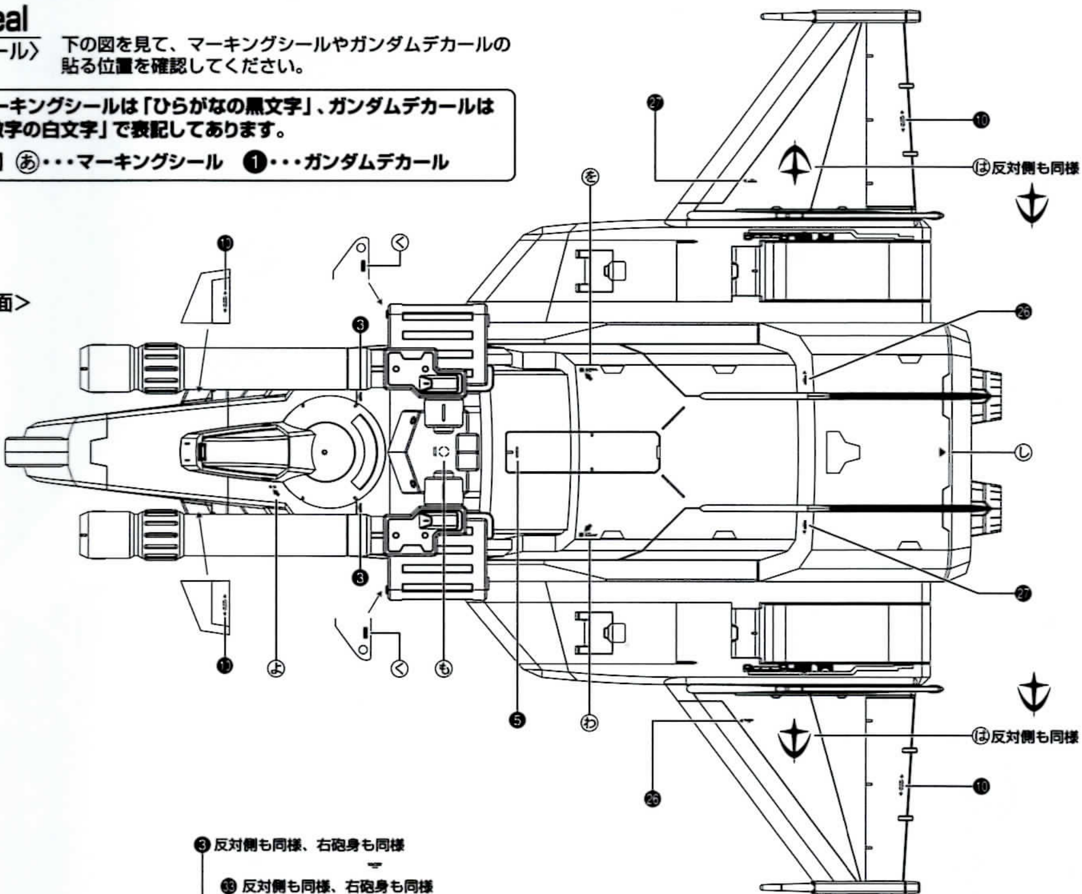


※組立図中の記号説明 ×9 部品を数値の個数作ります

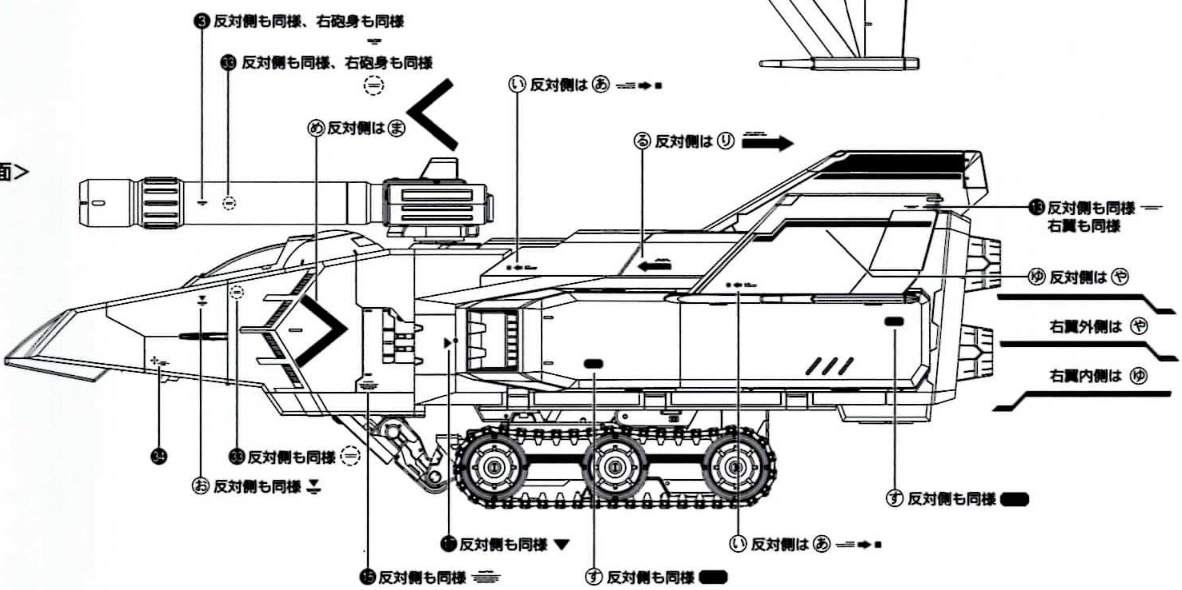
Seal
〈シール〉 下の図を見て、マーキングシールやガンダムデカールの貼る位置を確認してください。

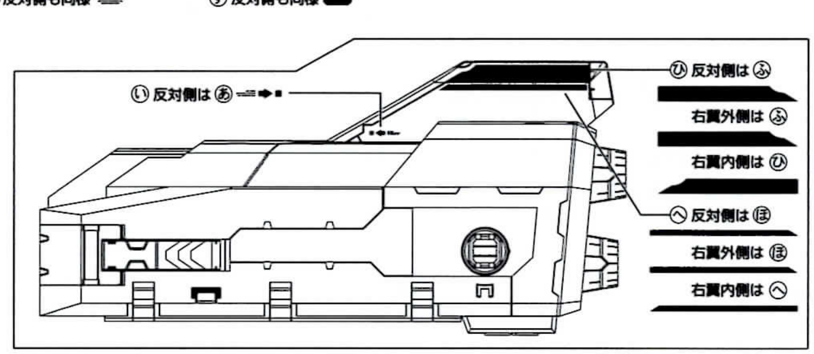
マーキングシールは「ひらがなの黒文字」、ガンダムデカールは「数字の白文字」で表記してあります。
【例】 あ・・・マーキングシール ❶・・・ガンダムデカール

<上面>



<側面>





※余ったマーキングシールやガンダムデカールは好きな所に貼ってください。

1/100 scale MASTER GRADE G-ARMOR REALTYPE COLOR



MG
MASTER GRADE

地球連邦軍
試作型戦術支援メカ
Gアーマー リアルタイプカラー
1/100スケール マスターグレードモデル

G-ARMOR